

文部科学省委託事業

令和4年度

道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業

報告集



青森県道徳教育推進協議会

発 刊 に よ せ て

青森県道徳教育推進協議会

会 長 原 子 雄 治

文部科学省は、令和3年度道徳教育実施状況調査の結果、「教師の意識が高まった」など、「特別の教科」化が目指した量的確保、質的転換の面で一定の成果を認めながらも、道徳教育の更なる充実に向けた課題として、指導力の維持・向上等を挙げています。本県では、学校教育指導の重点として、道徳教育の充実が掲げられていますが、この「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」もその方策の一つであり、特に、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てる指導の工夫に重点を置き、教員の指導力向上、道徳科の授業実践（特に「発問の吟味」や「指導と評価の一体化」）について、更なる研究に取り組む必要が求められているものと理解しています。

その中で、今年度は、階上町立石鉢小学校並びに階上町立道仏中学校が支援事業の委託を受け、研究を深めました。

階上町立石鉢小学校では、「児童の実態に応じた『考え、議論する道徳』～児童の道徳的価値に対する考え方、感じ方、生き方を善進させる授業づくり～」を研究主題とし、児童一人一人の実態を踏まえながら、議論につながる主発問を中心とした授業づくりの工夫に取り組みました。加えて、特別活動における道徳教育を学校名に絡め「石鉢磨き」として行ったことは、児童の一体感を高めることにもつながっていきました。

階上町立道仏中学校では、「対話を通じ自分の考えを広げ深める力を育てる指導方法の研究～自分の考えを再構築し、より深く理解する活動を通して～」を研究主題に、全体計画に道徳教育に係る重点項目を設け、自校の教育課題の解決に向けて取り組んできました。とりわけ、道徳科の授業では「道徳的価値にせまる内容になっているか」「自分事として考えられているか」「思考が再構成され、深まっているか」を教師が強く意識するようになりました。

両校は共に、「道徳性調査」「道徳科アンケート」等を実施し、PDCAサイクルで研究を深め、組織的に実践研究に取り組みました。結果として、教師の授業に対する自信や児童生徒の自己肯定感が高まったり、内容によっては、自分をより厳しく評価したりと興味深い結果も得られています。

学習指導要領で育成を求められている資質・能力の一つ「学びに向かう力、人間性等」の涵養や、「自己の考えを広げ深める」「問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりする」ことの視点について考えていくためには、道徳性を切り離すことはできないでしょう。道徳科の目標には、小学校では「自己の生き方についての考えを深める」、中学校では「人間としての生き方についての考え方を深める」という言葉があります。両校は、小・中学校の発達の段階を俯瞰したことにより、分かりきった課題ではなく、「話し合いたい」と思う授業にまで高まったのではないのでしょうか。

各学校におかれましても、両校のすばらしい実践を参考にしつつ、実態に即した形で生かしていただければ幸いに存じます。

最後に、本事業推進に当たり御支援、御尽力いただきました階上町立石鉢小学校並びに階上町立道仏中学校、三八教育事務所、階上町教育委員会をはじめ、関係の皆様は御礼を申し上げますとともに、本報告集が道徳教育の指針の一つとして活用されることを祈念し、発刊の挨拶といたします。

挨拶

青森県教育庁

学校教育課長 高橋 英樹

道徳教育については、「特別の教科 道徳」が全面実施となってから、小学校では5年目、中学校では4年目となりました。また、高等学校においては、今年度から年次進行で実施となる新学習指導要領において、道徳教育推進教師を設置すること、公民の「公共」「倫理」及び特別活動が道徳活動の中核的な指導の場面であることが明記されており、学校教育における道徳教育の充実がより一層重要となっております。今後は、更なる道徳教育の充実に向けた研修の機会充実のため、教科化以降の実践的知見の見える化・共有化を図っていくことが求められます。

このため、県教育委員会では、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもつことができるよう、道徳教育の充実を学校教育指導の方針と重点の一つに掲げ、地区道徳教育研究協議会や県総合学校教育センターでの研修など、道徳教育推進のための様々な施策を展開するとともに、文部科学省委託事業「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の中で、道徳教育推進協議会の開催、研究指定校による特色ある道徳教育の実践、道徳教育パワーアップ協議会の開催等に取り組んで参りました。

今年度は、階上町教育委員会の御指導の下、階上町立石鉢小学校、階上町立道仏中学校が研究指定校として研究実践に当たってくださいました。両校とも、道徳教育を推進する指導体制の整備・充実、道徳科における多様で効果的な指導方法の改善・充実、家庭・地域との連携による道徳教育の取組など、学習指導要領の趣旨に沿った道徳教育の充実に向けた実践を通じた研究が行われました。

両校の実践は、道徳教育パワーアップ協議会において全県から集まった参加者に対して発表され、今年度の研究の成果を広く周知することができました。グループ協議では、意見交換が活発になされるなど、参加者の興味・関心の高さがうかがわれるとともに、自校の道徳教育の取組への参考になったことと思います。

本報告集は、両校の取組の成果等をまとめたものですが、県内全ての学校において、児童生徒の豊かな心の育成のため積極的に活用し、教育活動全体を通して自校の道徳教育の充実に役立てていただきたいと思います。

最後に、本報告集の作成に当たり、日々の教育実践を積み重ね、大きな研究成果を挙げられた階上町立石鉢小学校、階上町立道仏中学校、御指導いただいた階上町教育委員会、県道徳教育推進協議会会長である青森市立浪打小学校原子校長及び副会長である青森市立南中学校渡邊校長をはじめとする協議会委員の皆様には感謝申し上げます。御挨拶いたします。

も く じ

○発刊によせて 青森県道徳教育推進協議会 会長 原 子 雄 治

○挨拶 青森県教育庁 学校教育課長 高 橋 英 樹

○階上町立石鉢小学校

道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業完了報告書

1 道徳教育に関する改善状況の概要	1
2 実施した研究内容	2
3 実施経過とその体制	5
4 取組の成果と課題	6

学習指導案

第2学年1組	24
第3学年1組	27
第5学年1組	29

資料

道徳教育全体計画	31
----------	----

○階上町立道仏中学校

道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業完了報告書

1 道徳教育に関する改善状況の概要	33
2 実施した研究内容	34
3 実施経過とその体制	38
4 取組の成果と課題	39

学習指導案

第1学年A組	44
第2学年A組	46
第3学年A組	48

資料

1 道徳教育の全体計画	50
2 第1学年特別の教科道徳年間指導計画	51
3 第2学年特別の教科道徳年間指導計画	53
4 第3学年特別の教科道徳年間指導計画	55

階上町立石鉢小学校



道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業 完了報告書

(階上町立石鉢小学校)

1 道徳教育に関する改善状況の概要

本校は昨年度までの4年間、児童のコミュニケーション能力を向上させることをねらいとして校内研修を進めてきた。それは学力向上を図るというねらいであることのほかに、友達とのトラブルが多かったり、不登校傾向の児童が多かったりするなどの諸問題が多いという実態を改善するという側面ももっていた。

しかし、諸問題は増加する一方で、その対処に追われ、教育活動が停滞してしまうこともあり、道徳教育や特別活動教育に力を入れる必要性があった。

他方、道徳の教科化、新学習指導要領の完全実施を受けて道徳教育の充実を目指してきたが、今年度春に本校職員にアンケートをとったところ、道徳の授業の進め方に不安をもつ職員が非常に多いことが分かった。

これらを受け、今年度は道徳教育の抜本的改善・充実に図るために校内研修において、「児童の実態に応じた『考え、議論する道徳』～児童の道徳的価値に対する考え方、感じ方、生き方を善進させる授業づくり～」を研究主題に掲げた。そして、学校目標を受けて設定した道徳教育の重点目標「正しく判断する力」の育成を目指し、課題解決までのプロセス（課題を【つかむ】、考えを【もつ】、【聞く、話す】、他者の考えを【認める】、色々な考えを【磨く】、自分で【決める】、【振り返る】、次に【いかす】）を「石鉢磨き」と位置付け、身に付けさせるべく、次の3点を改善項目として挙げた。

※善進：本校の造語。今の自分より少しでもよりよい生き方になるよう、気付いたり、考えが広がったり深まったり実際に行動できるようになったりすること。

(1) 石鉢磨き

道徳科の授業における石鉢磨きを研究することにより、多種多様な環境の中で様々な関わりを大切にしながら、教育活動全体を通して道徳性を養い、学校目標の具現化を目指す。

(2) 教科道徳

教師が自信をもって授業に取り組むことができるよう授業改善に取り組み、児童が、自他を見つめ、認め合い、磨き合いながら、より正しい判断ができるよう、学習を通して「道徳的判断力・心情・実践意欲と態度」を育てる道徳性を養えるよう目指す。

(3) 連携

児童を中心におくことを忘れることなく、価値の押しつけ等にならないよう気を付けながら、家庭や地域と連携し共に児童の生活力向上を目指す。

その結果、以下のような改善が見られた。

(1) 「石鉢磨き」において、議論につながる主発問を中心とした授業づくりについて研究を進めたことで、指導者が発問を吟味して教材研究を行うようになった。また、対話が目的ではなく、ねらいを達成するための対話をどのように展開の中に盛り込んでいくかについても意識できるようになり、児童の思考や発言をより活性化させることができた。

(2) 道徳科の授業における『善進』について研究を深めたことにより、児童の実態に即した一人

一人の評価を意識した授業づくりができるようになった。また、役割演技や「心のメーター」などのツールが、児童に多面的・多角的な思考を促すことに有効であることが分かった。

- (3) 各学級に「善進の足あと」という、道徳の授業で学習した内容を掲示するコーナーを設けることにより、年間指導計画に沿った道徳の授業が行われるようになるとともに、児童が授業で学習したことをいつでも振り返られ、教科道徳についての意識が、指導者と児童ともに向上した。



「心情メーター」を用いた授業



役割演技の場面



ペアでの対話の様子

2 実施した研究内容

(1) 研究の共通理解を図るための校内研修及び授業研修 <教科道徳>

ア 本校職員 根城由紀子教諭による講話

『新しい教科 道徳』について

これを受け、道徳の授業を進めていくための本校職員の考えを共有できた。

○「考え、議論する道徳」

- ・教師の話す時間を極力減らし、児童が話す時間を増やしていくこと。
- ・児童が、課題を自分事として考えるための方法

○本校児童の実態をもとにした授業のあり方（めあて、発問、役割演技等のツール）

○授業の流れが見える板書

イ 青森県総合学校教育センター 齋藤 紀行 指導主事

松尾 和明 指導主事 による講話

『特別の教科 道徳』における授業展開の具体例～指導案作成と発問～

これを受け、次の2点が重要だと考えた。

(ア) 児童が考えを多面的・多角的な見方へ発展させること。

(イ) 道徳的価値の理解を自分自身とのかかわりの中で深めるような対話を教師が意図的に授業の中に仕組むこと。

このことと、本校児童の実態を照らし合わせ、議論の形を次のように定めた。

○レベル1：考えを広めて、自分事として捉えること。

○レベル2：出された考えの中から、よりよい価値を意識すること。

○レベル3：様々な立場や状況と照らし合わせながら、よりよい考えは何か考えること。

以上のような研修を経て、今年度の校内研の研究主題等が決定した。

研究主題

児童の実態に応じた『考え、議論する道徳』

～児童の道徳的価値に対する考え方、感じ方、生き方を善進させる授業づくり～

※善進：本校の造語。今の自分より少しでもよりよい生き方になるよう、気付いたり、考えが広がったり深まったり実際に行動できるようになったりすること。

研究目標

児童の道徳的価値に対する考え方、感じ方、生き方を善進させるためには、児童一人一人の実態を踏まえながら、議論につながる主発問を中心とした授業づくりの工夫が有効であることを、実践を通して明らかにしていく。

ウ 提案授業の実施

10月に行う三八管内道徳教育研究協議会公開授業へ向けて、第6学年の道徳科の授業を提案授業として行った。

主題名 豊かな人間関係をつくる 〈B 主として人とのつながりに関わること〉

教材名 友だちだからこそ (出典名 教育出版 小学道徳6 はばたこう明日へ)

ねらい 友達との関わり方について考え、よりよい友達関係を築いていこうとする態度を養う。

仮説の検証

(ア) 対話の場面で教師のコーディネートによる学級全体での話し合いと、少人数グループでの話し合いを織り交ぜながら対話をさせる。

(イ) 発問の工夫として資料の中で起こるできごとを自分事として捉えやすくなるように、必要に応じて資料の人物を実際の友達に置き換えて考えさせる働きかけを行う。

授業後に行われた研究協議では、以下のような意見が出された。

○対話の形式が、児童の実態に合っていた。

○ネームプレートを動かして視覚化することにより、意見を整理できていた。

○全体で意見が出ないときにグループでの対話に切り替えることにより、児童が自分の思いを話し始めたところがよかった。

○もし自分がその場にいたらどんな行動をとるかなどと自分事として捉えている児童や、考えを伝えることの難しさを感じている児童がいた。

○友達の意見を聞いて、考えが変わっていた児童がいた。

▲グループで話す時間をもう少しとりたい。

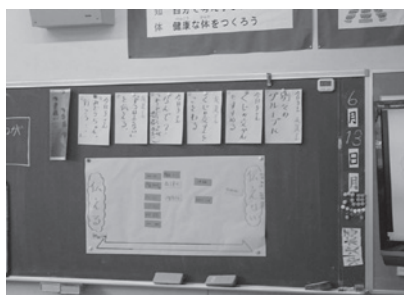
▲全体での共有方法や交流の仕方は考えていきたい。

▲児童の実態として、フォーマルな形の話し合いの形態は現段階では難しい。話し合わせながらワークシートをまとめる形でもよかった。

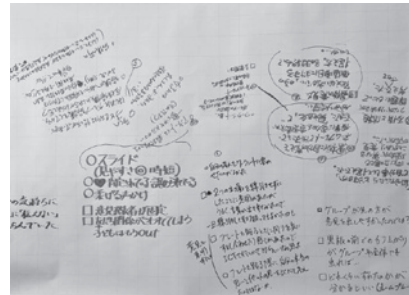
▲事前アンケートが、残る形になっていればよかった。



授業で行われた話し合い活動



児童の考えの変容がわかる板書



協議会の記録

この提案授業を受けて、今後の研究の方向性を見出すことができた。

- ・ねらいとする道徳的価値に迫るための発問や授業展開の工夫（テーマ発問や児童にゆさぶりをかけるための主発問）
- ・児童にとって必要感のある対話の場面を取り入れること
- ・石鉢磨きを授業の中に取り入れる→心の引き出しを意識した展開
- ・授業における児童の「善進」は何かを教師が把握しておくこと

(2) 児童の実態や課題に応じた道徳教育の取組 <教科道徳>

ア 道徳教育全体計画・別葉の改善

令和4年度は、本校の課題に沿った道徳教育を展開し、全職員が重点目標を意識しながら教育活動を展開していくために、次のことに取り組んだ。

- ・児童の実態に即した重点目標の設定
- ・別葉の作成と全教育活動における道徳教育の推進

イ 特別活動における道徳教育の推進 <石鉢磨き>

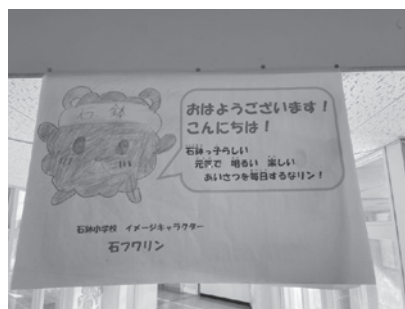
- ・『ふわっとの木』に、友達からされてうれしかったことや友達のがんばりを書いて貼る。
- ・『縦割班交流会』において、話し合い活動や遊び活動を行って、異学年間の交流を図る。
- ・『石フワリン』という児童が考えた学校のイメージキャラクターに、様々な活動のシンボルとなってもらい、児童の一体感を高める。



ふわっとの木



縦割班交流会の様子

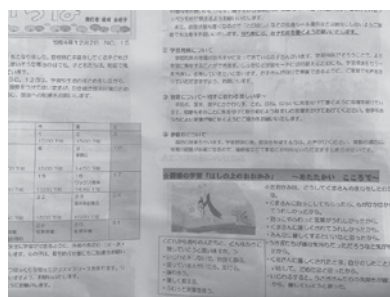


『石フワリン』

ウ 地域・保護者への情報発信 <連携>

道徳教育の効果が各家庭や地域へ波及し、より高い教育効果を目指すべく、以下のことに取り組んだ。

- ・道徳参観日における道徳科の授業の公開（全学級）
- ・学校だよりや学級通信において、道徳教育に関する内容を掲載



学年通信の道徳コーナー

エ 道徳に関する環境の整備 <教科道徳>

道徳の時間に、どのようなことを学んだのかが分かるように『善進の足あと』コーナーを各教室に設定し、学習の足跡を教師や児童が感じられるようにした。



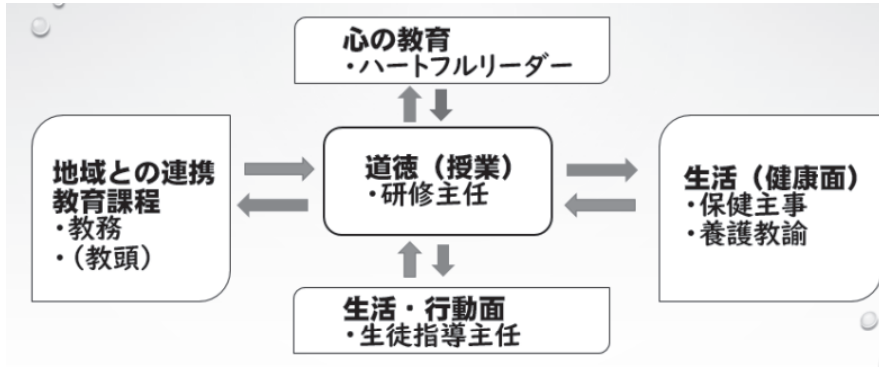
『善進の足あと』コーナー

3 実施経過とその体制

(1) 実施経過

月	取 り 組 み の 内 容	備 考
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修（講師招聘） ・事業実施計画書の確認 ・検証授業①のための指導案検討会 ・児童及び職員、保護者へ向けた道徳アンケートの実施 	講師 青森県総合学校教育センター 齋藤 紀行 指導主事 松尾 和明 指導主事
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳アンケート集計 ・全体計画及び年間指導計画、別葉の見直し ・検証授業①・研究協議 6年 教材名「友だちだからこそ」 授業者 赤塚 徹 	指導助言 三八教育事務所 川井 利之 指導主事
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回県道徳推進協議会への参加（研修主任） ・道徳参観日の実施（保護者参観） ・校内研修（公開授業へ向けて） 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・全国小学校道徳教育研究会夏季中央研修講座（オンライン開催）出席（研修主任） ・校内研修（公開授業指導案検討会の実施） 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修（公開授業指導案検討会の実施） 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・三八管内道徳教育研究協議会公開授業 2年 教材名 「ぼんたとかんだ」 授業者 柿崎 倫子 3年 教材名 「新聞係」 授業者 岩村 恭也 5年 教材名 「ほのぼのテスト」 授業者 松生 大介 ・道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業道仏中学校 公開授業出席（校長、研修主任） 	指導助言 新郷村立新郷小学校 戸未 暁子 教諭 八戸市立桔梗野小学校 吉田 朝子 校長 八戸市立白銀小学校 本宮 共子 校長
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善研修会（公開授業報告会） ・児童及び職員、保護者へ向けた道徳アンケートの実施 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳アンケート分析 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・県道徳推進協議会への参加（研修主任） ・道徳教育パワーアップ協議会にて実践事例発表 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要作成 ・次年度研究へ向けての検討 	

(2) 研究体制

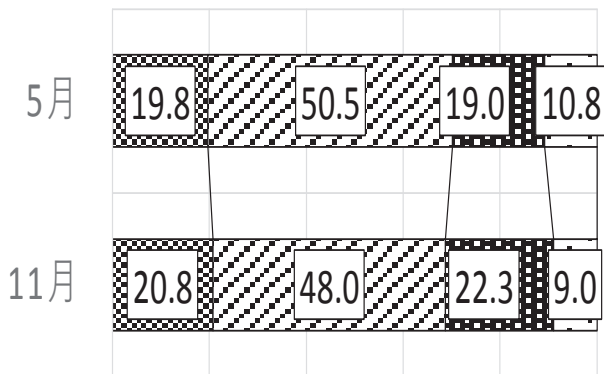


4 取組の成果と課題

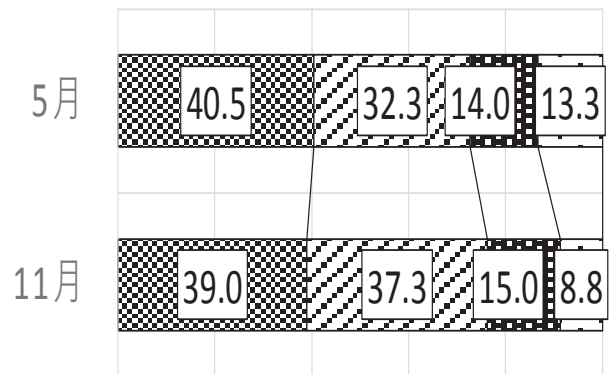
(1) 「道徳意識に関するアンケート」の比較（5月と11月に実施 調査対象：全校児童）

- よくある（できている） ある（だいたいできている）
 あまりない（あまりできていない） ない（できていない）

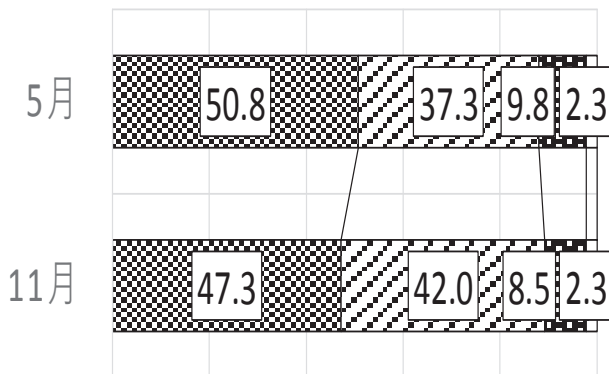
①自分によいところはある。



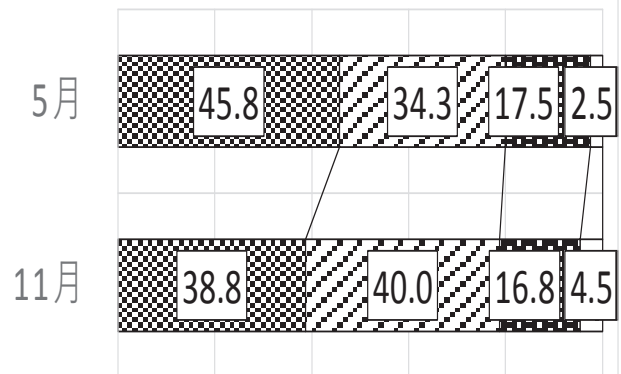
②夢や目標がある。



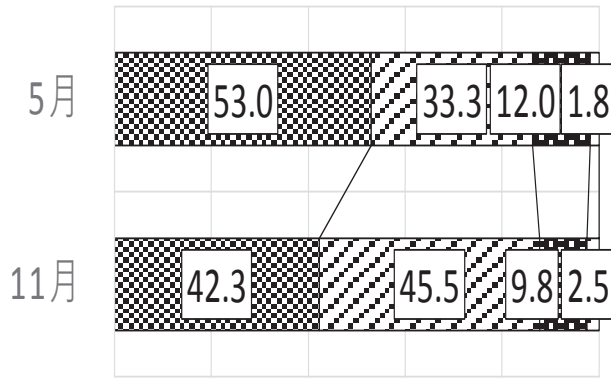
③勉強や係の仕事、そうじなどをきちんと最後までやっている。



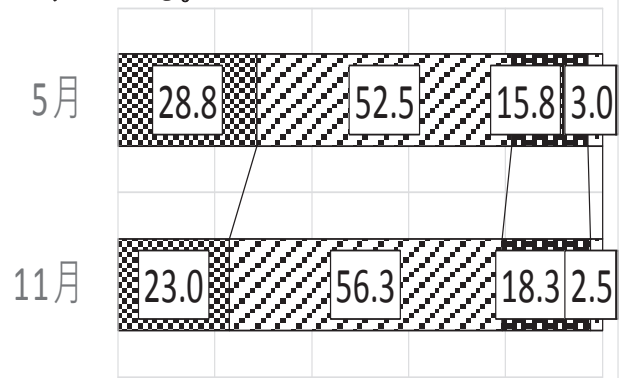
④難しいことや嫌なことでもやらなければいけないことに挑戦している。



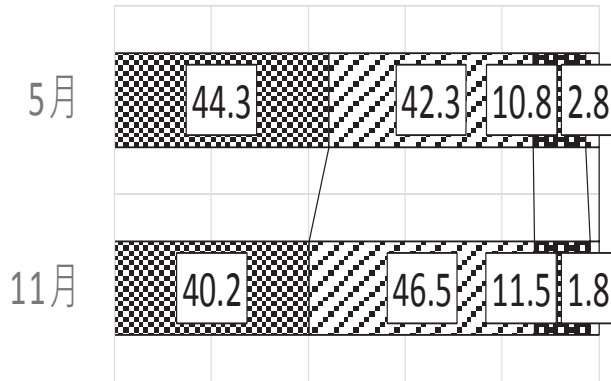
⑤友達にやさしくしている。



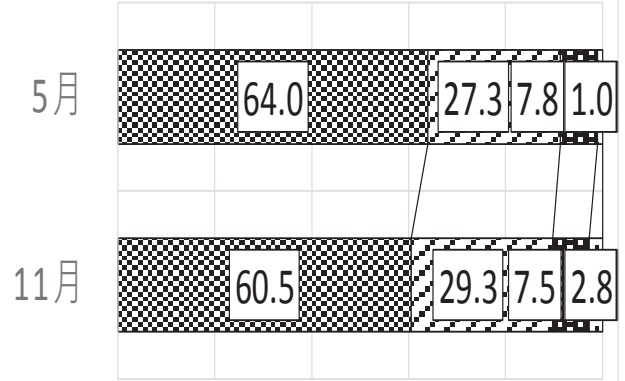
⑥学校のきまりや学級のルールを守っている。



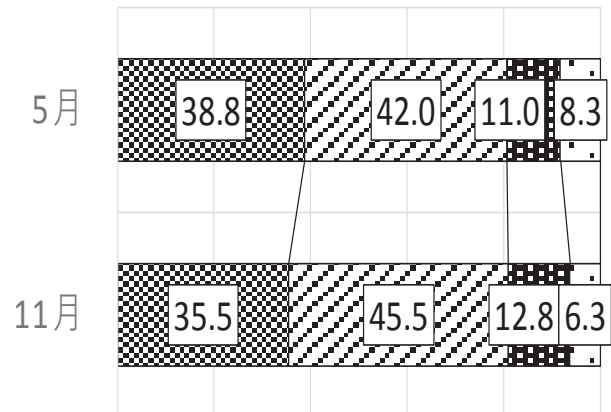
⑦困っている人がいたとき、助けている。



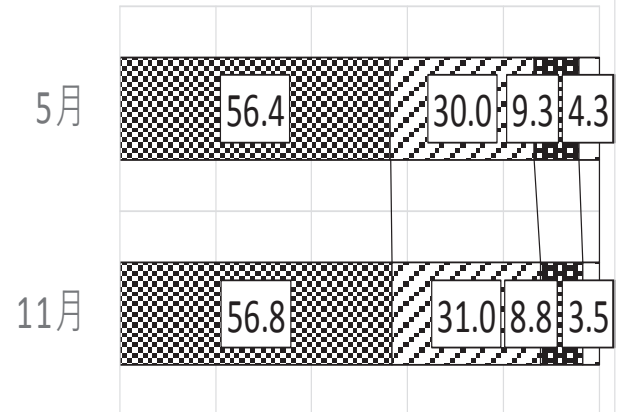
⑧動物や植物を大事にしている。



⑨石鉢小学校の児童であることに誇りをもっている。



⑩人の役に立ちたいと思う。



○次の質問項目で、「とてもある（できている）」「ある（だいたいできている）」と回答（以下：肯定的に回答）した割合に増加傾向がうかがえる。

- ②夢や目標がある。
- ③勉強や係の仕事、そうじなどをきちんと最後までやっている。
- ⑤友達にやさしくしている。
- ⑩人の役に立ちたいと思う。

○次の質問項目で肯定的に回答した割合は、若干の減少傾向がうかがえる。

- ①自分によいところはある。
- ④難しいことやいやなことでもやらなければいけないことには挑戦している。
- ⑥学校のきまりや学級のルールを守っている。
- ⑧動物や植物を大事にしている。

○次の質問項目で肯定的に回答した割合は、大きな変化は見られない。

- ⑦困っている人がいたとき、助けている。
- ⑨石鉢小学校の児童であることに誇りをもっている。

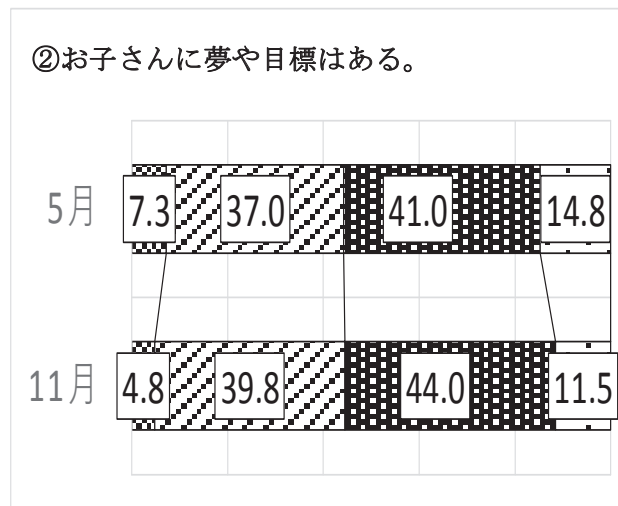
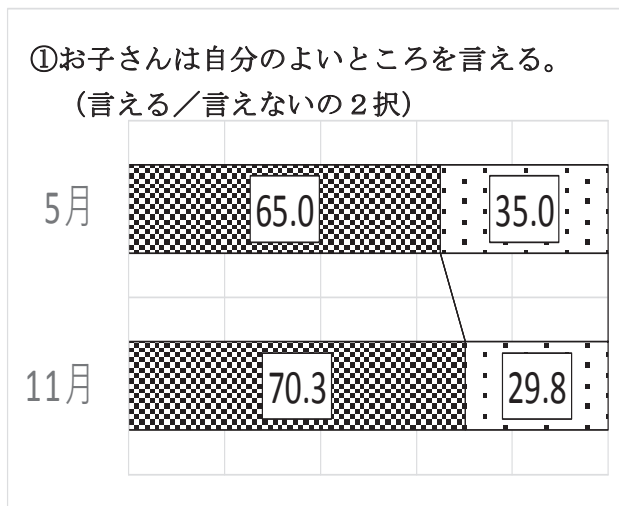
(2)「道徳意識に関するアンケート」の比較（5月と11月に実施 調査対象：保護者）

☒ よくある（できている）

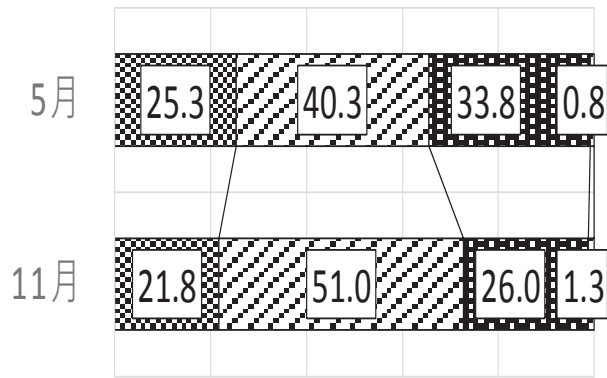
☑ ある（だいたいできている）

☒ あまりない（あまりできていない）

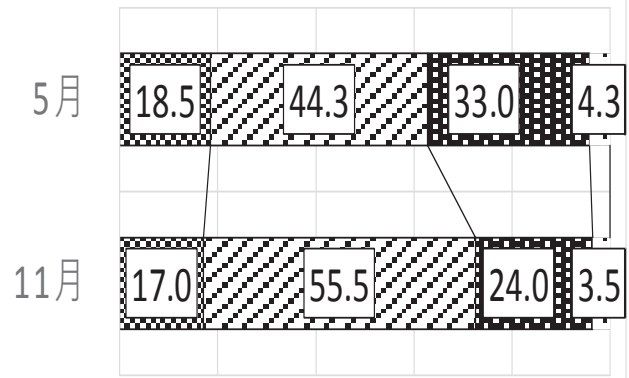
☐ ない（できていない）



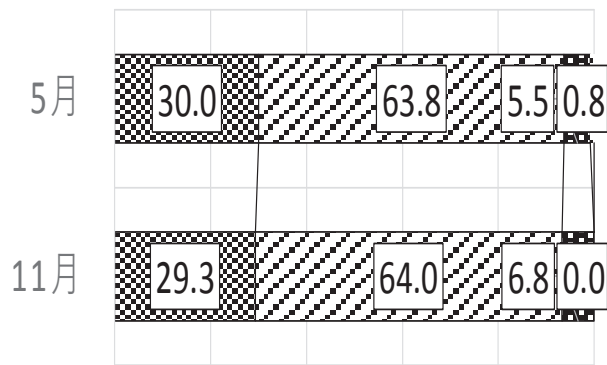
③お子さんは宿題や手伝い、片付けなどを最後まできちんとやる。



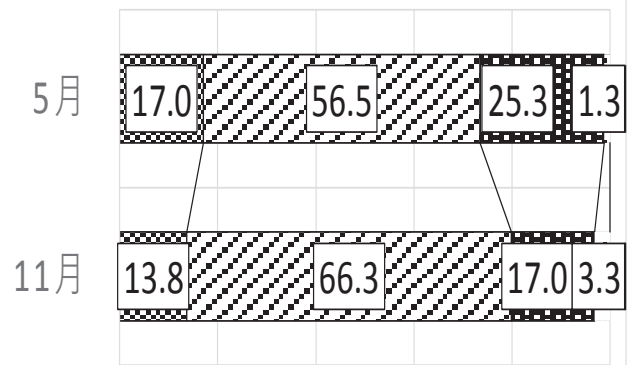
④お子さんは難しいことや嫌なことでも、やらなければいけないことには挑戦する。



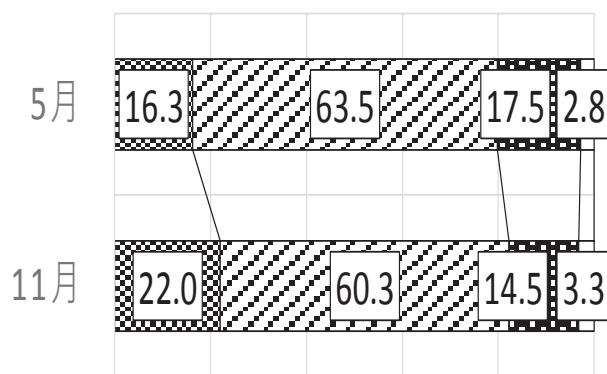
⑤お子さんは友達にやさしくしている。



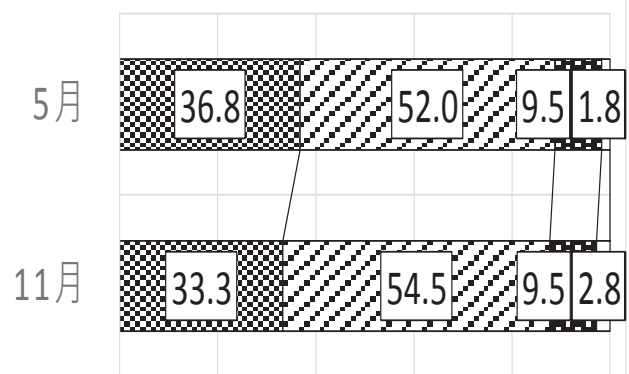
⑥お子さんはきまりやルールを守っている。



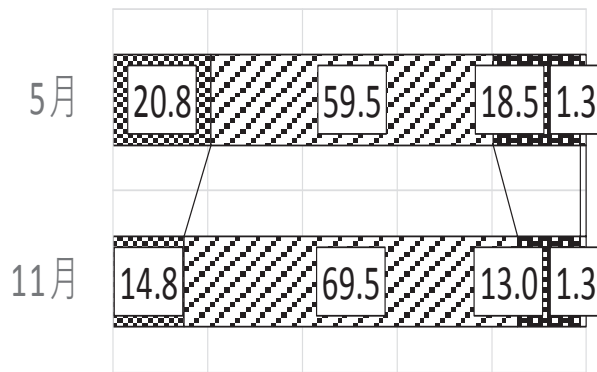
⑦お子さんは家の手伝いをする。



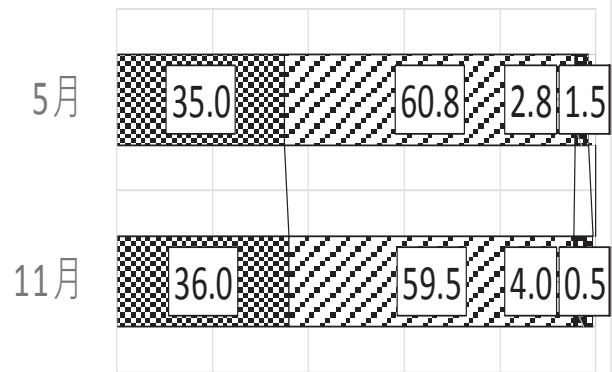
⑧お子さんは動物や植物を大事にする。



⑨お子さんはその場に応じてマナーよく生活している。



⑩お子さんと道徳的なこと（マナーや交通ルールなど）についてよく話をする。



○次の質問項目で、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答（以下：肯定的に回答）した割合に増加傾向がうかがえる。

- ①お子さんは自分のよいところを言える。
- ③お子さんは宿題や手伝い、片付けなどを最後まできちんとやる。
- ④お子さんは難しいことや嫌なことでもやらなければいけないことには挑戦する。
- ⑥お子さんはきまりやルールを守っている。
- ⑦お子さんは家の手伝いをする。
- ⑨お子さんはその場に応じてマナーよく生活している。

○次の質問項目で肯定的に回答した割合は、大きな変化は見られない。

- ②お子さんに夢や目標はある。
- ⑤お子さんは友達にやさしくしている。
- ⑧お子さんは動物や植物を大事にする。
- ⑩お子さんと道徳的なこと（マナーや交通ルールなど）についてよく話をする。

(3) 「道徳意識に関するアンケート」の比較（5月と11月に実施 調査対象：本校職員）

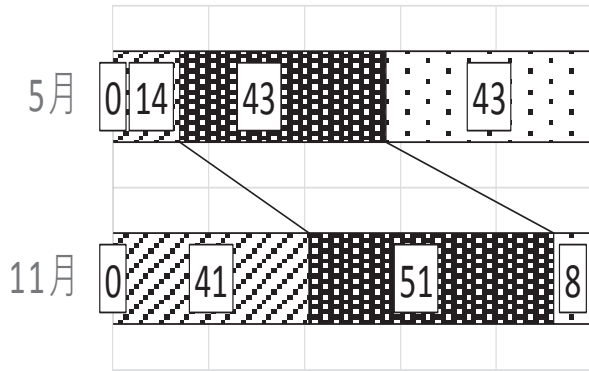
▨ よくある（できている）

▩ ある（だいたいできている）

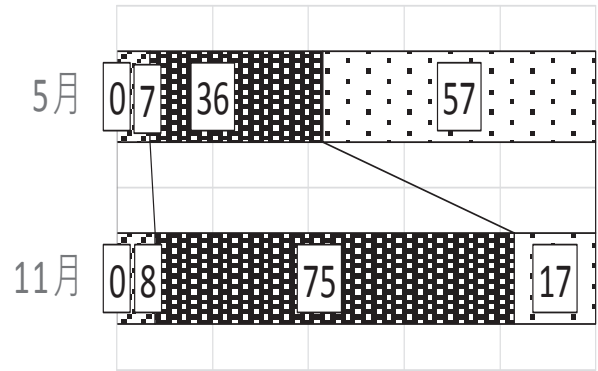
▧ あまりない（あまりできていない）

□ ない（できていない）

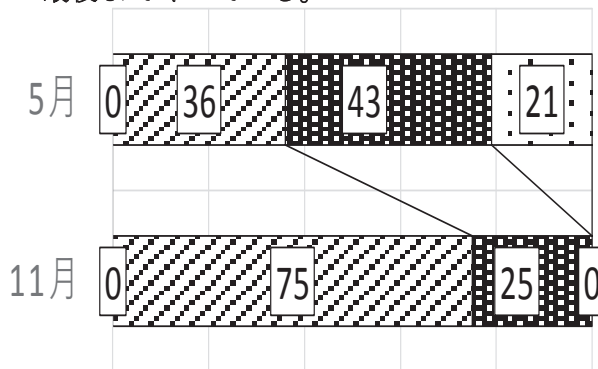
①学級の児童の自己肯定感が高い。



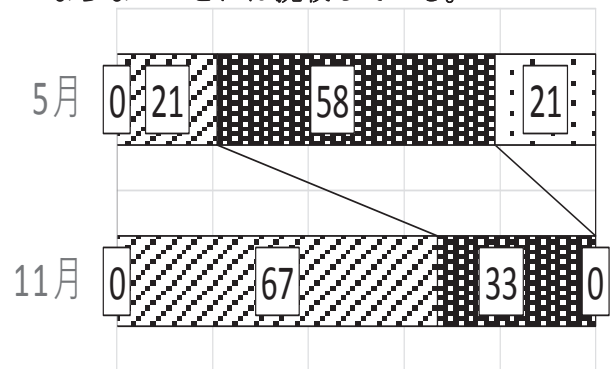
②言動のレベルは学年の発達段階に合っている。



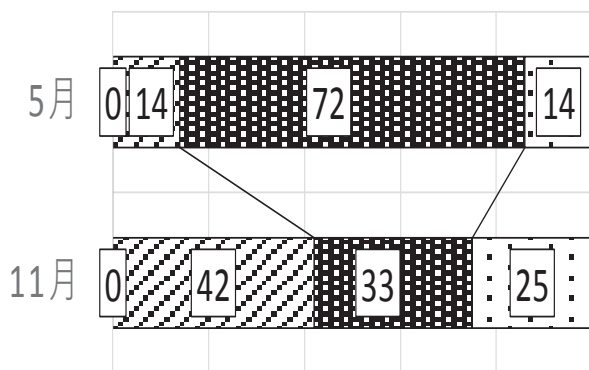
③勉強や係の仕事、そうじなどをきちんと最後までやっている。



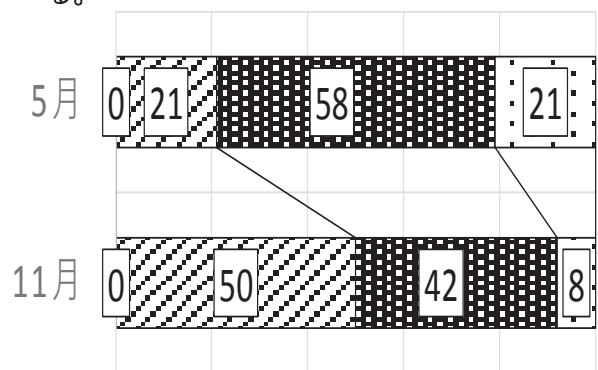
④難しいことや嫌なことでもやらなければならないことには挑戦している。



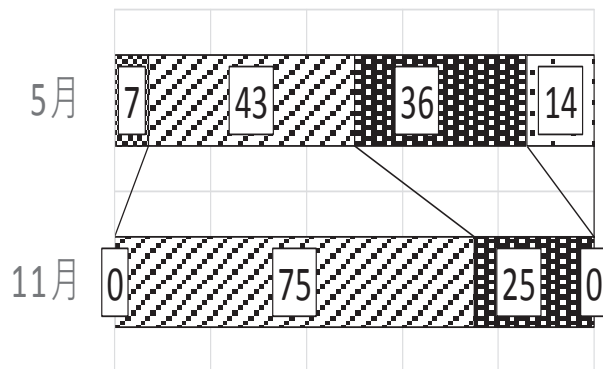
⑤友達にやさしくしている。



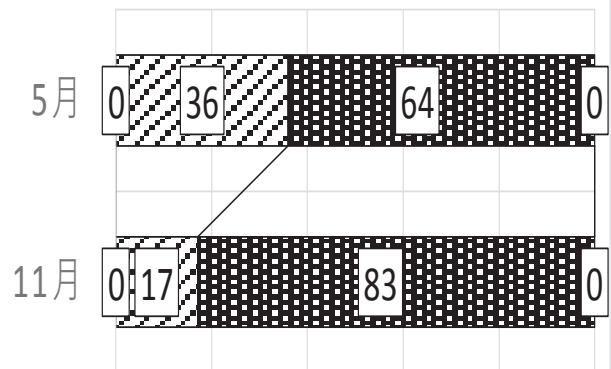
⑥学校のきまりや学級のルールを守っている。



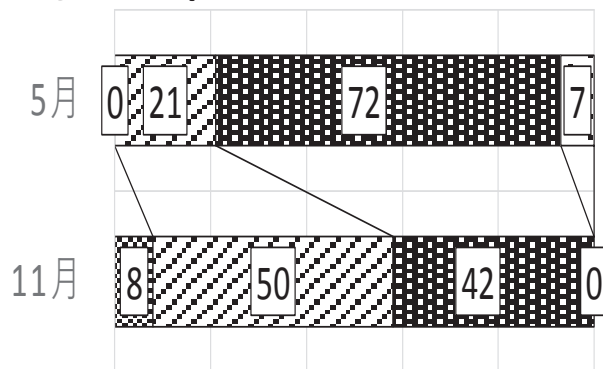
⑦困っている人がいたとき、助けている。



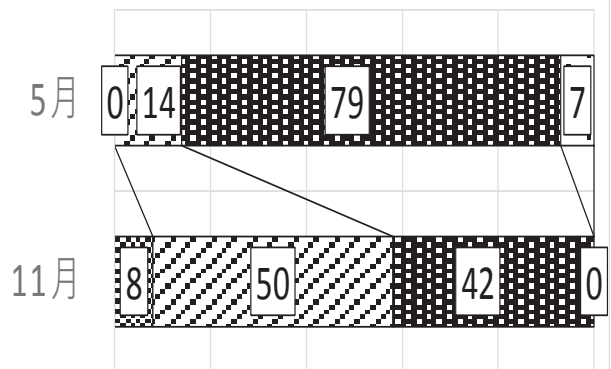
⑧動物や植物を大事にしている。



⑨石鉢小学校の児童であることに誇りをもっている。



⑩人の役に立つような言動をしている。



○次の質問項目で、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答（以下：肯定的に回答）した割合に増加傾向がうかがえる。

- ①学級の児童の自己肯定感が高い。
- ③勉強や係の仕事、そうじなどをきちんと最後までやっている。
- ④難しいことや嫌なことでもやらなければいけないことには挑戦している。
- ⑤友達にやさしくしている。
- ⑥学校のきまりや学級のルールを守っている。
- ⑦困っている人がいたとき、助けている。
- ⑨石鉢小学校の児童であることに誇りをもっている。
- ⑩人の役に立つような言動をしている。

※②「言動のレベルは学年の発達段階に合っている」については、肯定的回答割合は変化がないが、「あてはまらない」から「あまりあてはまらない」への変化が大きい。

○次の質問項目で肯定的に回答した割合は、若干の減少傾向がうかがえる。

- ⑧動物や植物を大事にしている。

(4) 教科道徳に関するアンケートの比較（5月と11月に実施 調査対象：全校児童）

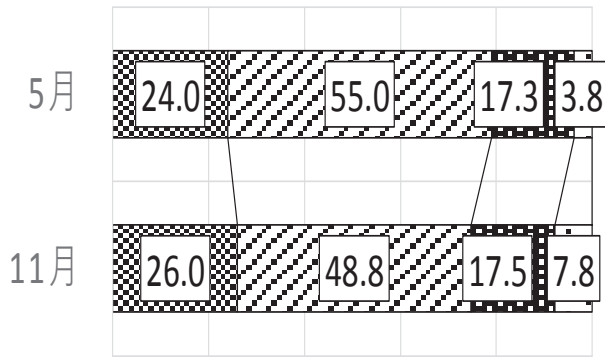
▨ よくある（できている）

▣ ある（だいたいできている）

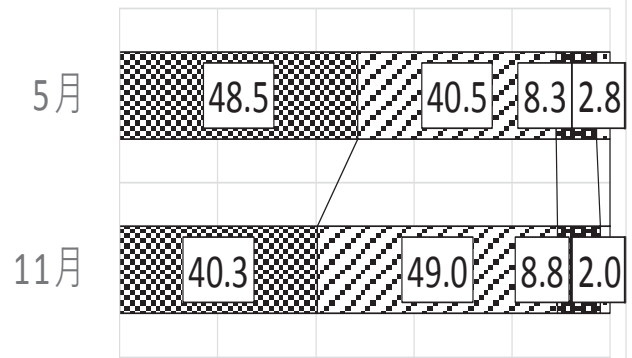
▩ あまりない（あまりできていない）

□ ない（できていない）

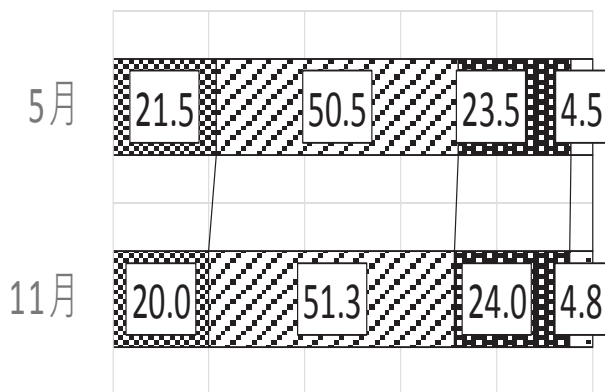
①道徳の時間は好きだ。



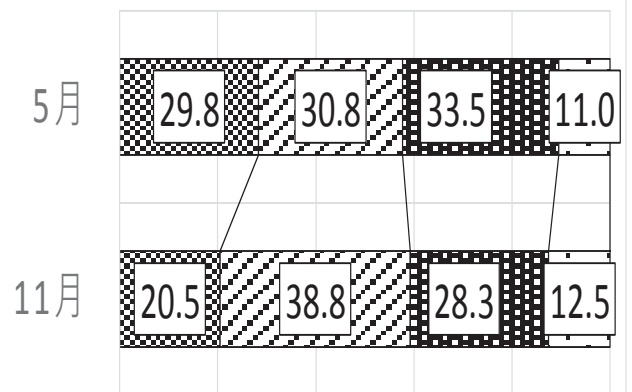
②道徳の授業は役に立つ。



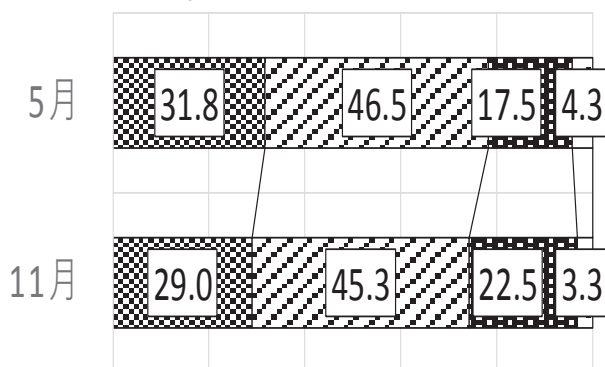
③道徳の授業で、自分の考えをもっている。



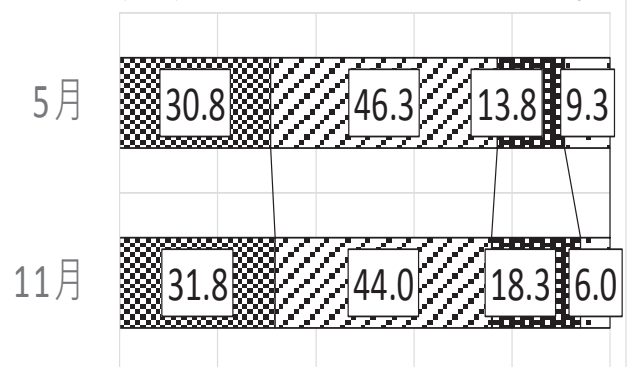
④道徳の授業で、自分の意見や考えを友達に聞いてもらうのは好きだ。



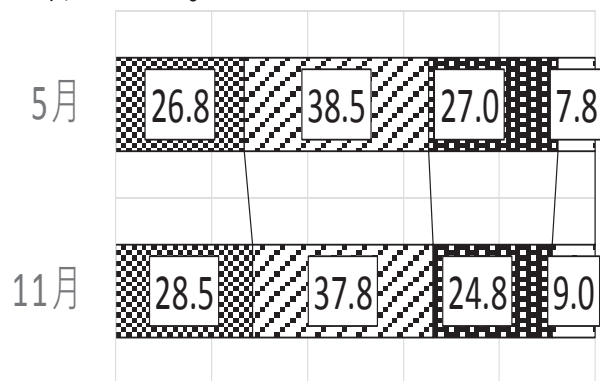
⑤道徳の授業で、友達の見や考えを聞くのは好きだ。



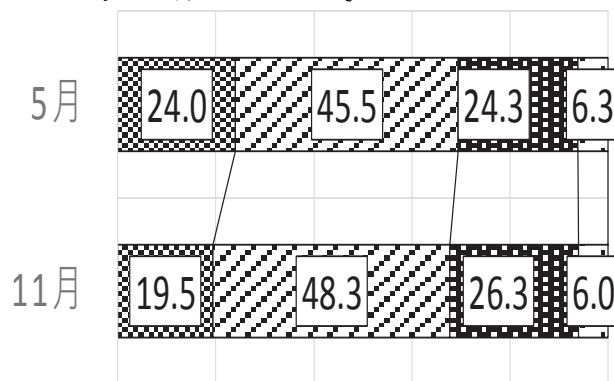
⑥友達の見や考えを聞いて「なるほど」と思ったり、自分の考えが変わったことがある。



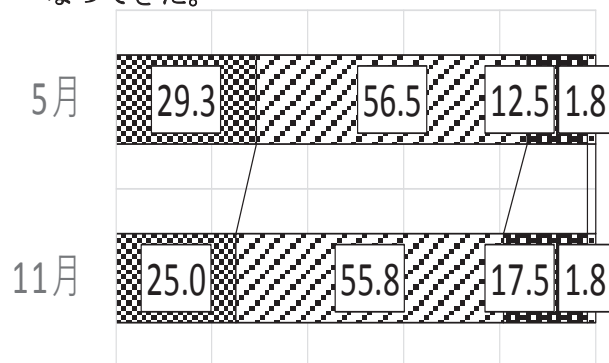
⑦道徳の授業で、自分のこととして本音を言えている。



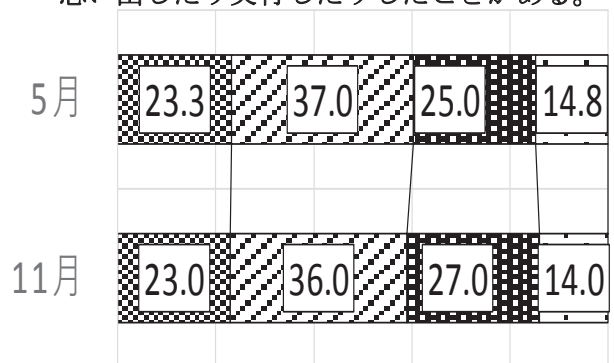
⑧道徳の授業で、積極的に話し合い、自分の考えが深まっている。



⑨道徳の授業で、正しい判断ができるようになってきた。



⑩道徳で学習したことを、学校や家の生活で思い出したり実行したりしたことがある。



○次の質問項目で、「よくあてはまる」「あてはまる」と回答（以下：肯定的に回答）した割合に増加傾向がうかがえる。

④道徳の授業で、自分の意見や考えを友達に聞いてもらうのは好きだ。

⑦道徳の授業で、自分のこととして本音を言えている。

○次の質問項目で肯定的に回答した割合は、若干の減少傾向がうかがえる。

①道徳の時間は好きだ。

⑤道徳の授業で、友達の意見や考えを聞くのは好きだ。

⑨道徳の授業で、正しい判断ができるようになってきた。

○次の質問項目で肯定的に回答した割合に、大きな変化は見られない。

②道徳の授業は役に立つ。

③道徳の授業で、自分の考えをもっている。

⑥友達の意見を聞いて「なるほど」と思ったり、自分の考えが変わったりしたことがある。

⑧道徳の授業で、積極的に話し合い、自分の考えが深まっている。

⑩道徳で学習したことを、学校や家の生活で思い出したり実行したりしたことがある。

(5) 教科道徳に関するアンケートの比較 (5月と11月に実施 調査対象: 本校職員)

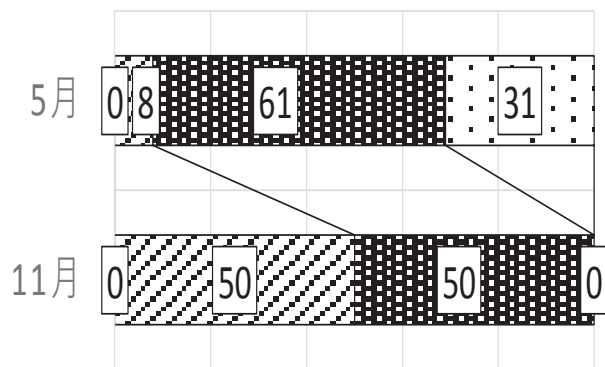
▨ よくある (できている)

▩ ある (だいたいできている)

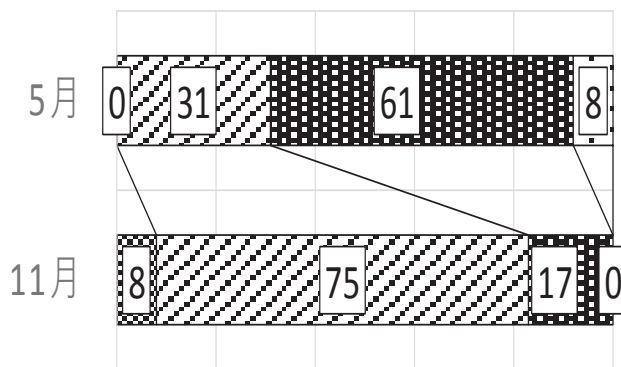
▧ あまりない (あまりできていない)

□ ない (できていない)

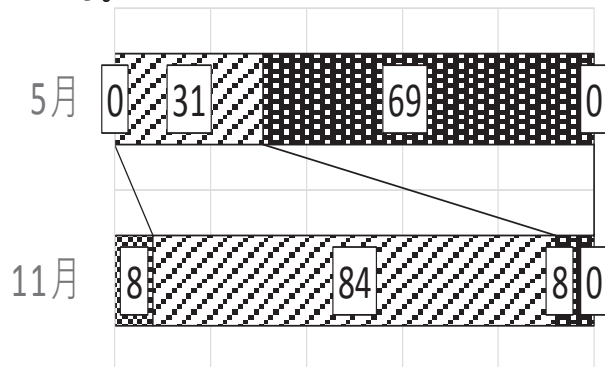
①道徳の授業の進め方に不安はない。



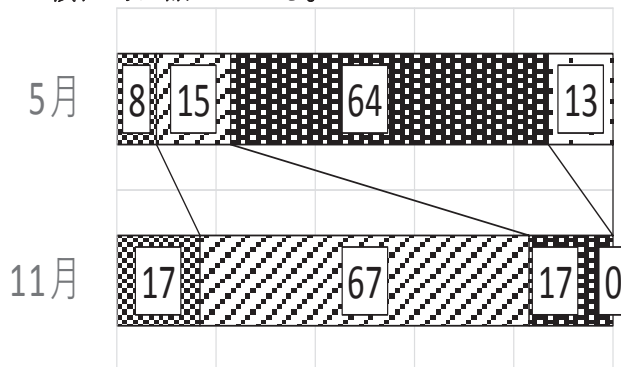
②道徳の授業に対する児童の意欲は高い。



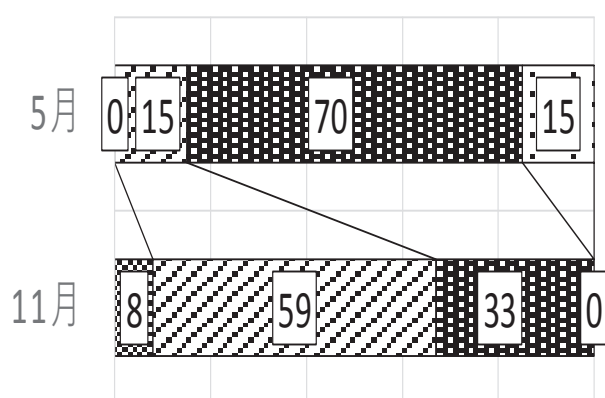
③道徳の授業で、児童は自分の考えをもっている。



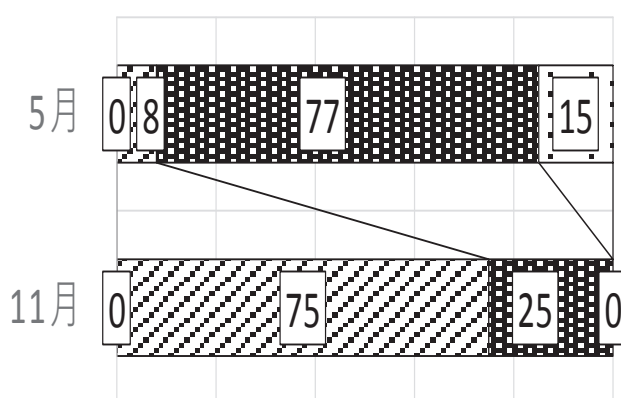
④道徳の授業で、児童は自分の意見や考えを積極的に話している。



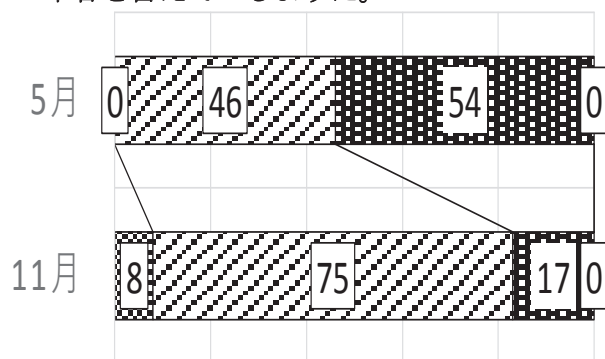
⑤道徳の授業で、児童は友達の見や考えをしっかりと (最後まで) 聞いている。



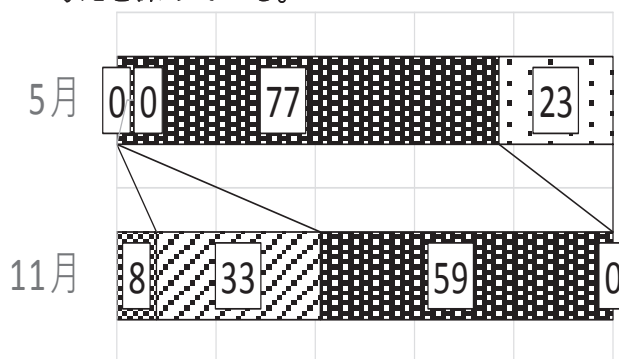
⑥児童は、友達の見や考えを聞いて「なるほど」と思ったり考えが変わったりしている。



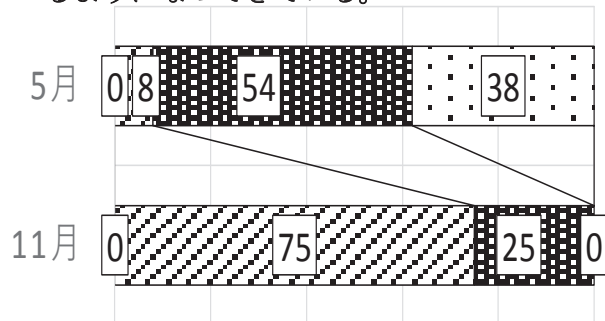
⑦道徳の授業で、児童は自分のこととして本音を言えているようだ。



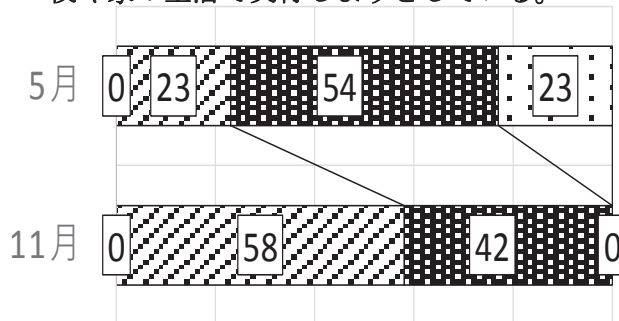
⑧道徳の授業で、児童は積極的に話し合い考えを深めている。



⑨道徳の授業で、児童は正しい判断ができるようになってきている。



⑩道徳の授業で学習したことを、児童は学校や家の生活で実行しようとしている。



○全ての質問項目で「よくあてはまる」「あてはまる」と回答（以下：肯定的に回答）した割合に増加傾向がうかがえる。教師の、授業の進め方への不安が減少したのは大きな成果である。

※児童－保護者－教師間において、乖離の大きかった項目

<道徳意識に関するアンケート>

○児童の自己肯定感が高い。

児童 68.8%－保護者 70.3%－教師 41%

○友達にやさしくしている。

児童 67.8%－保護者 93.3%－教師 75%

○学校のきまりや学級のルールを守っている。

児童 79.3%－保護者 80.1%－教師 50%

<教科道徳に関するアンケート>

○道徳の授業で、(児童は)自分の考えをもっている。

児童 71.3%－教師 92%

○道徳の授業で、(児童は)自分の意見や考えを積極的に話している。

児童 59.3%－教師 81%

○道徳の授業で、(児童は)積極的に話し合い考えを深めている。

児童 67.8%－教師 41%

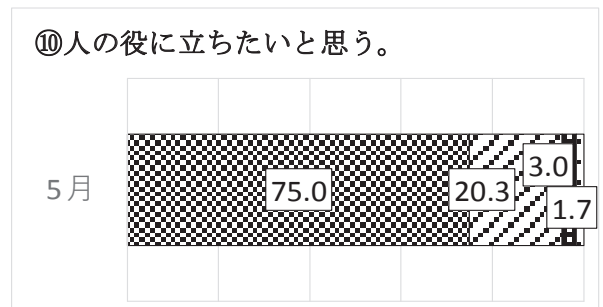
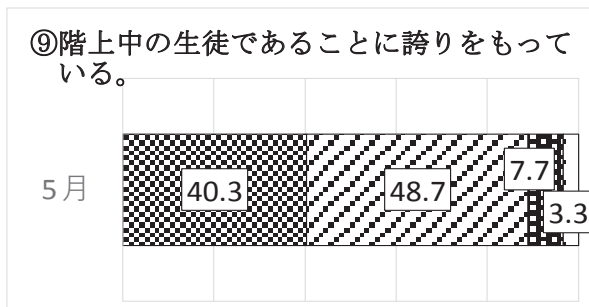
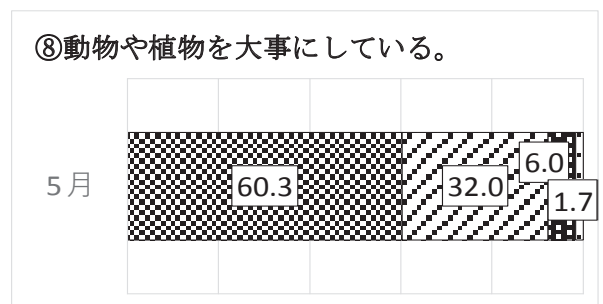
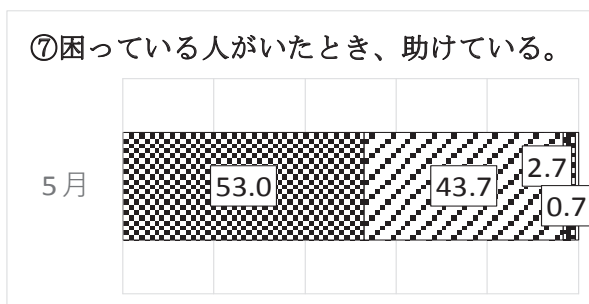
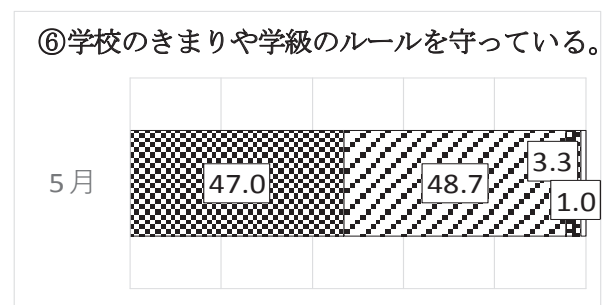
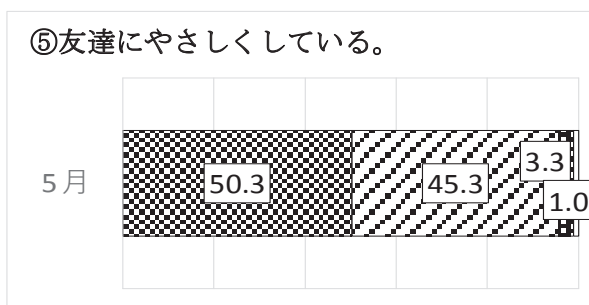
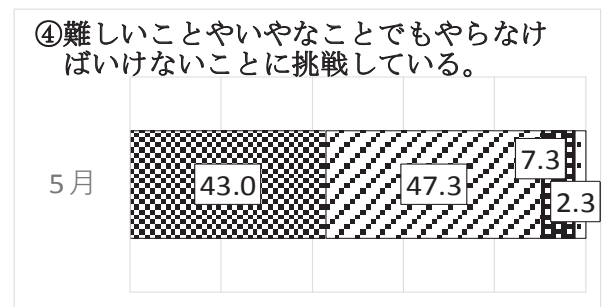
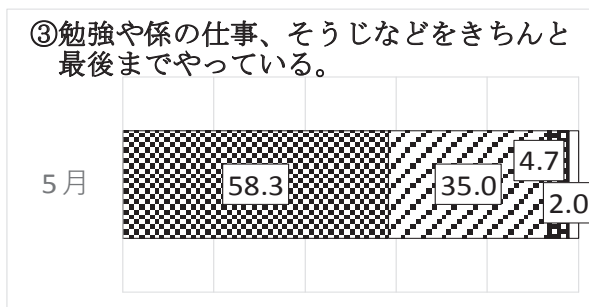
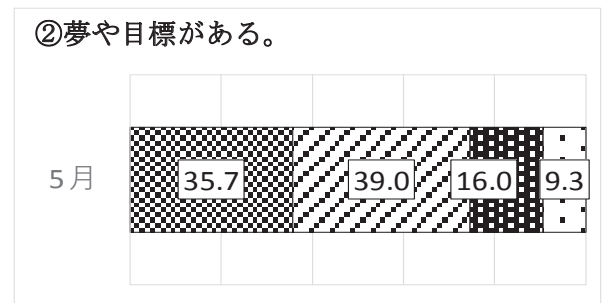
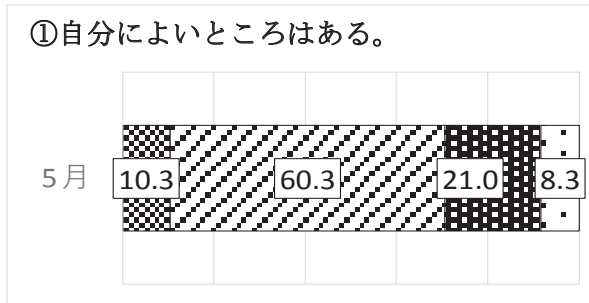
<参考①>「道徳意識に関するアンケート」の結果（5月に実施 調査対象：階上中生徒）

■ よくある（できている）

■ ある（だいたいできている）

■ あまりない（あまりできていない）

■ ない（できていない）



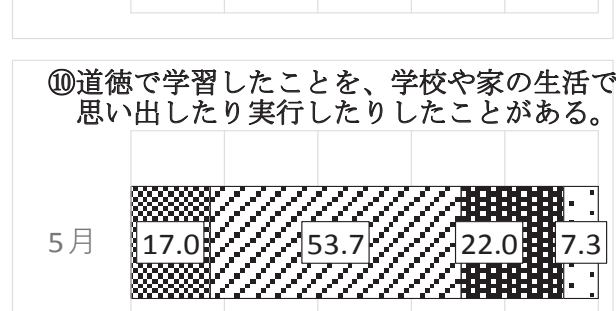
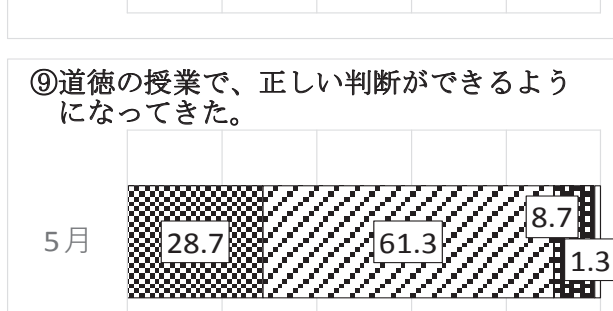
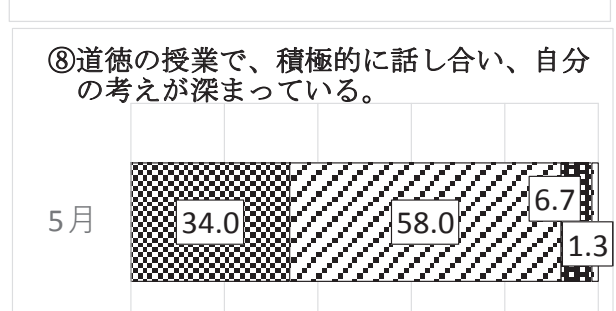
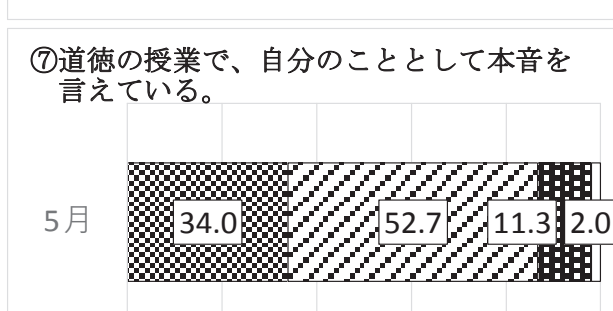
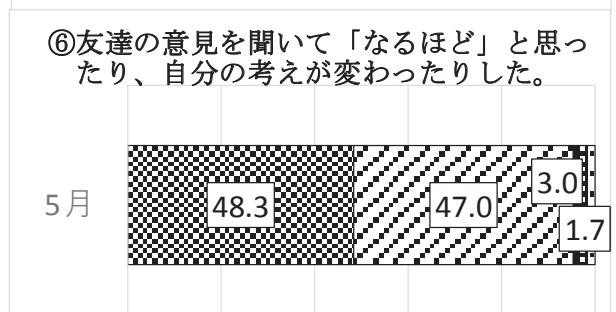
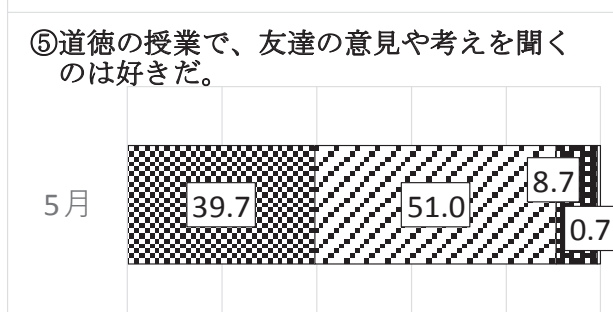
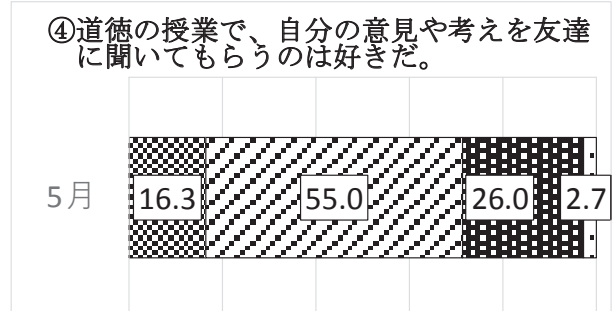
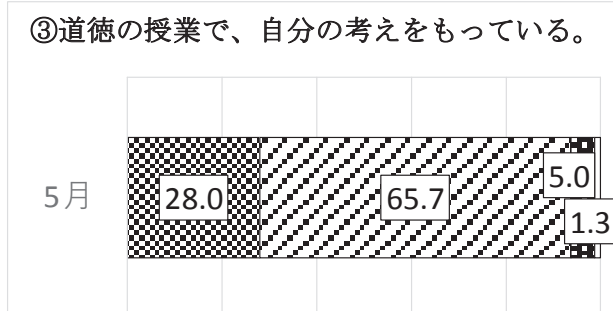
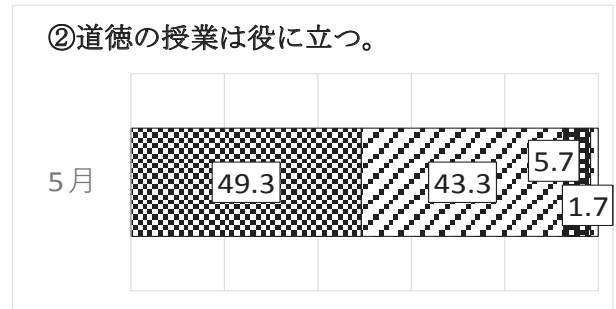
<参考②>「教科道徳に関するアンケート」の結果（5月に実施 調査対象：階上中生徒）

■ よくある（できている）

■ ある（だいたいできている）

■ あまりない（あまりできていない）

■ ない（できていない）



(6) 研究協議会まとめ

ア 第2学年

主題名 よいことをすすんで (A 善悪の判断、自律、自由と責任)

教材名 ぽんたとかんた (出典名 教育出版 小学道徳2 はばたこう明日へ)

ねらい ぽんたとかんたの行動やその理由について考えることを通して、よいことと悪いことに対する考えを深め、よいと思うことを進んで行おうとする判断力を育てる。

視点①『善進』について

◎児童の実態を踏まえて設定された善進のポイントが、児童一人一人の道徳的価値についての考え方、感じ方、生き方を深めることに有効であったか。

《2学年授業における『善進』》

児童の実態から、まだ、よいことと悪いことを区別することが難しい児童は、「行く」「行かない」気持ちについて考えることを通して「行かない」ことが正しい判断であることに気付ければ善進とする。次の段階として、二人のすばらしいところ探しを通して、「正しい判断」をするためには「よく考える」「自分で決める」などが大切なことに気づき、考えを広めたり深めたりしたことを善進と捉える。

＜○成果 ▲課題＞

- 児童の実態に応じて、「善進」を設けているのがよかった。
- 善悪の判断が難しい児童のためによいことを価値づけていてよかった。
- ▲変容の見取りが難しかった。(評価)
- ▲正しい判断に至る迷いを取り上げるとより善進したのではないか。

視点②『心の引き出し』について

◎心の引き出しを「開く」「増やす」「選ぶ」を意識した授業展開が、児童一人一人の道徳的価値についての考え方、感じ方、生き方を深めることに有効であったか。

- 心のメーターを使ったことで、自分事として考えさせるのにとっても効果的であった。
- 心のメーターで、道徳的価値としては望ましくない考えも取り上げたことによりどんな発言でも受け入れる雰囲気になって「開く」「増やす」ことができていた。
- ▲板書を手がかりに、「選ぶ」ことができていた。キーワードを色分けする、比較するなどすれば「選ぶ」言葉も増えたのではないか。

視点③『校内研との関わり』について

①道徳的価値に対する考え方や感じ方、生き方に迫ることのできる発問や授業展開の工夫

- ◎登場人物たちの「よいところ」について考えさせることが、児童一人一人に「どうしたら正しい判断ができるのか」と問題を自分事として捉えさせられることに有効であったか。
- 登場人物たちをお手本に「○○のようになりたい」というふり返りができていた。
- 途中、よいことができたときの気持ちを考えさせるため、事前のアンケートに戻ったのがよかった。
- ▲低学年なので、終末のふり返りを登場人物への手紙にするとより考えを表現できたのではないか。

②児童の実態に応じた道徳の授業における議論の形の追究

- ◎心情メーターで気持ちの強さを表現することが、児童一人一人に道徳的価値についての考えをもたせ、多くの対話が生まれることにつながっていたか。
- 心のメーターは、自分と友達の考えの違いを視覚的にとらえることができて有効だった。
- ▲心のメーターで表現されるところがどの場面のことなのか明確にすべきだった。

イ 第3学年

主題名 きまりを守ることの意味 (C 規則の尊重)

教材名 新聞係 (出典名 教育出版 小学道徳3 はばたこう明日へ)

ねらい 新聞づくりのルールについて話し合うことを通して、きまりを守ることの大切さに対する考えを深め、きまりを大切にしようとする心情を育てる。

視点①『善進』について

◎児童の実態を踏まえて設定された善進のポイントが、児童一人一人の道徳的価値についての考え、感じ方、生き方を深めることに有効であったか。

《3学年授業における『善進』》

本時の学習で身に付けたい道徳的価値としての、ルールを守ることがなぜ大切なのかに気付かない児童もいることが実態から予想される。その場合でも、「ルールを守って自分がいい気持ちになる。」など、「みんなのため」までは至らなくとも、「自分のため」という考えでルールを守る大切さを考えている場合については「善進」と捉えるものとする。

<○成果 ▲課題>

○ルールを守るとはみんなや自分のためになることが分かるようになっていた。

○善進は多くの児童が達成されていた。

▲善進の設定が児童の実態に合っていたかどうか。

視点②『心の引き出し』について

◎心の引き出しを「開く」「増やす」「選ぶ」を意識した授業展開が、児童一人一人の道徳的価値についての考え方、感じ方、生き方を深めることに有効であったか。

○「みんなが笑顔」など、周りに目を向ける考えが増えていた。

○「開く」では、「自分ならどうする」という視点で書いている児童がいた。

▲自分事として考えるために、新聞のことから広げる「選ぶ」の時間がもう少しあるとよかった。

視点③『校内研との関わり』について

①道徳的価値に対する考え方や感じ方、生き方に迫ることのできる発問や授業展開の工夫

◎友達が怒られていた記事の新聞と、違う内容の新聞を比較しながら考える活動を取り入れることが、児童一人一人が問題を自分事として捉えることに有効であったか。

○比較させて考える活動は児童にとって分かりやすかった。

▲比較して考えることを、具体的に聞いてもよかった。(いいと思うこと、悪いと思うことなど)

②児童の実態に応じた道徳の授業における議論の形の追究

◎中学年の発達段階において、「比較しながら考える」活動を取り入れることが、より多様な意見を引き出すことに有効であったか。

○比較しながら考える活動は有効であった。

▲児童の本音を引き出す発問やゆさぶりをかける発問があると多様な意見につながる。

ウ 第5学年

主題名 相手の立場に立って (B 親切 思いやり)

教材名 ほのぼのテスト (出典名 教育出版 小学道徳5 はばたこう明日へ)

ねらい 別々の立場に立つ人の気持ちについて話し合う活動を通して、相手の気持ちを考え、行動することの大切さに気づき、相手の立場に立って親切にしようとする心情を育てる。

視点①『善進』について

◎児童の実態を踏まえて善進のポイントを設定することが、児童一人一人の道徳的価値についての考え方、感じ方、生き方を深めることに有効であったか。

《5学年授業における『善進』》

展開終末の「相手の立場に立って親切にするとはどういうことか」について考えさせる場面では、「おじいさんと乗客の両方を第一に考える」という考えに気付けない児童もいることが予想される。そういった場合でも、「初めはおじいさんのことしか考えられなかったが、乗客のことでも考えなくてはいけないからバスは停めない方がよい」等、導入段階と比べて心の引き出しが増えた場合は「善進」と捉えるものとする。

＜○成果 ▲課題＞

○様々な人たちの立場に立って考えられるようになったことは「善進」だった。

▲どのようにして個々の善進を見取るか。

視点②『心の引き出し』について

◎心の引き出しを「開く」「増やす」「選ぶ」を意識した授業展開が、児童一人一人の道徳的価値についての考え方、感じ方、生き方を深めることに有効であったか。

○ロールプレイで、それぞれの立場の人について自分事として考えることができ、心の引き出しを増やすことができていた。

○それぞれの立場の人の考えを表にまとめたのがよかった。

○役割演技の小道具が児童をひきつけた。

○教材を途中で区切ったことで、引き出しが広がっていた。

▲もう少し人を代えて役割演技してもよかった。

視点③『校内研との関わり』について

①道徳的価値に対する考え方や感じ方、生き方に迫ることのできる発問や授業展開の工夫

◎児童が価値について考える際の立場を、「おじいさん、乗客」から「運転手」に変える発問が、児童一人一人が問題を自分事として捉えることに有効であったか。

○おじいさん、乗客の立場から運転手の立場へ、そして自分だったらどうするかという展開は有効だった。

○「考えたい」と思わせるような発言がよかった。

▲「まとめ」は必要なのか。

▲教材名にもある「ほのぼの」という言葉に着目した授業にしてもよかった。

②児童の実態に応じた道徳の授業における議論の形の追究

◎必要に応じて近くの席の児童同士で小グループを作って話し合わせる対話の形式が、より多様な意見を引き出すことに有効であったか。

○グループで強制するのではなく、必要に応じて話したり、自分で書いたりして児童の実態に合っていた。

▲一人で考える時間を設けてもよかった。

(7) 道徳教育の抜本的改善・充実に係る成果と課題

ア 道徳意識に関するアンケートの結果から

道徳意識に関するアンケートについて、児童と保護者、教師では5月と11月の結果を比較したときに、肯定的回答が増えている項目に違いがみられた。(児童：4項目、保護者：6項目、教師：8項目) どのカテゴリーでも増加傾向を示したのは「③勉強や係の仕事、そうじなどをきちんと最後までやっている(児童アンケートの文言)」であった。このことから、責任をもって自分の仕事や役割を果たそうとする児童の割合が増加したと考えられる。逆にカテゴリーで乖離がみられたのは①の自己肯定感に関する項目である。(児童68.8%、保護者70.3%、教師41%) これは、児童と保護者に対しては「自分(お子さん)にはよいところがある」という文言だったのに対し、教師に対しては「自己肯定感」という文言を用いたために、捉え方に違いが生まれたことも考えられるが、得意ではないことに対して非常に消極的であるという本校児童の実態を反映した結果とも考えられる。

また、⑥の規則の尊重に関する項目についても同様に乖離がみられる。(児童79.3%、保護者80.1%、教師50%) ただしこれについては、5月と11月との比較で見た場合、肯定的回答の割合が保護者(5月：73.5%→11月：80.1%)、教師(5月：21%→11月50%)と増加傾向にあるのに対し、児童は(5月：81.3%→11月：79.3%)と逆に減少傾向を示している。このことから、児童の規則やきまりについての認識が高まり、より自分を客観的に見つめることができるようになってきているということが考えられる。

保護者と教師のアンケート結果の傾向に比べ、児童の結果に減少傾向が多いのは、肯定的なとらえ方をすれば、⑥と同様なことが推察され、客観的には道徳的意識は向上しているものの、児童一人一人の捉え方が自分に厳しくなる傾向が生まれており、必ずしも意識が低くなっているとは言えないと考えられる。ただし、今後の課題として、児童自身にも道徳意識の高まりが自覚できるような指導の仕方について考えていく必要がある。加えて、児童と教師の両方のカテゴリーで減少していたのは「⑧動物や植物を大事にしている。」であった。これについても、教材研究や授業の進め方にさらなる工夫が必要であると考えられる。

イ 教科道徳に関するアンケートの結果から

教科道徳に関するアンケートについて、児童と教師の両方のカテゴリーで増加傾向を示したのは「④自分の意見を友達に聞いてもらうのは好き」と「⑦自分のこととして本音を言っている」の2項目である。このことから、道徳の授業において、問題を自分事として捉え、積極的に意見を話すことに対して肯定的な傾向が増加していると考えられる。

一方で、児童のカテゴリーでは「①道徳の授業が好きだ」や「⑤友達の意見や考えを聞くのが好きだ」「⑨正しい判断ができるようになってきた」の項目において減少傾向がみられる。⑤や⑨の項目については、自分の意見を話すことが好きな傾向がある一方で他者の考えを受け入れない傾向があるというのが課題である。この問題を解決することで⑨の正しい判断ができるようになってくるのではないかと考える。また、①の道徳の授業が好きだ児童の減少については、様々な原因が考えられるが、(自分では判断に困ってしまうような課題や発問、話すのが得意な児童中心になってしまうような展開等)児童の実態についてさらに丁寧に分析を行い、児童一人一人が「話し合ってみよう」と思うような授業の工夫が一層求められる。

教師側の肯定的回答割合が軒並み増加しているが、中でも道徳の授業の進め方に関する設問について増加しており、本研究のねらいの一つは達成できたと考えられる。

ウ 研究協議会のまとめから

研究仮説

道徳的価値に対する考え方や感じ方、生き方に迫ることのできる発問の工夫をしていくことや、児童の実態に応じた道徳の授業における議論の形を追究することで、児童が問題を自分事として捉え、善進し、正しい判断をする力が身に付くであろう。

(ア) 児童の実態を踏まえて設定された善進のポイントが、児童一人一人の道徳的価値に対する考え方や感じ方、生き方を深めることに有効だったか。

【成果】

- ・本校児童の道徳的価値に対する理解は個人差が非常に大きかったため、これを設定することで一人一人の価値に対する理解の深まりを認めることができ、有効であった。

【課題】

- ・善進のポイントを設定するには、児童の実態をきちんと把握することが不可欠であるため、どのように把握するのがよいのか。

(イ) 心の引き出しを「開く」「増やす」「選ぶ」を意識した授業展開が、児童一人一人の道徳的価値についての考え方や感じ方、生き方を深めることに有効であったか。

【成果】

- ・「開く」場面では授業という土俵に児童一人一人を乗せる、「増やす」場面では多面的・多角的な思考について触れる、「選ぶ」場面ではよりよい道徳的価値について考えるために指導者がそのような授業になるよう意識しながら教材研究を行うことによって、児童一人一人の道徳的価値の深まりにつながっていた。

【課題】

- ・「選ぶ」場面では、行動面のみの変容ではなく、内面の変容がある展開にするためにはどのようにすればよいのか。

(ウ) 道徳的価値に対する考え方や感じ方、生き方に迫ることのできる発問や授業展開の工夫

【成果】

- ・心情メーターや比較、役割演技などの展開の工夫によって、児童が課題を自分事として捉えることができていた。
- ・事前アンケートを取ることに加え、展開の途中においてアンケートに戻ることで、一層児童が多面的・多角的な思考をすることができた。
- ・児童の実態に基づいた揺さぶりをかける補助発問が非常に有効であった。

【課題】

- ・終末における「まとめ」のあり方はどうあればよいのか。
- ・児童の実態に応じてワークシートの内容やノートのとり方をかなり厳選したが、やはり思考の足あとが残ったほうがよいのではないか。

(エ) 児童の実態に応じた道徳の授業における議論の形の追究

【成果】

- ・児童の実態に応じて議論の形を工夫することで、学級内に「話し合いたい」という雰囲気生まれ、話し合いのための話し合いではなく、課題を解決するための話し合いが生まれた。

【課題】

- ・自分の意見を積極的に話さない児童について、どのように考えを取り上げていくか。

道徳科学学習指導案

10月21日 5校時(2年1組教室)
第2学年1組(28名)
指導者 教諭 柿崎 倫子

- 1 主題名 よいことをすすんで < A 善悪の判断、自律、自由と責任 >
- 2 教材名 ぼんたとかんた (出典名 教育出版 小学道徳2 はばたこう明日へ)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について (価値観)

本教材は学習指導要領の「A 主として自分自身に関すること」の(1)「よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと」に関わる教材である。人として行ってよいこと、社会通念として行ってはならないことをしっかりと区別したり、判断したりする力は、幼いときから徹底して身に付けていくべきものである。しかし、低学年は悪いことと知りつつも周囲に流されてしまったり、自分の弱さに負けてしまったことがある。行ってよいこと、行ってはならないことが区別できる力を養う。よいと思ったことは恐れずに勇気をもって行う。そして、自分で判断したことを実行したこと、「やってよかった」という喜びやすがすがしい気持ちになるということに気付かせたい。

(2) ねらいに関わる児童の実態について (児童観)

本学級の児童は素直に話を聞くことができる。学習や学校生活の中で成長したい、よりよくありたいと思っている児童も多い。好奇心旺盛で様々なことに挑戦し、前向きな学習態度である。2年生になって友達との関わりも増えてきた。「みんなと一緒にだ」と「友達とやったらできた。」というように、友達と関わるよさを実感しながら生活している。

一方で「おもしろそうだったから」「みんなもやっていたから」という理由で、してはならないことをやってしまう児童も多い。担任や保護者がいないところや気持ちが高まってしまったときに自分を抑えることができず、衝動的に行動をしてしまう。落ち着いて振り返れば何が悪かったのか口にするところができるが、自分の意思で「つられなくて、やらなかった。」「自分で考えてよい行動ができた。」という経験が少なく、本時の学習を通して、自分で考えて、よい行動をするという意欲を高めたい。

(3) 教材について (教材観)

本教材は、仲よしのかんたに禁じられている裏山での遊びを誘われる場面から始まる。かんたは、ほんたを置いてどんだん裏山に行ってしまう。ほんたは、裏山には行ってはいけないことは分かっているが、誘われてしまえばどうしようもないのか悩んでしまう。このようなのは児童の生活の中でも起こりうる場面設定であり、自分のこととして考えやすい教材である。まず、ほんたがかんたに誘われて「じつと考えた」ことに着目させ、ほんたがよく考えて自分で決めたことに気付かせる。つぎに、ほんたが「ぼくは行かない。」と伝えたことで、かんたも自分で考え「行かない」ことを決め、最後は二人とも仲よく

ぶらんこに揺られている場面を確認する。ぶらんこに揺られている二人の気持ちについて考えさせ、自分で決めることができよき気持ちになっていることに気付かせる。

主発問では、ぼんたとかんたのすばらしいところを考えさせる。そのことで、本時の主題である「正しい判断をするためにどうすればいいのか。」について考えを深めることを目指す。

4 校内研との関わり

< 研究主題 > 児童の実態に応じた「考え、議論する道徳」

～児童の道徳的価値観に対する考え方、感じ方、生き方を善進させる授業づくり～

< 研究仮説 > 道徳的価値に対する考え方や感じ方、生き方に迫ることのできる発問の工夫をしていくことや、児童の実態に応じた道徳の授業における議論の形を追究することで、児童が問題を自分事として捉え、善進し、正しい判断をする方が身に付くであろう。

本時の学習では、一人一人に心情メーター(心のメーター)で「行く」「行かない」の気持ちの強さを表現させる。メーターを動かしながら、よくないと分かっていても、迷ってしまうことやよく考えることで正しい判断ができることに気付かせたい。一人ずつメーターを用意し、表現させることで、必然的に自分の考えを伝えられると考える。また、友達とメーターを比べることで対話が生まれると考える。本時では、気持ちの強さについては深く追求せず、「行く」「行かない」どちらの気持ちもあって、主人公がよく考えたことに気付かせるツールとして捉える。(仮説の検証場面1)

展開の中盤では、登場人物のすばらしいところについて考える。ほんただけでなく、かんたのすばらしいところも考えることで、どうしたら正しい判断ができるのか考えさせたい。最後は二人とも正しい判断ができたことやその後すっきりとしたさわやかな気持ちで遊んでいる場面に触れることで、自分たちの生活でもよく考えて正しい判断をすることへの意欲を高めたい。(仮説の検証場面2)

<< 授業における「善進」 >>

児童の実態から、まだ、よいことと悪いことを区別することが難しい児童は、「行く」「行かない」気持ちについて考えることを通して「行かない」ことが正しい判断であることに気付ければ善進とする。次の段階として、二人のすばらしいところ探しを通して、「正しい判断」をするためには「よく考える」「自分で決める」などが大切なことに気付かせる、考えを広めたり深めたりしたことを善進ととらえる。

<< 「心の引き出し」について >>

授業における心の引き出しについて、次のように定義する。


- ・心の引き出しを「開く」…自分の考えを明らかにし、他者に伝える。
 - ・心の引き出しを「増やす」…対話することで多面的・多角的な考えをもつ。
 - ・心の引き出しを「選ぶ」…状況や立場に応じ、ふさわしいと思う考えを選ぶ。
- 本時の展開の中で、これらに該当する場面を設けるようにする。

5 本時の指導

(1)ねらい

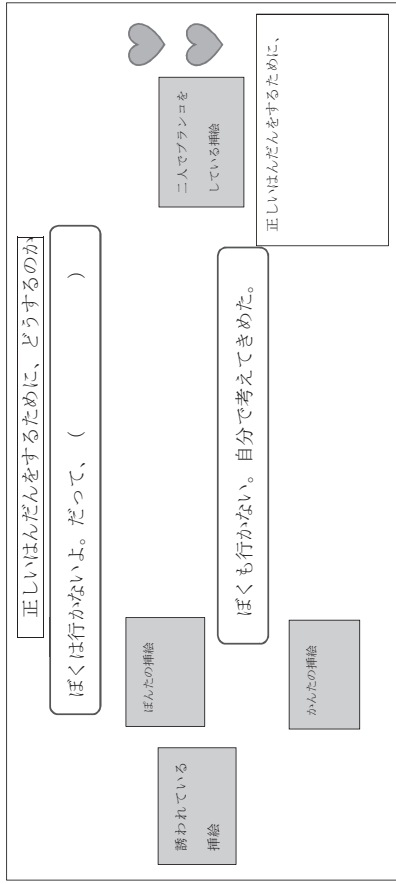
ぼんたとかんとかの行動やその理由について考えることを通して、よいことと悪いことに対する考えを深め、よいと思うことを進んで行おうとする判断力を育てる。

(2)展開

段階	学習活動 (主な発問と児童の予想される反応)	指導上の留意点、指導の工夫、評価(☆)等
導入	1 アンケートをもとに、よくないと分かっているものについて考える。 (補)正しい判断ができるか。 ・いつもできる…○人 ・できる…○人 ・時々できない…○人 ・できない…○人 2 今日、考えることを確認する。 正しいはん단을するために、どうするのか。	指導上の留意点、指導の工夫、評価(☆)等 ・事前に書かせたアンケートの結果を示して共有する。 ・友達に誘われたり、友達がやっているのを見たりして児童が迷いそうな生活場面を話題にする。
展開	3 資料の内容を確認する。 【仮説の検証場面1】 かんたにさそわれたときのぼんたの気持ちを考える。 開く ぼんたは何を考えただろう。 「行かない」 ・行っちゃダメだから。 ・けがをするかもしれない。 ・おこられる。 「行きたい」 ・かんたと遊ぶ約束をしている。 ・秘密基地に行ってみよう。 ・少しだけ行きたい。	・あらすじを捉えやすいように挿絵を提示しながら読む。 ・ぼんたが即決せずに「じつと考えた」ところを確認する。 ・「行きたい」と「行かない」のどちらの気持ちが強いかを心情円(心のメーター)で表現させてから、近くの友達と話し合わせる。 ・「行く」青色 ・「行かない」ピンク色 
5分	5 資料の内容を確認する。	・お話の展開を確認し、ぼんたが行かないと決めたこと、かんたも行かないと決めたこと、裏山には行かずに二人で遊んだことを挿絵やキーワードを書いたカードで提示する。

6	ぶらんこに揺られている二人の気持ちを考える。 ○二人はどんな気持ちで遊んでいるのだろう。 ・うれしそう。 ・いいことをしているからもっと楽しい。 ・楽しそう。 【仮説の検証場面2】 7 ぼんたとかんとかのしたすばらしいところを考える。 ○ぼんたとかんとかのすばらしいところはどこでしょう。 増やす ぼんた ・よく考えた。 ・自分の考えを伝えた。 (よいと思ったことをしている) ・自分で決めた。 ・裏山に行かなかった。 かんた ・やっぱり行くのをやめた。 ・自分で考えた。 ・自分で決めた。	・秘密基地に行かなかったのに、楽しめたのか問い返す。 ・ぼんたとかんとかのすばらしいところを探し、二人ともよく考え自分で決めて正しい判断ができたことを確認する。 ☆ぼんたとかんとかのすばらしいところを見つけている。(発言・行動観察)
終末	8 本時のまとめと振り返りをする。 ○正しい判断をするためには、どうしたらよいかまとめよう。 選ぶ ・正しい判断をするには、よく考える。 自分で決めて行動する。 先のこととも考える。 ○今日の学習で気付いたことや分かったことを書く。	・正しい判断ができたぼんたとかんとかのしたことを参考に、学習の振り返りさせよう。(ワークシート) ☆本時の学習を振り返り、正しい判断をするためにどうしたらよいか自分なりの言葉でまとめていく。(ワークシート) ・友達のを考え「いいな」と思った考えを書かせるようにする。
15分		

6 板書計画



7 アンケート

2年生 とうとくアンケート

ばん 名前

① 正しいはん단ができますか。

1 できない 2 ときどきできない 3 できる 4 いつもできる

② 友だちにさそわれたり、友だちにつられたりして正しいはん단ができなかったことはありますか。
*よくないこととわかっている、やってしまうこと。

1 ある 2 ない

③ それはどんなときですか。

道徳科学学習指導案

10月21日 5校時(3年1組教室)
3学年1組(29名)
指導者 教諭 岩村 恭也

1 主題名 きまりを守ることの意味 <内容項目C 規則の尊重>

2 教材名 新聞係 (出典:小学校道徳3 はばたこう明日へ 教育出版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について(価値観)

本教材は、学習指導要領の「C 主として集団や社会との関わりに関すること」の(12)「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。」に関わる教材である。児童は学級や学校という社会的集団の中で暮らしており、さらに広い視点で考え、その地域に住む一人、国民の一人といった社会集団の一員である。集団や社会に属するということは、そこには必ずきまり(ルール)が存在し、それらは、集団全体のことでも考えた内容になっている。そのきまりを守ることによって、集団や社会へと繋がりが、自身にとっても良いものとなる一方、きまりを破ることはよりよい集団や社会へと繋がりが、自分自身におよぼし、集団や社会の乱れに繋がりが、自分自身にとっても良くないものとなる。きまりを守ることが、集団や社会のためでもあり、そこに属する自分のためでもあるということに気付かせたい。

(2) ねらいに関わる児童の実態について(児童観)

本学級の児童は、きまりは大切であるということや、守らなくてはいけないことだということはあるものの、自分の立場や状況によっては勝手に理由をつけて守らないということがある。きまりを守らないことは自分自身にとっても良くないという考えをもつことはできるが、周りの人たちが関わっている人たちも嫌な思いをしていたり、我慢をしたりしているのだということには、あまり意識が向いていない。例えば時間を守らないことは、自分の活動の時間が減るということだが、待っている人たちの活動時間も減っているということにはあまり気付いていないのである。本時の学習を通して、自分本位な考えはもちろぬ、無意識であつてもきまりやルールを守らないことは、周りの人たちも嫌な思いや大変な思いをすることに繋がっていくというように、周りに目を向けて考えられるようにしたい。

(3) 教材について(教材編)

本教材は、新聞係である児童が次の新聞の記事に、おもしろく興味をひくものとして友達が怒らされたことを書くのかどうかという案を出す。しかし、新聞作りにもきまりがあり、きまりを守って書いた方がおもしろいという考えになり、よりよい新聞を作ることができたという内容である。登場人物のまゆは、悪気があつて記事にしようとしたわけではないが、おもしろい記事にしたいという自分本位の考えを優先し、書かれる友達のことまで考えることができていない。これは、児童の日常生活でも見られることで、きまりと分かっていながらも、自分を正当化しきまりを破ってしまうということと似ている。児童がより考えやすいようにするために、友達に怒られていた記事の新聞と、違う内容の新聞を比較しながら考える活動を取り入れ、その違いを広く深く追求することによって、ルールを守ることが自分のためにもみんなのためにもなることを感じさせていきたい。

4 校内研究との関わり

<研究主題> 児童の実態に応じた『考え、議論する道徳』

～児童の道徳的価値に対する考え方、感じ方、生き方を善進させる授業づくり～

<研究仮説> 道徳的価値に対する考え方や感じ方、生き方に迫ることのできる発問に載せた新聞をいくつかと、児童の実態に応じた道徳の授業における議論の形を追究することで、児童が問題を自分事として捉え、善進し、正しい判断をする力が身に付くであろう。

本時の学習では、教材を最後まで確認した段階で、「もしも、しゅんすけのことを記事に載せた新聞を作っていたら。」という場面を設定する。3年生の発達段階として、具体的に比較させた方が、より考えが広がったり深まったりすると考えたからである。人の失敗を載せた新聞と、載せなかった新聞とを比べると、それぞれの新聞のメリット・デメリットを話し合っていく。載せた方は「おもしろい」というメリットはあるが、それは一部の人間の興味本位のおもしろさであり、多くの人は不快に思うというデメリットがあることに気付かせる。それに対して、載せなかった方はより多くの人が安心して読める「おもしろさ」や「よさ」があるというメリットに気付かせる。そのことから、きまりを守ることが多くの人のためになつているという考えを引き出すことになつていく。

<授業における「善進」>

本時の学習で身に付けたい道徳的価値としての、ルールを守ることがなぜ大切なのか気付かない児童もいることが実態から予想される。その場合でも、「ルールを守ること」で自分がいい気持ちになる。」など、「みんなのため」までは至らなくとも、「自分のため」という考えでルールを守る大切さを考えている場合については「善進」と捉えるものとする。

《「心の引き出し」について》

授業における心の引き出しについて、次のように定義する。

- ・心の引き出しを「聞く」…自分の考えを明らかにし、他者に伝える。
- ・心の引き出しを「増やす」…対話することで多面的・多角的な考えをもつ。
- ・心の引き出しを「選ぶ」…状況や立場に応じ、ふさわしいと思う考えを選ぶ。

本時の展開の中で、これらに該当する場面を設けるようにする。

5 本時の指導

(1) ねらい

新聞作りのルールについて話し合うことをとおして、きまりを守ることの大切さに対する考えを深め、きまりを大切にしようとする心性を育てる。

(2) 展開

段階	学習活動 (主な発問と児童の予想される反応)	指導上の留意点、指導の工夫、評価(☆)等
導入	1 事前アンケートの結果を提示し、きまりについてどのように捉えているかを確かめる。	・事前に書かせたアンケートの結果を提示して共有する。
3分		

展開	<p>2 今日考えることを確認する。 なぜ、ルールは守らなければいけないの</p>	<p>3 前半の資料を読み、場面・状況をとらえる。 ○誰が出てきた？ ・新聞係、まゆ、なおひろ、しゅんすけ ○どんな場面だった？ ・新聞の記事を考えていた。 ・怒られたしゅんすけのことを記事に載せるかどうかを話していた。 ・おもしろければいいじゃない。</p> <p>4 自分なら新聞に載せるかどうかを考える。</p> <p>5 後半部分を読み、確認する。 ・みんなが集まってきて読んでいた。 ・にぎやかな声がひびきわたった。</p>	<p>・CDによる読説を聞きながら、教師側で話の状況の要点をまとめる。</p> <p>・新聞に載せるか載せないかを変化シートに記入する。</p>
【仮読の検証場面】	<p>6 二つの新聞を比べて、どのように感じるかをワークシートに記入する。</p> <p>◎ しゅんすけのことを記事にした新聞としなかった新聞を比べてみよう。どんなよいところや悪いところがあるのでしょうか。</p>	<p>・載せた場合の記事と載せない場合の記事を提示する。</p>	
7	<p>ペアで話し合いながら意見を交流し、全体でも共有する。 載せた記事はおもしろいと思う人もいるかもしれない。</p> <p>載せた新聞はおもしろいと思う人は少ないと思う。 載せない方が見えていて嫌な気持ちにならないな。 載せた新聞はちょっと嫌だな。 自分の名前だったら恥ずかしいかも。 載せない方は誰が読んでもおもしろい。 載せない方は誰も嫌な思いをしない。 他の学年の人やお家の人が見ても安心。</p>	<p>・児童から出た考えの中からキーワードを板書に残しておく。 ～キーワード～ ・悲しい思いにならない。 ・嫌な思いになる人がいない。 ・みんなが楽しい。 ・新聞の特性として、廊下等に掲示され多くの人が目にすることを押さえる。 ・二つの記事はきまりを守ったものと守らなかったものであることを押さえ、新聞作りのルールについても確認する。</p>	

8	<p>学校の生活にあるきまりを確認する。 ・ドッジボールで遊ぶときのルールがあるよ。 ・廊下を走ってはいけないきまり。 ・時間を守るというきまりがある。</p> <p>9 きまりを守ったときと守らなかったときのよいこと、悪いことについて考える。 ・仲良く遊ぶ。 ・廊下を歩くときに安全。 ・けがをしないで過ごせる。 ・みんなが気持ちよく過ごせる。 ・みんなに迷惑をかけない。</p>	<p>(時間について) ・自分の勉強時間が減る。 ・他の人の勉強時間も減る。 ・将来のためにならない。</p>	<p>・アンケートの内容を提示しながら、全体で共有する。 ・きまりを絞って考えさせる必要があるときは、一つに絞る。 ☆自分の生活に置き換えて、ルールを守った時と守らなかった時を多面的・多角的に考えている。(発言・つぶやき) ・守ることは、みんなのために自分のためにもなっていることに気付かせる。</p>
10	<p>自分の生活について振り返り、ノートに書き発表する。 ○ルールを守るということについて振り返ろう。 ・みんなが気持ちよく過ごすために必要。 ・仲良く遊ぶことができる。 ・安全だけがをしないで過ごすために大切。</p>		<p>・グループの中で発表し合い、全体でも数人の考えを共有させる。</p>
終末5分	10	考えたことを共有する。	グループの中で発表し合い、全体でも数人の考えを共有させる。

6 板書計画

自分たちのきまり

- ・廊下を歩きまわり
- ・時間を守るきまり
- ・よくない
- ・けんかになる
- ・嫌な思いをする
- ・時間なくなる

よい

- ・中々遊べる
- ・けがをしないで安全
- ・勉強時間減らない

新聞作りのルール

- ・嫌なことは書かない
- ・みんなが楽しめる

守った

記事②

- ・書いた人も読んだ人もいい気持ち
- ・だれも悲しくならない
- ・嫌な思いになる人がいない

守らなかった

記事①

- ・おもしろい
- ・自分も書かれたら嫌だ
- ・悲しい思いをするかも

新聞係

なぜルールは守らなければいけないの

挿絵

ていだ
しゅんすけこと
を載せよう

新聞記事考え

うか

一つをくらべて、どっちが好き？

※記事①は、「しゅんすけのことを載せた記事」②は「違う内容の記事」

道徳科学習指導案

10月21日 校時（5年1組教室）
第5学年1組（30名）
指導者 教諭 松生 大介

- 1 主題名 相手の立場に立って <B 親切 思いやり>
- 2 教材名 ほのぼのテスト （出典名 教育出版 小学道徳5 はばたこう明日へ）
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について(価値観)
本教材は学習指導要領「B 主として人との関わりに関すること。」に関わる教材である。同価値項目については、低学年では「相手のこと」、中学年では「相手の気持ち」を考えるという学習を経てきた。5年生においては、そこからさらに相手の置かれている立場や背景、状況まで考慮して、「相手の立場」に立って親切にすることを意識させていく。さらに、様々な相手に応じて、その人にとっとうさうすることが大切なのか考えることも思いやりであるということに気付かせるようにしたい。

(2) ねらいに関わる児童の実態について (児童観)
普段の生活の様子を見ていると、友達が困っているときに手さしの手をささる児童が多い。宿泊学習を通して、仲間同士助け合っって活動することの大切さについても学ぶ経験を経た。
親切にする場面は、困っていることを表に出している人を助ける場合や、困り感が表出していない相手でも相手のことをおもんばかって助ける場合や本当に相手のことを考えて助ける場合、さらに相手も助けてしまう場合、親切にする対象だけを認めてしままい、それ以外の人が困ってしまう場合など実に様々なケースがある。本学級の児童も、「親切・思いやり」という言葉に対する理解度の浅深、実践の多様多様さがうかがえる。本教材を取り扱う中で児童達には、様々な立場に立って考え、誰に対しても思いやりの心をもって行動できる心の引き出しを増やすことをねらうていく。そして、高学年としてのリーダーシップを発揮して下級生と接していくことができるようにさせたい。

(3) 教材について (教材観)
本教材は、特急バスでの出来事を通して、様々な立場に立って考えながら相手に親切にするにはどうすればよいかについて考える教材である。普段の生活においてそういった場面に遭遇することはよくあるが、児童の日常とはややかけ離れている教材と言える。そこで、役割演技を取り入れることで「おじいさん」と「乗客」という登場人物の立場について理解を深めていく。また、表を用いて双方の立場や考えの違いを明確にしている。
また、展開後半の「もし自分が運転手だったらどうするか」考える場面では、出された意見を「おじいさんを第一に考える」「乗客を第一に考える」「両方を第一に考える」の3つに分類する。こうすることで、一見親切ではないと感じる運転手の行動が「両方を第一に考える」方法だったということに気付かせていきたい。

4 校内研との関わり

<研究主題> 児童の実態に応じた「考え、議論する道徳」
～児童の道徳的価値観に対する考え方、感じ方、生き方を普遍させる授業づくり～

<研究仮説> 道徳的価値に対する考え方や感じ方、生き方に迫ることのできる発問を工夫していくことや、児童の実態に応じた道徳の授業における議論の形を追究することで、児童が問題を自分事として捉え、善進し、正しい判断をする力が身に付くであろう。

本時の学習では、まず、バスを停めたときと停めないときのおじいさんと乗客の気持ちについて、それぞれの立場に立って考えさせる。その後、自分たちなりの対処方法を考えさせるときには、運転手の立場に立って考えることを伝える。立場の違いを明確にさせる発問を行うことで、児童の思考が整理され、「バスを停める」または「停めない」以外の、おじいさんと乗客の双方を救う考えを引き出すことができると考える。さらに、この問いは答えがひとつではないが故に即答することが難しいことから、必要に応じて近くの席の児童同士で小グループを作って話し合わせる。児童にとっとうさう必要のある対話の形態がそこで生まれるとともに、自分の考えを仲間に認めてもらったり、出された意見をグループ内でさらに深めていったりすることで、より多様な意見を引き出すことができると考える。

<<授業における「善進」>>

展開終末の「相手の立場に立って親切にするとはどういうことか」について考えさせる場面では、「おじいさんと乗客の両方を第一に考える」という考えに気付けない児童もいることが予想される。そういった場合でも、「初めはおじいさんのことしか考えられなかったが、乗客のことも考えなくてはいけないからバスは停めない方がよい」等、導入段階と比べて心の引き出しが増えた場合は「善進」と捉えるものとする。

<<「心の引き出し」について>>

授業における心の引き出しについて、次のように定義する。

- ・心の引き出しを「開く」 …自分の考えを明らかにし、他者に伝える。
- ・心の引き出しを「増やす」 …対話することで多面的・多角的な考えをもつ。
- ・心の引き出しを「選ぶ」 …状況や立場に応じ、ふさわしいと思う考えを選ぶ。

本時の展開の中で、これらに該当する場面を設けるようにする。

5 本時の指導

(1) ねらい

別々の立場に立つ人の気持ちについて話し合う活動を通して、相手の気持ちを考えて行動することの大切さに気付き、相手の立場に立って親切にしようとする心情を育てる。

(2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点、指導の工夫、評価(☆)等
導入	(主な発問と児童の予想される反応) 1 事前アンケートの結果をもとに、親切にすることの意味について考える。	・アンケート「親切にするってどういうことだろう」の結果を示す。
5分	2 課題について確認する。 相手の立場に立って親切にしようということだろう	

***各種法令等**
 ・日本国憲法、学校教育法、(改正)教育基本法、(改正)学校教育法施行規則新指導要領など
***社会的要請**
 ・少子化や家庭の教育力低下、生涯学習社会、いじめ問題、急激な社会への変化への対応、道徳の教科化への対応
***青森県の方針(道徳教育)**
 ・道徳的実践力を高める指導の工夫
 ・豊かな心を育む体験活動の推進
 ・郷土に関する資料の開発と活用
***事務所の方針**
 ・人間としての在り方や生き方の自覚を促す指導
***町の方針**
 郷土に誇りをもち新しい時代を切り開く児童の育成

学校教育目標 夢や希望に向かってチャレンジ

努力目標
 ・みんなとなかよくしよう
 ・自分で考え学び合おう
 ・健康な体をつくろう

学校目標
 正しい判断ができる子

道徳教育の目標
 一人一人の子どもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもつことができるよう、教育活動全体を通じて道徳性の育成に努める。

道徳教育の重点目標
正しい判断をする力の向上

道徳科の指導の方針

- ① 道徳教育を推進する指導体制と全体計画の整備・充実
- ② 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる指導の工夫
- ③ 郷土を愛する心を育む指導の充実
- ④ 道徳科における学習状況及び道徳性に係る成長の様子の継続的な把握と、評価を生かした指導の工夫

- (1) 児童の願い
 ① 認め合い仲良くできる学校
 ② 勉強がよく分かり楽しい学校
 ③ 楽しく運動ができる学校
 (2) 保護者の願い
 ① やさしきや思いやりのある子ども
 ② 礼儀・あいさつ・言葉づかい・整理整頓などがきちんとした子ども
 ③ 健康な子ども
 ④ 事故のない安全な学校
 (3) 教師の願い
 ① 思いやりや向上心、認め合う心、感動する心など豊かな子ども
 ② 基本的な生活習慣の身についた子ども
 ③ 進んで働く子ども
 ④ 話す、読む、書くなど基礎的学力の定着
 ⑤ 進んで学び考える子ども
 (4) 地域の願い
 ① 事故やけがのない安全な生活
 ② 地域とともに歩み開かれた学校

各教科における道徳教育

道徳との関連を踏まえ、各教科の指導目標の達成を図ることによって、児童一人一人の学力を身につけさせるとともに、道徳的心情を豊かにし、道徳的判断力、道徳的実践力を養う。

国語	豊かな情操を養うとともに、読んだり話したりする活動を通して、言語感覚を養い、相手を尊重する態度を培う。
社会	人々の工夫や努力に触れることにより、よりよい社会生活を目指す心や探求心を培う。
算数	数理的・合理的に処理する習慣の育成と筋道を立てて根気強く解決しようとする態度を育てる。
理科	自然現象に触れ、自然の不思議さや仕組みを理解することにより、自然現象への畏敬の念や探求心を培う。
生活	具体的な活動や体験を通して、生活上に必要な習慣や技能を身につけさせ、自立への基礎を養う。
音楽	音楽作品に触れ、演奏や歌唱活動を通して、音楽の美しさや感動を味わい、音楽へのあこがれをはぐくむ。
図工	作品を制作したり鑑賞したりする活動を通して創造性を培うとともに、個性を尊重する態度を養う。
家庭	家族の一員としての役割を自覚し、責任を果たそうとする態度を培うとともに、家族を愛する心を育てる。
体育	健康で安全な明るい生活を営む意欲を育てるとともに約束やきまりを守り、互いに協力して取り組む態度を養う。

低・中・高学年の重点目標

	低学年	中学年	高学年
自分	よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。 A-1	正しいと判断したことは、自信をもって行うこと。 A-1	自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。 A-1
他の人	友達と仲よくし、助け合うこと。 B-9	友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。 B-9	友達と互いに信頼し、学び合っって友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。 B-10
集団社会	約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。 C-10	約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守る。 C-11	法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たす。 C-12
生命自然	生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。 D-17	生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。 D-18	生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。 D-19

総合的な学習の時間における道徳教育

いろいろな人との関わりを生かした活動を通して、自分自身を見つめ、互いに認め合い、高め合うことの意義に気づくとともに、自分なりの夢をもち、それを叶えるために努力しようとする態度を育てる。

外国語活動における道徳教育

外国語を通じてコミュニケーション能力の素地を養うとともに、言語や文化について体験的に理解を深めることで、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努めようとする態度を育てる。

特別活動における道徳教育

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸張を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。

道徳科の時間

課題を【つかむ】、自分の考えを【もつ】、【話す・聞く】、他者の考えを【認める】、考えを【磨く】、自分で【決める】、【振り返る】、次に【いかす】こと(石鉢磨き)を通して学び、より正しい判断ができるよう、学習を通して「道徳的判断力・心情・実践意欲と態度」を育てる道徳性を養う。

- ・石鉢磨きを踏まえた授業の展開、検証
- ・評価・板書の仕方
- ・有効な教材や教具

学級活動	学級生活の充実と向上を図り、健全な生活態度の育成に資する活動を行うことにより、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
児童会活動	児童の自主的・実践的な活動や異学年交流を通して、一人一人のよさを認め合い、互いに思いやりながら協力して活動しようとする態度を育てる。
クラブ活動	共通の興味・関心を追求する自発的、自立的な活動を通して、自主性と社会性を養い、仲間同士で協力し合う態度を育てる。
学校行事	行事への積極的な参加を通して、学校及び学年集団への所属感を深め、集団行動における望ましい態度や協力してよりよい学校生活を築こうとする態度を育てる。

学習空間の整備・充実

学校内の望ましい人的・物的環境作りを心掛け、より充実した学習空間の中で学校生活を体験させることを通じて、児童一人一人の道徳性の育成を図る。

- ・人的環境づくり：言葉遣いなど、教師が日々の生活の中で児童の模範となるよう行動するとともに、個々の児童の実態を正しく把握する。
- ・言語環境づくり：正しい言葉遣いの励行と基本的な生活習慣の確立に関わるような掲示物を工夫する。
- ・物的環境づくり：整理整頓を心掛け、明るく清潔な環境整備を図る。

道徳科の年間指導計画

学級における指導計画
 学年・学級経営

幼稚園・中学校・家庭・地域との連携

幼稚園(保育園)・中学校・家庭・地域と、学校の目指す道徳教育について理解を求め、連携して児童の道徳性の育成を図る。

- ・学校だより、学年だより、学級だよりで心の成長に関わる内容に触れる。
- ・授業参観、家庭訪問、教育相談、子ども会活動への協力
- ・学校保健委員会
- ・幼稚園(保育園)・中学校への訪問
- ・生徒指導に関わる諸問題についての情報共有

教育活動全般における道徳教育

朝・帰りの会、朝活動、休み時間、給食、清掃の時間などを通して、基本的な生活習慣の形成を中心とした道徳的実践力を育成する。

階上町立道仏中学校



道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業

完了報告書

(階上町立道仏中学校)

1 道徳教育に関する改善状況の概要

本校では、道徳の教科化、新学習指導要領の全面実施を受けて、道徳の充実に向けて全校で取り組めるよう学校の体制から見直しを図ってきた。

今年度は、道徳教育の抜本的改善・充実のために、校内研究において「対話を通じ自分の考えを広げ深める力を育てる指導方法の研究～自分の考えを再構成し、より深く理解する活動を通して～」を研究主題に掲げ、道徳教育の重点目標である「自律心や自主性をもち、規律ある生活をする生徒」「それぞれの個性や立場を尊重して人と関わる生徒」「自らの将来の生き方を考え主体的に社会の形成に参画する生徒」「夢や希望をもち、よりよく生きる喜びを見いだそうとする生徒」の育成を目指すに当たり、次の3点を改善項目として挙げた。

- (1) 本校の道徳教育の重点目標に基づき、年間指導計画及び別葉の見直し・改善、実施における生きて働く指導の工夫を図り、教育活動全体を通じて道徳教育の充実を図る。
- (2) 道徳教育の要として「考え、議論する」授業実践を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲・態度を育て、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。
- (3) 生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導と評価の一体化を図る。

そして、道徳教育の抜本的改善・充実を目指して研究を進めるなかで、次の3点が道徳の授業づくりにおいて重要であると捉え、共通理解し実践してきた。

- (1) 初めに考えさせたいこと、着地点を決める。
 - ア 本時の道徳的価値を明らかにするために、学習指導要領で内容項目を深く理解する。
 - イ 学習指導要領と生徒の実態から「考えさせたいこと、着地点を決める」。
 - ウ 自分事として考えたことをどう見取るか評価の方法を考える。個人内の成長が自覚できるように「認める」「励ます」ことを意識する。
- (2) 授業の入り口を広くする。
 - ア 自分のこととして考えられる工夫やしかけをする。
 - イ 授業者と生徒のやりとりの中から課題を設定し、「今日も勉強したい！」と思えるようにする。
 - ウ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めていく展開にする。
- (3) 発問や問いかけを精選する。
 - ア 考えを深めるために多面的・多角的な見方ができる工夫をする。
 - イ 教材や人物に対する多様な立ち位置を生かして、はっきりと伝わる発問にする。
 - ウ 中心発問は20分までにし、話し合いや考えを深める時間を確保する。

その結果、次のような改善が見られた。

- (1) 年間指導計画及び別葉、研究体制を見直すことで、日常的に道徳教育について考える環境を整えることができた。ローテーション授業や、各学年の道徳科の進捗状況の確認などが学校全体で行われるようになり、指導体制の面から道徳教育を推進することができた。
- (2) 「考え、議論する」授業実践のために、何を行っていくのか共通理解し、授業実践を積み重ねる

ことで、授業者の道徳の授業づくりに対する視点が変化してきた。指導案の検討や授業参観をする際、「道徳的価値にせまる内容になっているか」「自分事として考えられているか」「思考が再構成され、深まっているか」を意識するようになり、授業づくりの観点から道徳教育を推進することができた。

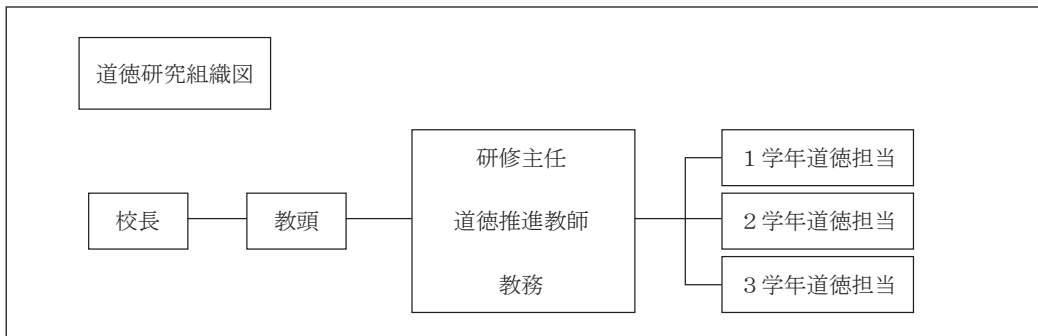
(3) 生徒の道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導と評価の一体化を図ることで、主体的に道徳の授業に参加する生徒が増えた。ノート記述やクロームブックへの記述を確認し、個人内の成長を「認める」「励ます」ことで、より活発な意見交流が行われるようになり、評価を生かすという点において道徳教育を推進することができた。

2 実施した研究内容

(1) 研究体制や全体計画の見直し

ア 研究組織の見直し

全教員で「考え、議論する」授業方法を研究するために、各学年に道徳担当教師を配置した。研修主任や道徳推進教師から発行された便りを、道徳担当教師が共通実践内容として共通理解を図ることで、学校全体で足並みをそろえて授業を行えるようにした。



イ 各教科等と道徳的価値との関連を図った指導計画の見直しや焦点化

道徳の全体計画には、各教科と道徳教育の関連を記載し、全教科で道徳的価値を確認しながら学習を進めた。また、特別活動や生徒指導との関連も記載し、教育活動全体で道徳的価値を確認しながら学習を進められるようにした。

特別活動や生徒指導での関連を記載し、教育活動全体で道徳的価値を確認しながら学習を進めていく。

各教科と道徳教育の関連を記載し、全教科で道徳的価値を確認しながら学習を進めていく。



※ P50 参照

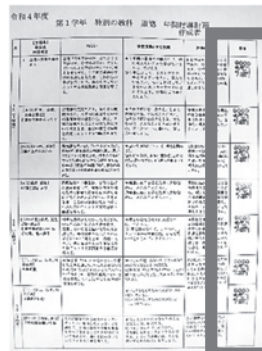
ウ 進捗状況の可視化

職員室に道徳コーナーを特設し、各学年の道徳の進捗状況、授業実践の様子や共通理解したい内容を掲示し、研修の日常化を図った。

道徳コーナーの様子

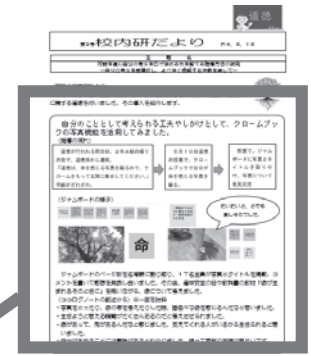


進捗状況の確認



年間指導計画にスタンプを押すことで、一目で進捗状況を確認できるようにした。

実践例などを紹介し、共通理解に役立った。



校内研だより

エ ローテーション授業の実施

学年に所属する教員が、交代で授業実践し、授業を見せ合うことで日常的に研修できるようにした。



(2) 授業展開の工夫

ア 多面的・多角的な視点から振り返って考えさせる発問の工夫

道徳的価値にせまるため、発問や問いかけを精選する必要があると考えた。様々な講義や演習を経て、発問や問いかけを精選する際の視点として、「考えを深めるために多面的・多角的な見方ができる工夫をする」こと、「教材や人物に対する多様な立ち位置を生かして、はっきりと伝わる発問にする」こと、「中心発問は20分までにし、話し合いや考えを深める時間を確保する」ことが大切であることを共通理解した。

また、発問を考える手立てとして、青森県総合学校教育センター義務教育課指導主事松尾和明氏から、発問を4区分に整理して考える方法を教えていただき、発問内容を検討する演習を行った。

イ タブレットの効果的な活用の工夫

タブレット端末のふせん機能を道徳の授業で毎時間活用した。グループ毎に意見を出し合う場面や意見を比べる場面、意見を選ぶ場面で活用することができた。3人の班で意見を出し合うときには、右の写真のように付箋の色を割り当てることで、誰が書いた意見なのか瞬時に確認することがで



きる。また、意見を出し合った結果、自分が影響を受けた意見を選ばせる際には、付箋を大きくするなどの工夫を行った。

ウ 他者との対話活動を通して考えたことや感じたことの言語化

授業実践の際、導入で授業の内容を自分事として捉えさせ、展開部分で物語の登場人物の考えや他の生徒の考えにふれさせ、最後は振り返りをノートに記述させることで自分の考えを言語化させた。道徳の内容項目に対する自分の考えをはっきりと捉えさせ、教材理解や対話などで考えを広げ、最後には自分の考えを言語化させることが、個人内の成長を評価するために有効であった。

(3) 評価方法の改善と活用

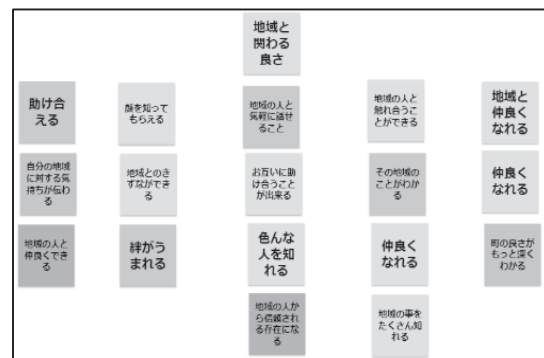
ア ノート記述の分析、活用

ココログノート（浜島書店）を活用し、発表の様子や話し合いの様子に加え、学習状況や成長の様子を継続的に把握し、指導と評価の一体化を目指した。松尾指導主事から「認める」「励ます」が大事であると教えていただき、授業後には、認めたり励ましたりするようなコメントをココログノートに記入するよう共通理解し、実践してきた。ココログノートを活用することで、授業の導入での意見と終末での意見を比べることができ、個人内の成長を評価するのに役立った。

イ タブレット記述の分析、活用

タブレット端末のふせん機能は、主に考えを広げる場面で活用した。多くの意見に瞬時にふれられることから、考えを広げ深めるために役立った。

ノート記述を合わせて、分析することで多くの意見にふれた後、どのように考えが再構成されたのか分析する手助けとなった。



(4) 校内研修の実施

ア 青森県総合学校教育センター義務教育課 指導主事 松尾和明氏による講話

「特別の教科道徳の授業づくり」のために、「発問の立ち位置・4区分シートの活用」について講義いただき、演習を行った。講義の内容から、授業づくりの際には、次の3つが大切であることを学んだ。1つ目は、学習指導要領が示す道徳的諸価値について理解すること。2つ目は、道徳的価値と生徒の実態からねらいを設定すること。3つ目は、ねらいにせまる中心発問を考えることである。その後、発問の立ち位置・4区分シートを活用して考えた中心発問を起點に逆算して授業を組み立てる演習を行った。テーマを明確にし、ぶれない、つながりのある授業を構想するための手立てを学ぶことができた。

イ 共通実践内容を確認するための校内研だより

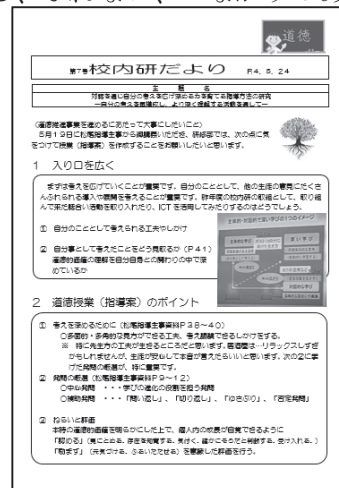
研究授業や協議会、講義・演習で学んだことは、校内研だよりで確認し、内容を絞って共通実践を促した。ローテーション授業などが、授業を構成するための視点を明確にすることで、より研修としての意味をもてるようになった。

「初めに考えさせたいこと、着地点を決める。」「授業の入り口を広くする。」「発問や問いかけを精選する。」の大きく3つの視点をもって授業を行っている。

(5) 研究授業及び研究協議会の実施

ア 第1回研究授業（5月）

2学年「礼儀」B-（7）を主題とし、教材「秀さんの心」（光村図書）を用いて研究授業を



実施した。研究協議会では、以下のような意見が出された。

- ・役割演技をすることで、生徒同士の気づきがあった。
- ・教師と代表生徒の役割演技から、学びを得られる生徒が多かった。
- ・主発問が適切だったため、生徒が礼儀について考えられていた。
- ・発問が絞られていてよかった。
- ・主発問までの発問や問いかけをもっと工夫する必要がある。
- ・秀さんの気持ちが分からない生徒もいたので、演じる役割は再考が必要。
- ・礼儀があいさつに限定されていた。幅広く考えさせられればよかった。

また、研究授業と研究協議を参観した青森県総合学校教育センター指導主事松尾和明氏から指導助言をいただき、次の内容を共通実践することにした。

- ・中心発問は学びの深化の役割を担う発問であり、特に精選する。補助発問は、問い返し、切り返し、ゆさぶり、否定発問など目的に応じて使い分けをする。
- ・ねらいや評価は、本時の道徳的価値を明らかにした上で、生徒の実態を把握し、個人内の成長が自覚できるように工夫しながら決めていく。生徒が成長を実感できるように、「認める」「励ます」を意識して指導する。
- ・より考えを深めさせるために、多面的・多角的な見方ができる工夫をする。
- ・自分事としてとらえられる授業展開の工夫が必要であり、それをどのような方法で評価していくかを考えていく。

イ 第2回研究授業（6月）

1 学年「社会参画、公共の精神」C－（1 2）を主題とし、教材「紙芝居」（光村図書）を用いて研究授業を実施した。研究協議会では、以下のような意見が出された。

- ・生徒全員が話し合い活動に参加していた。異なる意見にふれることができた。
- ・意見交換の途中、生徒の意見を紹介したことが、再構成の助けとなっていた。
- ・第三者視点で考えさせる発問で、多面的・多角的に考えることができていた。
- ・思考ツールの活用で生徒が意見交換しやすかった。
- ・アンケートを利用することで自分事として考えていた。
- ・ICTの活用や生徒の役割分担で、時間短縮できたのではないかな。
- ・登場人物を精選してねらいに向かいやすくしてもよかったのではないかな。



また、研究授業と研究協議を参観した三八教育事務所指導主事川井利之氏から指導助言をいただき、次の内容を共通実践することにした。

- ・授業者が内容項目を深く理解する。
- ・生徒の実態から「考えさせたいこと、着地点」を決める。
- ・児童生徒がじっくり考え、議論する場面と時間を確保するために、発問と学習活動の数をできる限り絞り込み、シンプルでコンパクトな（分かりやすい、単純明快な）授業展開を目指す。
- ・導入で「今日も勉強したい」と引きつける。
- ・できるだけ早く教材から離れ、授業開始20分までに中心発問をする。
- ・自分内の思考がたっぷりある授業にする。
- ・必要感のある話し合いや意見交流にする。

ウ 公開授業（10月28日実施）

10月28日に公開授業を開催した。参加した階上町内の小・中学校教員に対し、本校の道徳教育の取組を説明するとともに、これまで研究してきた内容を盛り込んだ授業を参観していただき、研究協議を行った。3学年「遵法精神、公德心」C-（10）を主題とし、教材「闇の中の炎」（光村図書）を用いて研究授業を実施した。研究協議会では、以下のような意見が出された。

- ・導入で事前アンケートを活用したことで、自分事として捉えられていた。
- ・事前アンケートを振り返りの場面で返却したことで、生徒は個人内の変容を自覚できていた。
- ・ICTを活用することで、時間短縮ができていた。
- ・思考ツールを活用し、生徒が考えをまとめる手助けとなっていた。
- ・思考の流れが個人、集団、個人という順になっていたことで、考えが再構築され、深まっていたようだ。
- ・補助発問の精選がもっと必要だったのではないかと。

導入時に扱った「ブラック校則」が、教材で扱われている「盗作」とつながりが難しくねらいを捉え切れていない生徒がいたのではないかと。

公開授業と研究協議を参観した青森県総合学校教育センター指導主事松尾和明氏から指導助言をいただき、次の内容を共通実践することにした。

- ・考え、議論する道徳の実現のために感じ方や考え方をより明確に表現する方法を工夫していく。
- ・一つの場面で、生徒が色々なことを考える展開にする。
- ・小学校での道徳的価値、高校での道徳的価値を理解し、系統的に指導する。
- ・他の教育活動との関連を意識して指導にあたる。



3 実施経過とその体制

月	取組の内容	備考
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施計画の確認 ・全体計画、年間指導計画、別葉の作成と見直し ・校内研修計画書の共通理解 ・道徳性検査（4月実施分）分析① ・授業研究①（指導案検討、協議会含む） 2年A組授業「秀さんの心」 （指導助言：青森県総合学校教育センター 義務教育課 指導主事 松尾和明氏） 	<ul style="list-style-type: none"> ・HUMAN ・指導主事要請
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究②（指導案検討、協議会含む） 1年A組授業「紙芝居」 （指導助言：三八教育事務所 教育課 指導主事 川井利之氏） 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・県道徳教育推進協議会への参加①(7/5) 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育に関わる講習会 （講話：青森県総合学校教育センター 義務教育課 指導主事 松尾和明氏） 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導主事要請
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案検討会 	

10月	<ul style="list-style-type: none"> 管内小・中学校道徳教育研究協議会参加 公開授業（講師要請） 3年A組授業「闇の中の炎」 公開授業研究協議会 （指導助言：青森県総合学校教育センター 義務教育課 指導主事 松尾和明氏） 道徳研究協議会アンケートの集計・分析 	<ul style="list-style-type: none"> 石鉢小学校 指導主事要請
11月	<ul style="list-style-type: none"> 第56回全日本中学校道徳教育研究大会山形大会 授業動画視聴（全学年） オンライン質疑交流参加 道徳性検査実施・分析② 学校評価（保護者）アンケートの実施・分析 	<ul style="list-style-type: none"> HUMAN
12月	<ul style="list-style-type: none"> 研究のまとめ（成果と課題の確認） 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> 県道徳教育推進協議会への参加②(1/17) 結果報告 道徳教育パワーアップ協議会への参加(1/27) 実践事例発表 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> 研究の報告 研究紀要の作成 	

研究体制については 2 実施した研究内容（1）研究体制や全体計画の見直しに記載。

4 取組の成果と課題

（1）道徳教育の抜本的改善・充実に係る成果の概要

ア 研究体制や全体計画の見直しによる成果

年間指導計画及び別葉、研究体制を見直し、ローテーション授業や、各学年の道徳科の進捗状況の可視化を行うことで、日常的に道徳教育について考える環境を整えることができた。それにより、職員全体の「道徳教育を教育活動全体で行っていく」意識を高めることができた。

また、これらの取組を行った上で、教科横断的な道徳を校内研だよりなどで啓発することで、別葉の改善・活用につながった。

イ 授業展開の工夫による成果

研修や授業実践、研究協議を積み重ねることで、本校が考える道徳科の授業展開を考えるための視点を具体的に示し共通実践することができた。以下が視点の具体的な内容である。

【初めに考えさせたいこと、着地点を決める】

- ・本時の道徳的価値を明らかにするために、学習指導要領で内容項目を深く理解する。
- ・学習指導要領と生徒の実態から「考えさせたいこと、着地点を決める」
- ・評価の方法を考える。自分事として考えたことをどう見取るか考える。
- ・個人内の成長が自覚できるように「認める」「励ます」ことを意識する。

【授業の入り口を広くする】

- ・自分事として考えられる工夫やしかけをする。
- ・生徒のやりとりの中から課題を設定し、「今日も勉強したい！」と思わせる。
- ・道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めていく展開にする。

【発問や問いかけを精選する】

- ・考えを深めるために多面的・多角的な見方ができる工夫をする。
- ・教材や人物に対する多様な立ち位置を生かして、はっきりと伝わる発問にする。
- ・中心発問は20分までにし、話し合いや考えを深める時間を確保する。

授業者は、これらの視点でタブレット端末やココログノート（浜島書店）を活用しながら、授業づくりを行った。それにより、研究協議などの話し合いがより活発になった。

ウ 評価方法の改善と活用による成果

評価する際の視点が養われたことが、成果としてあげられる。研修を繰り返すうちに、道徳的価値をより多面的・多角的に捉え、深く考えているかを評価するようになった。例えば、「遵法精神・公德心」についての授業では、「ルールは守った方がよいもの」と短絡的に捉えていた思考が、ルールについて多面的・多角的にとらえ、さらに考えが深まったかを評価した。そのため、「ルールが誰かの助けになっていること」や「ルールを守ることの意義」について多面的・多角的に考えられるよう工夫し、より深い価値理解につながるよう授業を展開した。

また、道徳の評価方法を研修し、「個人内の成長を評価する」ことの大切さを全職員で共通理解することができたことも成果としてあげられる。具体的な評価方法は、机間指導でノート記述を確認したり発表の様子を観察したりとこれまでと大きく変わらないが、授業展開が評価を意識したものに変化した。導入で道徳的価値について考えさせ、授業の終末において振り返り等を書く活動を行うことで、個人内の成長を評価できるようにした。導入で自分の意見を明確にもち、道徳教材や他の生徒の意見に触れることで考えを広げ、最後に振り返りを書くことで、再び自分の考えを見つめ直すことができる。これは、本校の研究主題にもつながるものである。特に、研究授業では、事前にアンケートをとり、授業で扱う道徳的価値について考えさせた。

さらに、振り返りの場面でアンケートを生徒自身に返却することで、生徒自身が自己の変容に気づきながら、振り返りを書くことができたため、指導者と生徒の双方が個人内成長を評価しやすい授業となった。

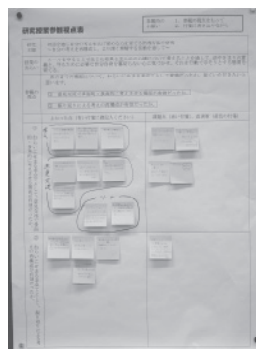
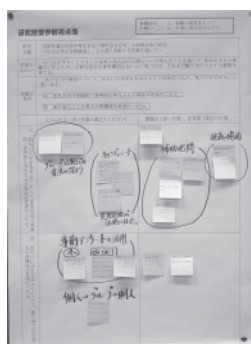
エ 校内研修の実施による成果

今年度の研修により、前述した研究体制や授業の工夫、評価方法について学ぶことができ、「特別の教科道徳」について理解を深めることができた。また、校内研だよりでの情報共有やローテーション授業の実施によって、研修を日常化できたことが成果であると考えている。

オ 研究授業及び研究協議会の実施による成果

授業実践を積み重ねることで、授業者の道徳の授業づくりに対する視点に変化し、指導案の検討や授業参観をする際、「道徳的価値にせまる内容になっているか」「自分事として考えられているか」「思考が再構成され、深まっているか」を意識するようになってきた。それにより、生徒は今まで以上に活発に意見交流するようになった。

研究会では、意見交換が活発に行われた。また、協議会后には、授業参観者から「どのような視点で授業を見ればよいか分かった」という声が聞こえてきた。このように、授業をつくる職員の意識や授業をつくる上での視点が、養われたことが成果であると考えている。



研究授業での視点表

(2) 調査から見られる成果

ア 道徳性検査からわかる生徒の傾向（相互理解、寛容）

【検査名】 教研式 道徳性アセスメント HUMAN（図書文化社）

各学年、年度当初と2学期末の2回検査を実施した。内容項目の「相互理解、寛容」は、各学年ともに他の内容項目に比べ低く本校の課題であると考え、注目した。

1 学年

視点	内容項目	回答	児童・生徒の行動や道徳的価値の傾向	回答の割合（％）		
				全国	年度当初	2学期末
視点B	相互理解、寛容	I	自分の考えを伝え、寛容の心をもって、謙虚に学ぶことができる。	43	50	54
		II	自分の考えを伝え、寛容の心をもって、謙虚に学ぶことが多い。	37	31	31
		III	自分の考えを伝え、寛容の心をもって、謙虚に学ぶことが少ない。	16	8	15
		IV	謙虚さに欠け自分と異なる意見や立場を受け入れない。	4	0	0

2 学年

視点	内容項目	回答	児童・生徒の行動や道徳的価値の傾向	全国	年度当初	2学期末
		II	自分の考えを伝え、寛容の心をもって、謙虚に学ぶことが多い。	38	50	53
		III	自分の考えを伝え、寛容の心をもって、謙虚に学ぶことが少ない。	20	12	6
		IV	謙虚さに欠け自分と異なる意見や立場を受け入れない。	5	0	0

3 学年

視点	内容項目	回答	児童・生徒の行動や道徳的価値の傾向	全国	年度当初	2学期末
		II	自分の考えを伝え、寛容の心をもって、謙虚に学ぶことが多い。	38	34	35
		III	自分の考えを伝え、寛容の心をもって、謙虚に学ぶことが少ない。	22	11	20
		IV	謙虚さに欠け自分と異なる意見や立場を受け入れない。	5	0	3

〔概況〕

1 学年、2 学年は望ましい回答 I・II の割合が多くなった。それに対し3 学年は、I と II の割合が減っている。3 年生は、検査全体として I・II の割合が全国平均に比べ非常に多い学年である。道徳性が備わっているからこそ、年度当初に比べ、より謙虚に自分を見つめ直したことが I・II の割合の減少につながっていると考えられる。

また、その一方で、各学年の道徳教育の実施状況が影響したとも考えられる。進捗状況を確認すると、1・2 学年は機会を捉え計画通りに「相互理解、寛容」の道徳授業が2 回実施されていた。それに対し、3 学年は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で、修学旅行の延期などがあり、「相互理解、寛容」に関する道徳の授業を計画通りに実施することができなかった。

イ 道徳性検査において変容が顕著だった内容項目

1 学年（思いやり・感謝）

視点	内容項目	回答	児童・生徒の行動や道徳的価値の傾向	回答の割合（％）		
				全国	年度当初	2学期末
視点B	思いやり・感謝	I	思いやりの心があり、多くの人の善意によって現在の生活があることに感謝し、それに応えている。	56	50	85
		II	相手の立場を十分に考えられないが、親切にすることが多い	32	50	15
		III	思いやりが不十分である。	8	0	0
		IV	思いやりの心が不十分で、相手の立場を考えず、親切さに欠ける。	4	0	0

1 学年の結果を総合的に捉えると、望ましいとされる I の回答の割合が全国よりも多く見られた。また、年度当初と 2 学期末の結果を比べると、年度当初が望ましい回答の割合がとても多かったこともあり、I の割合は変化していなかった。その中で、内容項目毎の割合には変化があった項目が「思いやり・感謝」である。中学校入学から、不安を解消させるために取り組んできた学級活動やスクールカウンセラーが実施した「言葉の力」の講義と合わせ、2 学期末までに二度「思いやり・感謝」の内容項目に関連する授業を行ったことが向上の要因だと考えられる。

2 学年（伝統文化・郷土愛）

視点	内容項目	回答	児童・生徒の行動や道徳的価値の傾向	回答の割合（％）		
				全国	年度当初	2学期末
視点C	伝統文化・郷土愛	I	社会に尽くした先人に尊敬の念をもち、地域の一員として、進んで郷土の発展に努める。	35	47	62
		II	地域の一員として郷土を愛する心をもつ。	36	41	29
		III	先人への尊敬の念に欠け、郷土への関心もあまりない。	22	9	9
		IV	先人への尊敬の念がなく、郷土への関心もない。	7	3	0

2 学年の結果を総合的に捉えると、望ましいとされる I の回答の割合が全国よりも多く見られた。また、年度当初と 2 学期末の結果を比べると、全体として I の割合は 2 学期末の方が増加していた。なかでも、向上が顕著だった内容項目が「伝統文化・郷土愛」に対する回答の割合である。本校では、郷土芸能である「沖揚げ音頭」を文化祭で発表している。それに加え、今年度は階上町の町民文化際でも沖揚げ音頭を披露した。その際、ご覧になった町の方から、心温まる手紙をいただき生徒にも紹介することができた。2 学期末までに「伝統文化・郷土愛」に関連する道徳の授業は一度しか行えなかったが、沖揚げ音頭と関連づけながら授業実践することで、教育活動全体を通じて価値理解を深めることができた。

3 学年（向上心、個性伸長）

視点	内容項目	回答	児童・生徒の行動や道徳的価値の傾向	回答の割合（％）		
				全国	年度当初	2学期末
視点A	向上心、個性伸長	I	自己を見つめ、自己の向上をはかり、個性を伸ばそうとする。	44	55	78
		II	自己を見つめ、自己の向上をはかろうと努力している。	39	34	20
		III	自己を見つめ、自己の向上をはかる努力が不足している。	12	11	0
		IV	他人をうらやみ、自分についての努力をしていない。	5	0	3

3 学年の結果を総合的に捉えると、望ましいとされる I の回答の割合が全国よりも多く見られ

た。また、年度当初と2学期末の結果を比べると、年度当初が望ましい回答の割合がとても多かったこともあり、Ⅰの割合は変化していなかった。その中で、内容項目毎の割合には変化があった項目が「向上心、個性の伸長」である。3学年では、高校進学に向けてキャリア教育に力を入れてきた。また、進路に向かって本格的に考え始める7月には「向上心、個性の伸長」の内容項目で、進路に関連づけた道徳の授業を実践している。それらのことがⅠの割合が増えた要因だと考えている。

ウ 道徳性検査から分かる学校全体の特徴

全学年ともに、全国に比べ望ましい回答が多い傾向がある。年度当初は、全国平均と同じくらいであった2学年も、2学期末までの取組で望ましい回答の増加が見られた。また、項目毎に見ると、全学年ともに「伝統文化、郷土愛」に対する望ましい回答の割合が全国に比べ非常に高い値となっている。全校で取り組んでいる「地元の海岸清掃」や「郷土芸能の継承」と道徳科の授業を関連づけて行っていることが要因として考えられる。

全校の課題として捉えていた「相互理解、寛容」の内容項目に関しても、機会を捉え二度の授業を実施した1・2学年に上昇傾向が見られた。計画通り実施できなかった3学年には多少の落ち込みが見られたが、検査全体の結果としてはⅠ・Ⅱの割合が多く道徳性が養われていることが見て取れる。

海岸清掃や郷土芸能と関連付けたことや課題と捉えた「相互理解、寛容」の検査結果から、教育活動全体との連携を図りながら授業実践していくことの重要性を確認することができた。これからも、道徳性検査を活用しながら生徒の課題を把握し、教育活動全体を見通した道徳教育を実践することで、道徳性を養っていききたい。

道徳科学習指導案

6月29日(水)5校時(1年A組教室)
1学年A組(13名)
指導者 講師 朝比奈 聡子

- 1 主題名 <内容項目> 社会参画, 公共の精神 (C (1.12))
<関連する内容項目> (C (1.5) よりよい学校生活, 集団生活の充実)

- 2 教材名 ①6 紙芝居

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について (価値観)
学習指導要領には、内容項目「C (1.2) 社会参画, 公共の精神」の指導の観点として、「社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め, 公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。」と記述されている。また、小学校高学年の観点として、「働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役に立つことをすること。」と記述されている。その上で、中学校では、学級や学年等の集団としての自治の力を備えるとともに、自立した共同体となることが理想の姿である。その理想に近づくために、学校生活では、集団での役割と責任を果たすことと価値について学ぶとともに、他者とともに、他者のために惜しまず能力を発揮することが必要である。このことは地域や社会においても同様であると考えられる。そこで、本時では、「ねらいが行動で示そうとする態度を育てたい。」

(2) ねらいに関わる生徒の実態について (生徒観)

4月に実施した教研式 HUMAN 道徳性アセスメントによると、「社会参画の意識を高め、進んで社会のために尽くそうとする」生徒が全体の77%いる。一方で、「社会参画の意識があり、社会的に参画に移す生徒が少なく、学級活動や生徒会活動に積極的に関わり、行動に力を入れる生徒が全体の23%と少ない。つまり、参画の意識は高くない」ということである。中学校では、学級活動や生徒会活動に積極的に参画すること、社会参画や社会連帯についての考えをもたせ、現実の学校生活に生かすことができるよう考えを深めさせることが大切である。また、生徒一人一人に自分も社会の一員であるという自覚を深めさせ、互いに積極的に協力し合おうとする意欲を育てるよう工夫することが必要である。そこで本時では、今までの自分の体験を振り返り、なぜ充実感や達成感を味わうことができたか、その理由を考えることを通して、自分のできることを進んで行うという意思をもち、行動すること大切であることを理解を深めさせたり深めさせたい。

(3) 教材について (教材観)

本教材は、主人公が地域のボランティア活動に参加したこと、充実感や達成感を味わうというものである。その達成感や充実感の理由には、「自分の気持ち」「他者との関わり」「社会との関わり」があることが読み取れる。そのため、充実感や達成感の理由を多様な観点から考えさせるのに適している。本時では、その理由を考えた上で、整理し、登場人物と自分を比べたり、友達と交流したりすることで、充実感や達成感を味わうことができる理由について考えを広げたり深めたりできるようにしたい。

(4) 他の教育活動との関連

事前指導	・「充実感・達成感」についてのアンケートの実施 (6月 学活)
道徳科	・教材名「紙芝居」 登場人物がなぜ、充実感や達成感を味わうことができたかを考え、自分との比較や意見交換を通して、自分のできることを進んで行うという意思をもち、行動することが大切であることへの考えを広げさせたり深めさせたりする。
他の教育活動との関連	・小中合同東雲ボランティア等の体験活動を通して、自己の成長や他者、社会、自然・環境との関わりを実感させ、自分のできることに取り組めるようにする。(総合的な学習の時間との関連) ・学級活動や生徒会活動等において、自分のできることを進んで行うという意思をもち、行動できるようにする。
家庭との連携	・学級通信で授業の学びを紹介する。

4 校内研究との関わり

本校の研究主題は、「対話を通じ自分の考えを広げ深める力を育てる指導方法の研究～自分の考えを再構成し、より深く理解する活動を通して～」である。本時では、自分の考えを広げ深める力を育てる指導として、三つの手立てを用いる。一つ目は、自分と登場人物の比較、二つ目は、観点による考えの整理、三つ目は、友達との意見交換である。これらの指導により、考えを広げたり、深めたりする力が育てられると考える。

5 本時の指導

(1) ねらい
登場人物がなぜ、充実感や達成感を味わうことができたかを考え、自分との比較や意見交換を通して、自分のできることを進んで行うという意思をもち、行動しようとする態度を育てる。

(2) 展開

段階	(主)発問と児童生徒の予想される反応	指導上の留意点、指導の工夫、評価等
導入 (3)	学習活動 1 アンケート結果から、自分の体験を振り返る。 ○今までに『やってよかった』と思った経験は？ ・自分で立てた目標を達成した。 ・陸上の大会で新記録を出せた。	・事前に行ったアンケート結果をもとに生徒の体験を想起させ、ねらいとする価値へ方向付けを図る。
展開 (42)	2 筋読を聞き、登場人物が『やってよかった』と思った理由を考える。 ＜中心的な発問＞ なぜ、『やってよかった』と思ったのでしょうか。その理由を考えよう。 ＜予想される生徒の反応＞ ①私 ・気乗りがしなかったけど、楽しかったから。 ②章太郎 ・また手伝いに行きたいぐらいやりがいいがあった。 ③足立さん ・文芸部に来てもらうことで、よりよい会にすることができた。来てもらうよかったです。 ④佐々木先生 ・文芸部員が成長した姿を見られたから。 ⑤子どもたち・保護者 ・紙芝居が楽しかったから。	・それぞれの登場人物の観点から考えさせる。 ①私 ②章太郎 ③足立さん ④佐々木先生 ⑤子どもたち・保護者
	【仮説の検証場面】 3 自分が『やってよかった』と思った理由を考えよう。 ○自分や友達これまでの経験や、そのときの思いなどを考え、登場人物と理由を比べ、ワイクシートに記入する。 ＜予想される生徒の反応＞ ・親に喜んでもらえた。 ・感謝してもらえた。 ・目標を達成できた。 など	・生徒の意見を「自分の気持ち」「他者との関わり」「社会との関わり」という観点に分けながら、板書して整理する。 ・アンケート結果をもとに、自分と登場人物を比較して考えさせる。 ・自分の考えをワークシートに記入させ、意見交換の足がかりとなるようにする。 ＜記述が難しい生徒への手立て＞ ・仲間指導をしながら、「なぜ、やってみようか」という問いかけをする。

<p>4 意見交流をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人(4人)グループを作る。 ・一人ずつ発表する。 <p>5 発表(広げ深める)</p> <p>○代表者による発表。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードに意見を書き出し、整理しながらまとめさせる。 ・ホワイトボードを黒板に貼らせる。 ・発表させる。 ・発表を聞き、新たな気づきや共感した意見を赤ペンで書き込ませる。
<p>6 振り返り(再構成)</p> <p>○今日の授業を通して、学んだことや感じたこと、これからの生活に生かしたいことを記入してください。</p>	<p>☆授業を振り返り、3つの観点について書いている。</p> <p>自分自身のこれからの生活において進んで行動しようとする意思や行動しようとするこの大切さについて書いている。</p>

6 その他

(1) 板書計画

16 紙芝居

なぜ、『やってよかった』と思ったのでしようか。その理由を考えよう。

ホワイトボード

自分	他者	社会

今後の生活にどう生かすか？

道徳科学習指導案

5月19日5校時(2年A組教室)
2学年A組(17名)
指導者 教諭 松坂 真吾

1 主題名 礼儀の意義(B(7)礼儀)

2 教材名 ⑩ 秀さんの心

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について(価値観)
学習指導要領には、内容項目「B(7)礼儀」の指導の観点として、「礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。」と記述されている。また、小学校高学年の観点として「時と場をわきまえて、礼儀正しく真心をもって接すること。」と記述されている。中学校では、さらにその意義を理解することにより、主体的に実践しようとする礼儀に対する意識の変化が重要であると考えた。礼儀は、人間関係を豊かにするともに、社会生活を円滑にするために創り出されたものであり、人としての生き方の基本になるものである。こうした礼儀の意義を理解し、心のこもった適切な言動を主体的に取ろうとする生徒を育成したいと考えている。

(2) ねらいに関わる生徒の実態について(生徒観)

4月に実施した教研式HUMAN道徳性アセスメントによると、「時と場に応じた適切な言動がとれる」生徒が全体の76%いるという結果が出ており、礼儀正しいあいさつや行動をできる生徒が多いことがわかった。しかし、全国の割合に比べ「礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動がとれる」生徒は少なく、「礼儀の十分な理解はないが、時と場に応じた適切な言動がとれる」生徒が多いとわかった。また、礼儀に対する生徒アンケートを実施したところ、「礼儀正しいあいさつを心がけていますか?」「礼儀の十分な理解はないが、時と場に応じた適切な言動がとれる」「積極的にあいさつをしていますか?」という質問に対して、肯定的な回答であった。生徒は35%であった。礼儀の意義が十分理解できていない生徒が多いことが、積極的にあいさつをする生徒の少なさにつながっていると考えられる。中学校の発達段階では、習慣として実践している意義を理解し、心と形が一体となった言動が求められる。そのため本時の活動では、登場人物の姿から自分の考えや言動を見つめ直したり、友達との意見交流を通じて、多角的に考えたりすることで礼儀の意義に対する理解を深める。

(3) 教材について(教材観)

本時では、登場人物が実践している心からの礼儀に気付かせたい。自分の礼儀に関わる言動を確認し、自分が考える礼儀の大切さをタブレット端末のふせん機能に入力させた上で、登場人物の言動や気持ちに変化に着目しながら、生徒同士で意見を交流させる。さらに、登場人物の心情を捉えながら、セリフを考え演じる役割演技を行い、演技を通して感じたことを交流し合う。最後に、授業を振り返り文章にする。これらの活動により、礼儀の意義について考えを広げ、より深く理解できると考えている。

(4) 他の教育活動との関連

事前指導	・礼儀についてのアンケートの実施(4月 短学活)
道徳科	・教材名「⑩秀さんの心」 職人の礼儀にふれた二人の生徒の物語を通して、礼儀の意義について考えさせ、心のこもった適切な言動を主体的に取ろうとする実践意欲と態度を育てる。

事後指導	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校体育大会夏季大会の事前指導として、大会参加時の礼儀やマナーについて話し合い、校外の活動でも望ましい振る舞いができるようにする。(6月 特別活動の時間) ・職場体験学習の事前指導として、体験時の礼儀やマナーについて話し合い、体験先での望ましい振る舞いができるようにする。(9月 総合的な学習の時間)
家庭との連携	・学級通信で授業での学びを紹介し、家庭で礼儀について話題になるようにする。

4 校内研究との関わり

本校の研究主題は、「対話を通じ自分の考えを広げ深める力を育てる指導方法の研究～自分の考えを再構成し、より深く理解する活動を通して～」である。本時では、クロームブックを用いながら、生徒同士の意見交流を行い、考えを広げていく。そして、礼儀の意義についてより深く理解できるように、役割演技による演者の言葉や表情、しぐさに着目させ相互に感想を交流する。これらの活動により、自分の考えを広げ深める力が育成されると考えている。

5 本時の指導

(1) ねらい

職人の礼儀にふれた二人の生徒の物語を通して、礼儀の意義について考えさせ、心のこもった適切な言動を主体的に取ろうとする実践意欲と態度を育てる。

(2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点、指導の工夫、評価等を向かせる。
1	礼儀について、自分の考えをもつ。 ○部活動中に後輩が、先輩や先生方にあいさつをしなかつたら、何と声をかけますか。 (予想される生徒の反応) ・あいさつした方がいいよ。 ・礼儀は大事だよ。 ○礼儀正しくすることには、どんな意味がありますか。ノートのステップ1に記入し、ジャムボードに黄色の付箋で入力してください。 (予想される生徒の反応) ・先生が大事だと言っていたから。 ・相手によい印象を与えるため。 ・相手を怒らせないようにするため。	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の部活動のことを想像させ、礼儀に目を向かせる。 ・人との接し方について考えさせ普段の生活を振り返らせる。 ・礼儀の大切さに目を向けさせることで、課題意識をもって学習に取り組みるようにする。 ・クロームブックのジャムボードに記入を終えたら、クロームブックを閉じ机の中にし、まわせる。
2	学びのテーマの確認	学びのテーマ 礼儀には、どんな意味があるのだろうか。

終末 (5)	5 学びの記録に記入した内容を発表する。 (予想される生徒の反応) ・昌雄は自分のことばかり考えていて、謝っていないことをおさえる。 ・「皆さんも、昌雄のこういう気持ちと同じ気持ちになることがありませんか。」と投げかけ、自分のこととして共感的に捉えさせよう。 (記述が難しい生徒への手立て) ・仲間指導をしながら、「昌雄が、自分自身に感じた思い。」「秀さんに対する思い。」「昌雄が秀さんにすべきこと」は何かを問いつける。	☆授業を振り返り、礼儀の意義について考え、心のこもった適切な言動を主体的に実践しようとしている。(発表の様子を観察) ・記入した内容の中でも、礼儀の意味について聞き、板書する。 ・学びの記録に記入した内容を、学級通信で紹介する。
--------	---	--

6 その他 (1) 板書計画

⑬ 秀さんの心

※黒板の右側スクリーンにふせん機能映す

学びのテーマ 礼儀には、どんな意味があるのだろうか。

「バスに遅れてしまって・・・。いえ、えっと後悔してしまって・・・。」と言った、昌雄はどんな気持ちだったのでしょうか。

○・・・ (本音)
○・・・ (形だけ)
○・・・ (ごまかし)
変化 ○・・・ 「真意」

胸が熱くなるのを感じながら、昌雄はどんなことを考えていたでしょうか。

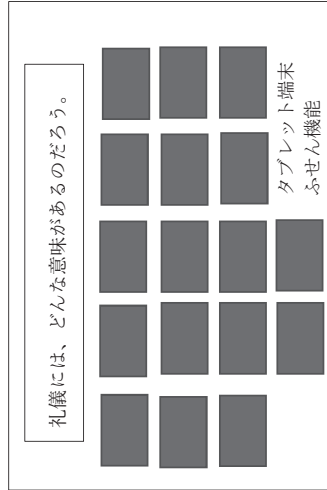
礼儀の意味

礼儀には、どんな意味があるだろうか。(終末)

礼儀の意味

みんなの思い

(2) 黒板の右側スクリーン



※導入時の「礼儀正しくすることに、どんな意味がありますか。」に対する生徒全員の意見をタブレット端末のふせん機能で表示する。

展開 (40)	3 範読を聞き、登場人物の気持ちを考える。 ○「バスに遅れてしまって・・・。いえ、えっと後悔してしまってたでしょう。」「皆さんも、昌雄のこういう気持ちと同じ気持ちになることがありませんか。」と投げかけ、自分のこととして共感的に捉えさせよう。 (記述が難しい生徒への手立て) ・仲間指導をしながら、「昌雄が、自分自身に感じた思い。」「秀さんに対する思い。」「昌雄が秀さんにすべきこと」は何かを問いつける。	☆授業を振り返り、礼儀の意義について考え、心のこもった適切な言動を主体的に実践しようとしている。(ノートへの記述) ・スクリーンに映している導入で作成したふせん機能を確認し、授業が始まった時の自分を想起させる。
---------	--	--

【仮説の検証場面】 (中立的な発問)	☆変化した昌雄の気持ちを考えている。 (ノート記述、つぶやき、発表の様子を観察) ・これまで考えてきたことを踏まえ、役割演技を行い、礼儀正しくあることの難しさや良さを実感的に捉えさせる。 ・仲間指導しながら、昌雄の気持ちを探り、捉えている生徒を選び、代表で実演させる。 代表生徒に対しては、教師が秀さん役を演じ、肯定的な受け答えをする。こうしたことで、この後、毎日に演じる役割演技の姿を見せる。 ・役割演技を見る生徒には、演者の言葉や表情、しぐさに着目し、後で感想を交換することを告げておき、役割演技を見た後、感想を発表させる。その後、昌雄役の演者にも演じた際に考えたことや感じたことを発表させ、秀さん役の教師も感想を述べる。 ・班発表では、班の人数は4人にする。役割演技を見た生徒2人は、感想を発表する。その後、昌雄役や秀さん役が考えたことを発表する。	☆礼儀の意味について振り返る。 ○今日は「礼儀の意味」について考えました。今日の授業を通じてどのように考えかたを学びの記録に記入してください。
4 礼儀の意味について振り返る。 ○今日は「礼儀の意味」について考えました。今日の授業を通じてどのように考えかたを学びの記録に記入してください。	<p>【仮説】 正直に言うことは大事だと思いました。 【昌雄役】 秀さん。仕事に遅れてしまい。申し訳ありませんでした。僕は秀さんから真心の大切さを学びました。本当にありがとうございます。 【秀さん役 (生徒)】 こちらこそ、ありがとうございます。しっかりと伝わりましたよ。 【感想】 相手と心が通じ合っていてよかったです。</p>	

道徳科学習指導案

10月28日(水)5校時 (3年A組教室)
3学年A組(20名)
指導者 教諭 及川 将太

(4) 他の教育活動との関連

事前指導	・「生徒心得」「規則やルール」についてのアンケートの実施(10月学活)
道徳科	・教材名「闇の中の炎」 登場人物がなぜ、既存の芸術作品を参考にして自分の作品を描いたことに後ろめたさを感じている生徒の物語を通して、これまでの自分との比較や他者との意見交流をもとに、法やきまりを守ろうとする心について考え、規則を守って行動しようとする実践意欲と態度を育てる。
他の教育活動との関連	・生徒総会などで、既存の学校のルールや「生徒心得」の内容について話し合い、きまりや規則の意味について考えさせ、より良いものへの修正やその順守をできるようにする。(特別活動との関連) ・学級活動や生徒会活動等において、きまりは守るという強い意思をもち、行動できるようにする。
家庭との連携	・学級通信で授業の学びを紹介する。

4 校内研究との関わり

本校の研究主題は、「対話を通じ自分の考えを広げ深める力を育てる指導方法の研究 ～自分の考えを再構成し、より深く理解する活動を通して～」である。本時では、自分の考えを広げ深める力を育てる指導として、三つの手立てを用意する。一つ目は、自分と登場人物の比較、二つ目は、友達との意見交流、三つ目は、振り返りによる考えの再構成である。これらの指導により、考えを広げたり、深めたりする力が育てられると考える。

5 本時の指導

(1) ねらい

ルールを守ることと生じた結果と主人公の心情について考えることを通して、法やきまりの意義の理解と法やきまりを守るために必要な自分自身を裏切らない心に気づかせ、それを行動で示そうとする態度を育てる。

(2) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点、指導の工夫、評価等
導入(5)	(主な発問と児童生徒の予想される反応) 1 アンケート結果から、自分の考えを振り返る。 ○『ブラッック校則』についての考えは？ ○『きまりや規則』についてのあなたの印象は？	・事前に行ったアンケート結果をもとに生徒の体験を想起させ、ねらいとする価値へ方向付けを図る。 ・普段の学校生活のことを想像させ、規則に目を向かせる。
展開	2 学びのテーマの確認 学びのテーマ きまりや規則は何のためにあって、守るために必要なのは何か(きまりや規則の意義をさらに理解しよう)	
導入(35)	3 教材の範読を聞き、登場人物の気持ちを考えよう。 ○画集を見て「描ける。これならきつと」と思ったときの、理沙は、どんな絵が描けると思ったのだろうか。 ○教室に一人であいたときの理沙は、どんな気持ちだったのだろうか。 (中心的な発問) 父との相談の後に、新しい作品を描き始めた理沙。その時の理沙は、どんな気持ちだろうか。	・自分自身を理沙の視点で考えさせることで、自分自身の心に向き合う場面を作る。 ・画集を見つけたときと教室にいるときの理沙の気持ちを対比させ、気持ちの変化を理解し共感できるようにさせる。 ・物語の中の理沙の心の変化を的確にとらえられるよう、整理して板書する。

1 主題名 <内容項目> 遵法精神、公徳心(C(10))

2 教材名 [16] 闇の中の炎

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について(価値観)
学習指導要領には、内容項目「C(10) 遵法精神、公徳心」の指導の観点として、「法やきまりの意義を理解し、それらを守ることにも、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと、規律ある安定した社会の実現に努めること」と記述されている。また、小学校高学年の観点として、「法やきまりの意義を理解し、それらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと」と記述されている。その上で、中学校では、社会の構成員の一人である自覚を深め、法やきまりが自分たちを守るだけでなく、自分たちの社会を安定的なものにしていくことを考えさせ、積極的に法やきまりに関わり、法やきまりについてその意義を一層理解し、察している。その理想に近づくために、学校生活では、法やきまりについてその意義を一層理解し、「ルールだから守る」という他律的な捉え方ではなく、「尊重したいから守る」という自律的な捉え方に変化させ、遵法には自他の尊重、すなわち自尊心と思いやりが関わっていることに気付かせる必要がある。そこで、本時では、「ルールを守ることで助かった人は誰か」や「自分がだめだと思っただけならだめなんだ」にある思いに自分を重ねて考えさせることを通して、法やきまりの意義をさらに理解し、法やきまりを守るためには自分自身を裏切らない心が必要であることに気づかせ、それを行動で示そうとする態度を育てたい。

(2) ねらいに関わる生徒の実態について(生徒観)

4月に実施した教研「HUMAN道徳性」アセスメントによると、本学級の生徒は「C 主として集団や社会との関わりに関すること」の内容項目9項目のうち、7項目で全国の傾向より望ましい方向にあるという結果が出ている。特に「C(10) 遵法精神、公徳心」の項目では、「きまりや規則の意義を十分に理解し、進んでこれを守る」生徒が全体の5.5%存在し、全国の回答の割合を大きく上回っている。一方で、「きまりや規則を守る気持ちにかけ、規則を破ること多い」生徒も11%存在しており、全国平均を上回っている。すなわち、学級内できまりや規則の意義の理解度や、きまりや規則を守る意識については、二極化している傾向があることがわかる。
遵法精神に必要とされる思いやりや心の自尊心に注目すると、「B(6) 思いやり、感謝」の項目では、「思いやりや心をもち、多くの人の善意によって現在の生活があることに感謝し、それに応えている」生徒が7.6%と多く、「思いやりや心が不十分である」「思いやりや心が不十分で、相手の立場を考えず、親切さに欠ける」生徒がともに0%であった。これまでの授業や学校生活において、相手の立場に立ってその考えや意見を聞いたり、相手の気持ちを考えたり行動したりすることを重点的に指導してきた。また、小規模校という特性から、お互いに支えあう経験や多くの行事の中で家族や地域の方々を支えられている実感が背景にあるとも考えられる。一方で、「A 主として自分自身に関すること」についての総合評価が一番低い。この評価にみられる通り、自分自身を見つめ直すことが苦手であり、その結果自己を肯定的に捉えたり、自己の優れた部分を認識してよりよく努力したりすることができない生徒が多い。
そこで本時では、きまりや規則を守ることで生じた結果を考えさせ、きまりや規則を守る意義についてさらに理解を深めさせたい。さらに、登場人物に自分自身を重ね合わせることで自分自身に向き合いながら、ルールを守るためには「自分」を大切にすることが必要であることを気づかせたい。

(3) 教材について(教材観)

本教材は、主人公が既存の芸術作品を参考にして自分の作品を描いたことから、後ろめたさや葛藤を感じる物語である。その後ろめたさや葛藤の理由には、法やきまりに反していないで生じる自身の良心の呵責や周囲への影響が読み取れる。そのため、法やきまりを守る意義や守るために必要なもの考えさせたり通じている。本時では、主人公の心情を考えた上で、登場人物と自分を比べたり、友達と交流したりすることで、法やきまりの意義を整理し、それらを守るために必要なこと(源)について考えを広げたり深めたりできるようにしたい。

闇の中の炎 9月28日 2A道徳 番 氏名

ステップ1
画集をみて「描ける。これならきつと」と思ったときの理沙は、どんな絵が描けると思ったのだろう。



ステップ2
教室に一人で行ったときの理沙はどんな気持ちだったでしょう。



ステップ3
父との相談の後に、新しい作品を書き始めた理沙。そのときの理沙はどんな気持ちだっただろう。

☆みんなで考えよう☆ **ルールを守ったことで助かった人は誰だろう？**
ルールを守るために必要なことは何だろう？

今日の授業を通して、学んだことや感じたことを書きましょう。

.....

.....

.....

	<p>【仮説の検証場面】</p> <p>4 物語を通して、きまりや規則の意義と、守るために必要なこと（源）について考える。</p> <p>○物語を通して、理沙がルールを守ったことで助かった人は誰だろう。</p> <p>○ルールを守るために、必要なこと（源）は何だろう。</p> <p>（予想される生徒の反応）</p> <p>○助かった人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 版画の製作者 ・ 理沙自身 ・ 理沙の父、家族 ・ 学校 <p>○必要なこと（源）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身に嘘をつかない気持ち ・ 周りの人のアドバイスや忠告 ・ 盗作された人の気持ちを考えること <p>5 まとめ</p> <p>グループで出た意見を発表する。</p>	<p>6 振り返り（再構成）</p> <p>○今日の授業を通して、学んだことや感じたことと、学習の前後で生じた変化、今後の生活で活かしていきたいことを記入する。</p> <p>○記入した内容を発表する。</p> <p>まとめ</p> <p>(10)</p>
--	--	--

6 その他 (1) 板書計画

①

相談の後、新しい絵を描き始めた理沙

←

教室に一人で行ったときの理沙

←

画集を見つけて描いている理沙

②

守るために必要なこと（源）とは

○ルールを守るために、必要なこと（源）とは

○ルールを守ったことで、助かった人とは

○きまりや規則の意義と

○理沙の心の変化

画集を見つけて描いている理沙

①

理沙の心の変化

画集を見つけて描いている理沙

②

守るために必要なこと（源）とは

○ルールを守るために、必要なこと（源）とは

○きまりや規則の意義と

○理沙の心の変化

画集を見つけて描いている理沙

①

理沙の心の変化

画集を見つけて描いている理沙

②

守るために必要なこと（源）とは

○ルールを守るために、必要なこと（源）とは

○きまりや規則の意義と

○理沙の心の変化

画集を見つけて描いている理沙

①

理沙の心の変化

画集を見つけて描いている理沙

②

守るために必要なこと（源）とは

○ルールを守るために、必要なこと（源）とは

○きまりや規則の意義と

○理沙の心の変化

画集を見つけて描いている理沙

令和4年度 道徳教育の全体計画

階上町立道仏中学校

- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学校教育法
- ・学習指導要領
- ・教育委員会の教育目標

学校の教育目標	
○自ら学ぶ生徒	目標をもち、進んで学習する生徒
○心豊かな生徒	お互いを認め合い、ともに向上に努める生徒
○粘り強い生徒	心身を鍛え、最後まであきらめない生徒

- ・時代や社会の要請や課題
- ・学校や地域の実態と課題
- ・教師や保護者、地域の願い
- ・生徒の実態や発達段階

特別活動

自他の個性や立場を尊重しようとする態度、義務を果たそうとする態度、よりよい人間関係を深めようとする態度、社会に貢献しようとする態度、自分たちで約束をつくって守ろうとする態度、より高い目標を設定し、諸問題を解決しようとする態度、自己のよさや可能性を大切に集団活動を行おうとする態度を育てる。

学級活動

学級や学校における生活づくりへの参画を行う。日常の生活や学習に適応する。自己の成長及び健康安全について理解を深める。社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成を図る。

生徒会活動

学校におけるよりよい生活を築くために、問題を見だし、これを自主的に取り上げ、協力して課題解決していく自発的、自治的な活動を行う。

学校行事

職場体験活動や社会体験、自然体験、幼児児童や高齢者、障害のある人々などとの触れ合い、文化や芸術に親しむ体験を行う。

道徳教育の重点目標	
A.	自律心や自主性をもち、規律ある生活をする生徒
B.	それぞれの個性や立場を尊重して人と関わる生徒
C.	自らの将来の生き方を考え主体的に社会の形成に参画する生徒
D.	夢や希望をもち、よりよく生きる喜びを見いだそうとする生徒

各学年の重点目標			
	第1学年	第2学年	第3学年
Aの視点	望ましい生活習慣を身に付け、心身の調和のある生活を送ることの意義を捉え、自覚する。 「節度、節制」	望ましい生活習慣を身に付け、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。 「節度、節制」	真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努力する。 「真理の探究、創造」
Bの視点	自分の考えや意見を相手に伝えるときにも、それぞれの個性や立場を尊重する。 「相互理解、寛容」	それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解する。 「相互理解、寛容」	それぞれの個性や立場を尊重し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていく。 「相互理解、寛容」
Cの視点	法やきまりの意味を理解し進んで守り、自他の権利を大切にすることを果たし、互いを尊重する。 「遵法精神、公德心」	法やきまりの意味を理解し進んで守り、自他の権利を大切にすることを果たし、規律ある安定した社会の実現について考える。 「遵法精神、公德心」	社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。 「社会参画、公共の精神」
Dの視点	生命の尊さについて考え、かけがえない生命を尊重する。 「生命の尊さ」	よりよく生きようとする人間の強さや気高さについて理解し、人として生きる喜びについて理解する。 「よりよく生きる」	よりよく生きようとする人間の強さや気高さについて理解し、人として生きる喜びを見いだす。 「よりよく生きる」

各教科	
国語	・正確に理解したり適切に表現したりする資質・能力を育成するうえで、社会生活における人との関わりの中での伝え合う力を高める。
社会	・グローバル化する国際社会に主体的に生きる、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な資質・能力の基礎を養う。
数学	・数学的な活動の楽しさやよさを実感して粘り強く考え、生活や学習に生かそうとする態度を養う。
理科	・自然と人間との関わりを認識させ、生命を尊重し自然環境の保全に寄与する態度を養う。
音楽	・音楽を愛好する心情や感性を育て、美しいものや崇高なものを尊重する態度を養う。
美術	・感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。
保健体育	・様々な運動の経験を通して、粘り強くやり遂げ、ルールを守って集団に参加し協力する態度を養う。
技術	・生活を工夫し創造する資質・能力を身に付け、勤労の尊さや意義を理解し、家庭や地域社会の一員としての自覚をもって、生活や社会をよりよくしようとする態度を育てる。
家庭	
外国語	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

生徒指導

- ・日常生活のさまざまな場面で意図的、計画的に学習の機会を設け、生徒が多様な意見にふれ、学び合いながら物事を多面的・多角的に考え、自らの判断により適切な行為を選択し、実践するなど、道徳教育の指導内容が生徒の日常生活に生かされるようにする。
- ・いじめの防止や安全の確保といった課題について、道徳教育や道徳科の特質を生かし、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことで、生徒がそれらの課題に主体的に関わることができるようにする。

道徳科

- ・道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
- ・道徳科が学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての役割を果たすことができるよう、計画的・発展的な指導を行う。各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育としては取り扱う機会が十分でない内容項目に関わる指導を補う。生徒や学校の実態を踏まえて指導をよりいっそう深める、内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりする。
- ・さまざまな価値観について多面的・多角的な視点から振り返って考える機会を設ける。生徒が多様な見方や考え方に接しながら、さらに新しい見方や考え方が生み出していくことができるよう留意する。
- ・生徒の発達の段階や特性を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関わる体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫する。

総合的な学習の時間

- ・探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通じて、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。

環境の整備

- ・言語活動の充実
- ・整理整頓され掃除の行き届いた校舎や教室の整備
- ・各種掲示物の工夫

豊かな体験活動の充実

- ・共に学ぶ楽しさや自己の成長に気づく喜びを実感させ、他者、社会、自然・環境との関わりの中で共に生きる自分への自信をもたせる。

家庭・地域等との連携

- ・家庭や地域社会との共通理解を深め、交流を密にし、協力体制を整える。
- ・道徳教育にかかわる情報の発信を行う。

10月(4時間)	<p>【C(12)社会参画、公共精神】 16 福祉意識</p> <p>【C(13)助弁】 17 私が開く理由</p> <p>【C(10) 遵法精神、公德心】 18 法の尊厳</p> <p>【C(10) 遵法精神、公德心】 18 深めたい心</p> <p>【C(16) 郷土の伝統と文化の尊重、国を愛する態度】 19 なおも</p>	<p>ポアンテアで麻芝居を上演することになった生徒たちの物語を通して、社会に積極的に関わっていること、社会の大切さについて考えさせ、社会的な役割を果たし、自ら協力していることとする実践意欲と態度を育てる。</p> <p>がん患者専門の専攻師や職歴き職人など、さまざまな職業に就いている人々の仕事への思いや考えや方などを知り、働くことの意義や喜びについて考えさせ、自らも充実した働き方をしようとする実践意欲と態度を育てる。</p> <p>高利貸しの男と金銭を借りている人々の苦悩を通して、法やきまりを守ることに大切にして生活しようとする心情を育てる。</p> <p>重要無形文化財の輪島塗に関する文章を通して、郷土に根ざした伝統文化を大切にしていこうとする実践意欲と態度を育てる。</p> <p>大船に関する調査資料、日本動物愛護協会のベントの殺処分を防止する活動のニュースや、動物の命を守る活動のニュースや、動物の命を大切にしていこうとする心情を育てる。</p>	<p>★社会に積極的に関わっていくことと見えるのは、どんなこととだろ。 ◎「私」が、今までと違って、道も街路樹もきらきらと輝いて見えたのは、どうしてでしょう。</p> <p>★人が「働く」理由とは、どういうものだろう。 ◎人が「働く」理由とは、どういうものでしょう。ワークシートに書いて、話し合います。</p> <p>★法やきまりを守ることの意義について、考えよ。 ◎「そ」が、お友達と、どんなこととを思っていたでしょう。</p> <p>★よりよいきまりについて考えることとは、どうして大切なのか、考えよ。 ◎生活の中で、よりよいきまりについて考えることは、どうして大切なのでしょう。</p> <p>★郷土の伝統や文化を大切にすることとは、どういうこととだろ。 ◎「人」たちは、どうして漆器を作っているのか、具体的にイメージしよう。 ◎「人」たちは、どうして毎日使っているのか、イメージしよう。</p> <p>★身近な生き物の命について、考えてよ。 ◎「人」たちは、どんな思いで短い命の犬や猫の世話をしているのか、自分の考えをワークシートに記入しよう。 ◎「人」たちは、どんな思いで動物たちを大切にしているのか、グループで話し合おう。</p>	<p>社会に関わろうとしてきたとき、これからの経験や、そのときの思いなどについて考えて、友誼や信頼関係について考えさせ、友誼を大切にしていこうとする心情を育てる。</p> <p>友誼のシャープペンシルを拾った自分のものにしてしまったことを言いたいながらも、友誼を大切にしたい。心の弱さや強さを考えることと、友誼を大切にしたいこととする心情を育てる。</p> <p>不正な場面を見ず、偏見や差別のない態度を取った生徒を褒め、法やきまりを守るために大切にしてほしい。自分なりの考え方をもちよとする実践意欲と態度を育てる。</p> <p>百人一首大会でライバル関係にある生徒たちの物語を通して、自己を知り、向上心をもつて物事に取組む姿勢について考えさせ、自分のよさを伸ばしていこうとする実践意欲と態度を育てる。</p> <p>【A(3) 向上心、個性の伸張】 28 深めたい心</p> <p>【A(3) 向上心、個性の伸張】 28 深めたい心</p> <p>【D(12) 感動、異郷の心】 29 木</p> <p>【D(19) 生命の尊厳】 30 エルマとおおきさんからの「最後の贈りもの」</p> <p>【内容項目を限定しない】 31 道徳の学びを振り返ろう</p>	<p>【B(8) 友情、信頼】 25 親友</p> <p>【D(22) よりよき生きる喜び】 26 緑色のシャープペンシル</p> <p>【C(11) 公正、公平、社会正義】 27 やっばり理屈は</p> <p>【A(3) 向上心、個性の伸張】 28 深めたい心</p> <p>【D(12) 感動、異郷の心】 29 木</p> <p>【D(19) 生命の尊厳】 30 エルマとおおきさんからの「最後の贈りもの」</p> <p>【内容項目を限定しない】 31 道徳の学びを振り返ろう</p> <p>【B(8) 友情、信頼】 32 いちばん高い崖の頂上</p> <p>【C(11) 遵法精神、公德心】 33 雨の日の扉</p>	<p>異性の友達と友情を育んできた生徒の物語を通して、性別等にとらわれない友情関係や信頼関係について考えさせ、友誼を大切にしていこうとする心情を育てる。</p> <p>友誼のシャープペンシルを拾った自分のものにしてしまったことを言いたいながらも、友誼を大切にしたい。心の弱さや強さを考えることと、友誼を大切にしたいこととする心情を育てる。</p> <p>不正な場面を見ず、偏見や差別のない態度を取った生徒を褒め、法やきまりを守るために大切にしてほしい。自分なりの考え方をもちよとする実践意欲と態度を育てる。</p> <p>百人一首大会でライバル関係にある生徒たちの物語を通して、自己を知り、向上心をもつて物事に取組む姿勢について考えさせ、自分のよさを伸ばしていこうとする実践意欲と態度を育てる。</p> <p>屋久島の原生林の樹干を描いた文章を通して、人はどうして感動しているのか、自然の美しさや自然の力や人の力を超えたものに感動がもたらされることを大切にしようとする心情を育てる。</p> <p>死を迎えようとする老人とそれを迎える等身大の文藝と写真を通して、尊厳ある生と死の在り方について考えさせ、命を大切に生きていこうとする心情を育てる。</p> <p>これまで記入した「学びの記録」や「ありがとう」の冊子に基づき、1年間の道徳で学んだことを振り返り、これからの学びの在り方について考えを深め、自分なりの学びの在り方について考えを深め、実践意欲と態度を育てる。</p> <p>画家の絵とモデルとの関係を描いた物語から、友達とはどんな存在かについて考えさせ、友達と信頼関係を築いていこうとする心情を育てる。</p> <p>急な雨の際、他人の傘を無断で借りにしてよいかどうかで迷う生徒の物語を通して、きまりを守ることを大切にしたい。公徳心について考えさせ、住みよき社会にするために、公徳心をもつて生活しようとする実践意欲と態度を育てる。</p>	<p>★友誼を大切にすることは、どういふこととだろ。 ◎「美」を返すとき、友誼を大切にしたいことと、友誼を大切にしたいこととを比べていこう。</p> <p>★心の弱さや強さを考えることとは、何だろう。 ◎「僕」の家に向かいながら、友誼を大切にしたいことと、友誼を大切にしたいこととを比べていこう。</p> <p>★正義や公正さについて、考えよ。 ◎「僕」は、どうして「やっばり」が、それだけの大切さや、それができなくなってしまうのか、友誼を大切にしたいことと、友誼を大切にしたいこととを比べていこう。</p> <p>★自分のよさを伸ばすために大切なことは、どんなこととだろ。 ◎美は、何かは自分を知って、自分のよさを伸ばすことと、自分のよさを伸ばすこととを比べていこう。</p> <p>★友達とお互いの「よさ」を見つめ合おう。 ◎自分では気づいていない「よさ」を知って、あなたはどんなことを思っていますか。</p> <p>★人は、どうして感動するのだろうか。 ◎筆者は、どんな思いで、屋久島の美しさや人の力を超えたものに感動がもたらされることを大切にしようとする心情を育てる。</p> <p>★「生き」とは、どういうこととだろ。 ◎エルマとおおきさんが、みんなに何を教えたか、ワークシートに自分の考えを書いていこう。</p> <p>★1年間の学びを振り返り、「ありがとう」の冊子を書こう。 ◎自己の成長や学びの振り返りについて考えようとしていこう。</p> <p>★友誼とは、どんな存在なのだろうか。 ◎ミレーは、どんな思いで、「二人」の絵は、なんと幸せな絵だろうか。と言ったのか、話し合おう。</p> <p>★住みよき社会を実現するために大切なことは、どんなこととだろ。 ◎「僕」は、どうして雨の中へ駆け出しているのか、話し合おう。</p>	<p>普通の生活における自分の友誼に対する態度や、友誼を大切にしたいことと、友誼を大切にしたいこととを比べていこう。</p> <p>「僕」の姿にふれ、自分の心の弱さや強さを見つめ、自分が心の弱さを乗り越えるために大切にしたいことについて考えようとしていこう。</p> <p>普通の生活における自分の友誼を見つめ、常に公正、公平な態度を取ることが大切さや、それができなくなってしまうのか、友誼を大切にしたいことと、友誼を大切にしたいこととを比べていこう。</p> <p>★自分の長所や短所などを見つめ、向上心や個性の伸張について、自分のことと、自分のこととを比べていこう。</p> <p>これらの自分の態度と照らし合わせながら、自然なものや人の力を超えたものに感動がもたらされることを大切にしようとする心情を育てる。</p> <p>普通の生活や自分の身の回りを振り返り、生命の尊厳について自分のことと、自分のこととを比べていこう。</p> <p>自分の1年間の道徳の学びを振り返りながら、自己の成長や学びの振り返りについて考えようとしていこう。</p> <p>教材に描かれている友達関係と、これまで自分について考えた友達と比べていこう。</p> <p>普通の生活の中で、きまりを守らなかつたことや、きまりを守らなかつたことについて、話し合おう。</p> <p>住みよき社会を実現するために大切なことは、どんなこととだろ。 ◎「僕」は、どうして雨の中へ駆け出しているのか、話し合おう。</p>
11月(4時間)	<p>【D(20) 自然環境】 21 「ソーセージ」の悲しい最後</p> <p>【C(17) 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度】 22 日本のお米</p> <p>【C(18) 国際理解、国際共生】 23 異文化の人々と共に生きる</p> <p>【D(22) よりよき生きる喜び】 24 撮れなかつた一枚の写真</p>	<p>観光客の身勝手な行動や原因で駆逐されてしまったヒトゲタのエビソウを通して、人と自然がよりよい関係を持てるために必要なことと、自然を尊重し、通年で自然を尊重しようとするための判断力を育てる。</p> <p>米や稲が日本の食文化や自然環境を支えていることを説明した文章を通して、伝統的な農業や文化について考えさせ、自分自身でできることをしていこうとする実践意欲と態度を育てる。</p> <p>日本と外国の人々の間に生じたギャップを認める事例を通して、異なる文化をもつ人どうしが共生していくために大切なことについて考えさせ、異文化を尊重し、理解し合おうとするための判断力を育てる。</p> <p>フォト・ジャーナリストの吉田ルイ子さんがベトナム戦争取材中に撮った一枚の写真を通して、ヒューマニズムや職業倫理について考えさせ、自分自身でできることを知り、自分らしく生きていこうとする心情を育てる。</p>	<p>★人と自然がよりよい関係を築くためには、どんな考えが必要だろうか。 ◎「ソーセージ」のように悲しい最後を迎える動物たちをなくすために、私たちはどんな考えをもち、どんな行動を取ればよいでしょう。</p> <p>★昔の日本人が大切にしていた伝統や文化について、私たちができるところから、自分自身でできることをしていこうとする実践意欲と態度を育てる。</p> <p>★異なる文化をもつ人々と共に生きていくために大切なことは、何だろうか。 ◎異なる文化をもつ人々と共に生きていくために大切なことについて考えさせ、異文化を尊重し、理解し合おうとするための判断力を育てる。</p> <p>★人としてよりよき生きることは、どういうこととだろ。 ◎「プロ」のフォト・ジャーナリストである前に、私は一人の普通の人間でありたい。」とは、どういうこととだろ。</p>	<p>【D(20) 自然環境】 21 「ソーセージ」の悲しい最後</p> <p>【C(17) 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度】 22 日本のお米</p> <p>【C(18) 国際理解、国際共生】 23 異文化の人々と共に生きる</p> <p>【D(22) よりよき生きる喜び】 24 撮れなかつた一枚の写真</p>	<p>【D(20) 自然環境】 21 「ソーセージ」の悲しい最後</p> <p>【C(17) 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度】 22 日本のお米</p> <p>【C(18) 国際理解、国際共生】 23 異文化の人々と共に生きる</p> <p>【D(22) よりよき生きる喜び】 24 撮れなかつた一枚の写真</p>	<p>観光客の身勝手な行動や原因で駆逐されてしまったヒトゲタのエビソウを通して、人と自然がよりよい関係を持てるために必要なことと、自然を尊重し、通年で自然を尊重しようとするための判断力を育てる。</p> <p>米や稲が日本の食文化や自然環境を支えていることを説明した文章を通して、伝統的な農業や文化について考えさせ、自分自身でできることをしていこうとする実践意欲と態度を育てる。</p> <p>日本と外国の人々の間に生じたギャップを認める事例を通して、異なる文化をもつ人どうしが共生していくために大切なことについて考えさせ、異文化を尊重し、理解し合おうとするための判断力を育てる。</p> <p>フォト・ジャーナリストの吉田ルイ子さんがベトナム戦争取材中に撮った一枚の写真を通して、ヒューマニズムや職業倫理について考えさせ、自分自身でできることを知り、自分らしく生きていこうとする心情を育てる。</p>		
12月(3時間)	<p>【D(22) よりよき生きる喜び】 24 撮れなかつた一枚の写真</p>	<p>フォト・ジャーナリストの吉田ルイ子さんがベトナム戦争取材中に撮った一枚の写真を通して、ヒューマニズムや職業倫理について考えさせ、自分自身でできることを知り、自分らしく生きていこうとする心情を育てる。</p>	<p>★人としてよりよき生きることは、どういうこととだろ。 ◎「プロ」のフォト・ジャーナリストである前に、私は一人の普通の人間でありたい。」とは、どういうこととだろ。</p>	<p>【D(22) よりよき生きる喜び】 24 撮れなかつた一枚の写真</p>	<p>【D(22) よりよき生きる喜び】 24 撮れなかつた一枚の写真</p>	<p>住みよき社会を実現するために大切なことは、どんなこととだろ。 ◎「僕」は、どうして雨の中へ駆け出しているのか、話し合おう。</p>		

1月(3時間)	<p>【B(8) 友情、信頼】 25 親友</p> <p>【D(22) よりよき生きる喜び】 26 緑色のシャープペンシル</p> <p>【C(11) 公正、公平、社会正義】 27 やっばり理屈は</p> <p>【A(3) 向上心、個性の伸張】 28 深めたい心</p>	<p>異性の友達と友情を育んできた生徒の物語を通して、性別等にとらわれない友情関係や信頼関係について考えさせ、友誼を大切にしていこうとする心情を育てる。</p> <p>友誼のシャープペンシルを拾った自分のものにしてしまったことを言いたいながらも、友誼を大切にしたい。心の弱さや強さを考えることと、友誼を大切にしたいこととする心情を育てる。</p> <p>不正な場面を見ず、偏見や差別のない態度を取った生徒を褒め、法やきまりを守るために大切にしてほしい。自分なりの考え方をもちよとする実践意欲と態度を育てる。</p> <p>百人一首大会でライバル関係にある生徒たちの物語を通して、自己を知り、向上心をもつて物事に取組む姿勢について考えさせ、自分のよさを伸ばしていこうとする実践意欲と態度を育てる。</p> <p>【A(3) 向上心、個性の伸張】 28 深めたい心</p> <p>【D(12) 感動、異郷の心】 29 木</p> <p>【D(19) 生命の尊厳】 30 エルマとおおきさんからの「最後の贈りもの」</p> <p>【内容項目を限定しない】 31 道徳の学びを振り返ろう</p>	<p>【B(8) 友情、信頼】 25 親友</p> <p>【D(22) よりよき生きる喜び】 26 緑色のシャープペンシル</p> <p>【C(11) 公正、公平、社会正義】 27 やっばり理屈は</p> <p>【A(3) 向上心、個性の伸張】 28 深めたい心</p> <p>【D(12) 感動、異郷の心】 29 木</p> <p>【D(19) 生命の尊厳】 30 エルマとおおきさんからの「最後の贈りもの」</p> <p>【内容項目を限定しない】 31 道徳の学びを振り返ろう</p> <p>【B(8) 友情、信頼】 32 いちばん高い崖の頂上</p> <p>【C(11) 遵法精神、公德心】 33 雨の日の扉</p>	<p>異性の友達と友情を育んできた生徒の物語を通して、性別等にとらわれない友情関係や信頼関係について考えさせ、友誼を大切にしていこうとする心情を育てる。</p> <p>友誼のシャープペンシルを拾った自分のものにしてしまったことを言いたいながらも、友誼を大切にしたい。心の弱さや強さを考えることと、友誼を大切にしたいこととする心情を育てる。</p> <p>不正な場面を見ず、偏見や差別のない態度を取った生徒を褒め、法やきまりを守るために大切にしてほしい。自分なりの考え方をもちよとする実践意欲と態度を育てる。</p> <p>百人一首大会でライバル関係にある生徒たちの物語を通して、自己を知り、向上心をもつて物事に取組む姿勢について考えさせ、自分のよさを伸ばしていこうとする実践意欲と態度を育てる。</p> <p>屋久島の原生林の樹干を描いた文章を通して、人はどうして感動しているのか、自然の美しさや自然の力や人の力を超えたものに感動がもたらされることを大切にしようとする心情を育てる。</p> <p>死を迎えようとする老人とそれを迎える等身大の文藝と写真を通して、尊厳ある生と死の在り方について考えさせ、命を大切に生きていこうとする心情を育てる。</p> <p>これまで記入した「学びの記録」や「ありがとう」の冊子に基づき、1年間の道徳で学んだことを振り返り、これからの学びの在り方について考えを深め、自分なりの学びの在り方について考えを深め、実践意欲と態度を育てる。</p> <p>画家の絵とモデルとの関係を描いた物語から、友達とはどんな存在かについて考えさせ、友達と信頼関係を築いていこうとする心情を育てる。</p> <p>急な雨の際、他人の傘を無断で借りにしてよいかどうかで迷う生徒の物語を通して、きまりを守ることを大切にしたい。公徳心について考えさせ、住みよき社会にするために、公徳心をもつて生活しようとする実践意欲と態度を育てる。</p>	<p>★友誼を大切にすることは、どういふこととだろ。 ◎「美」を返すとき、友誼を大切にしたいことと、友誼を大切にしたいこととを比べていこう。</p> <p>★心の弱さや強さを考えることとは、何だろう。 ◎「僕」の家に向かいながら、友誼を大切にしたいことと、友誼を大切にしたいこととを比べていこう。</p> <p>★正義や公正さについて、考えよ。 ◎「僕」は、どうして「やっばり」が、それだけの大切さや、それができなくなってしまうのか、友誼を大切にしたいことと、友誼を大切にしたいこととを比べていこう。</p> <p>★自分のよさを伸ばすために大切なことは、どんなこととだろ。 ◎美は、何かは自分を知って、自分のよさを伸ばすことと、自分のよさを伸ばすこととを比べていこう。</p> <p>★友達とお互いの「よさ」を見つめ合おう。 ◎自分では気づいていない「よさ」を知って、あなたはどんなことを思っていますか。</p> <p>★人は、どうして感動するのだろうか。 ◎筆者は、どんな思いで、屋久島の美しさや人の力を超えたものに感動がもたらされることを大切にしようとする心情を育てる。</p> <p>★「生き」とは、どういうこととだろ。 ◎エルマとおおきさんが、みんなに何を教えたか、ワークシートに自分の考えを書いていこう。</p> <p>★1年間の学びを振り返り、「ありがとう」の冊子を書こう。 ◎自己の成長や学びの振り返りについて考えようとしていこう。</p> <p>★友誼とは、どんな存在なのだろうか。 ◎ミレーは、どんな思いで、「二人」の絵は、なんと幸せな絵だろうか。と言ったのか、話し合おう。</p> <p>★住みよき社会を実現するために大切なことは、どんなこととだろ。 ◎「僕」は、どうして雨の中へ駆け出しているのか、話し合おう。</p>	<p>普通の生活における自分の友誼に対する態度や、友誼を大切にしたいことと、友誼を大切にしたいこととを比べていこう。</p> <p>「僕」の姿にふれ、自分の心の弱さや強さを見つめ、自分が心の弱さを乗り越えるために大切にしたいことについて考えようとしていこう。</p> <p>普通の生活における自分の友誼を見つめ、常に公正、公平な態度を取ることが大切さや、それができなくなってしまうのか、友誼を大切にしたいことと、友誼を大切にしたいこととを比べていこう。</p> <p>★自分の長所や短所などを見つめ、向上心や個性の伸張について、自分のことと、自分のこととを比べていこう。</p> <p>これらの自分の態度と照らし合わせながら、自然なものや人の力を超えたものに感動がもたらされることを大切にしようとする心情を育てる。</p> <p>普通の生活や自分の身の回りを振り返り、生命の尊厳について自分のことと、自分のこととを比べていこう。</p> <p>自分の1年間の道徳の学びを振り返りながら、自己の成長や学びの振り返りについて考えようとしていこう。</p> <p>教材に描かれている友達関係と、これまで自分について考えた友達と比べていこう。</p> <p>普通の生活の中で、きまりを守らなかつたことや、きまりを守らなかつたことについて、話し合おう。</p> <p>自分の1年間の道徳の学びを振り返り、「ありがとう」の冊子を書こう。 ◎自己の成長や学びの振り返りについて考えようとしていこう。</p> <p>★友誼とは、どんな存在なのだろうか。 ◎ミレーは、どんな思いで、「二人」の絵は、なんと幸せな絵だろうか。と言ったのか、話し合おう。</p> <p>★住みよき社会を実現するために大切なことは、どんなこととだろ。 ◎「僕」は、どうして雨の中へ駆け出しているのか、話し合おう。</p>
付録						

第2学年 特別の教科 道徳 年間指導計画 作成者 松坂 真吾

月	【主題名】 教材名 内容項目	ねらい	学習活動と主な発問	評価の視点	反省
1	道徳の授業を始めよう！	道徳で何を学ぶのか、どのように学ぶのか、なぜ学ぶのか、どうして学ぶのかについて考えていこう。1年間の道徳の学びの共通点を探し、これからの学びを広げたい、深めたい、これからの道徳を育てよう。	★1年間の道徳の時間の中で、特に学ばないことや学びたいことは、何だろうか。 ◎2年生として、この1年間で、特に学ばないこと、学びたいこと、伸ばしたいこと、深めたいこと、これからの道徳を育てよう。付箋に三つ書きしよう。	何を学ぶか、どのように学ぶか、なぜ学ぶかを踏まえ、なぜいっしょに学ぶのかについて、自分なりに考え、授業や大団にしたいことについて、自分なりに考え、実践意欲と態度を育てよう。	
4月(4時間)	【C(10)】よりい学校生活 集団生活の意義 2 テニス部の危機	テニス部の活動方針を巡って対立した生徒の姿を通して、集団の大切さを考え、集団生活に充実させるための判断力を育てる。	★集団の一員として、よりよくするために大切なことは、何だろうか。 ◎テニス部をよりよい集団にするために、白石君と木戸君は、この後、どんな行動を取ればよいだろうか。	自分が所属する集団に対する思いを見つめたり、役割人物の姿から自分の考えや言動を振り返り、集団の一員として、自分なりに考え、実践意欲と態度を育てよう。	
4月(4時間)	【A(1)】自主、自律、自由 3 カラカラカラ	電車の中で転がる空き缶を拾うか迷う主人公の姿を通して、自ら考え行動すること、自分自身に責任をもち、物事を自主的に考え、判断し、誠実に実行しようとする実践意欲と態度を育てる。	★自ら考え行動することは、どうだろうか。 ◎男の人の背中を目で追いかけていたとき、運動は、どんなことを考えていたのだろうか。	自分の経験を振り返り、自分自身や周囲の人々の姿から自分自身を見つめ、自分自身に責任をもち、物事を自主的に考え、判断し、誠実に実行しようとする実践意欲と態度を育てよう。	
5月(3時間)	【B(8)】友情、信頼 5 松葉づえ	クラスメートの言動を自己中心的にだと誤解した生徒の物語を通して、考えや立場の違いを尊重し合うために、どんなことが大切なのかを考えたとき、相手に対する思いや、自分自身に責任をもち、物事を自主的に考え、判断し、誠実に実行しようとする実践意欲と態度を育てる。	★「友情」とは、どういうものだろうか。 ◎伊藤君の言葉が「僕」は、どんなことを考えていたのだろうか。 3「学びの記録」に記入しよう。	自分自身や周囲の人々の姿から自分自身を見つめ、自分自身に責任をもち、物事を自主的に考え、判断し、誠実に実行しようとする実践意欲と態度を育てよう。	
5月(3時間)	【C(12)】社会参画、公共の精神 6 消防団	消防団に参加することで地域社会に貢献している巻出さんの姿を通して、地域のために活動すること、社会に貢献的に関わろうとする実践意欲と態度を育てる。	★社会の一員として地域や社会に関わろうには、どのような思いが大切だろうか。 ◎巻出さんは、どうして消防団の活動を続けているのだろうか。	自分自身や周囲の人々の姿から自分自身を見つめ、自分自身に責任をもち、物事を自主的に考え、判断し、誠実に実行しようとする実践意欲と態度を育てよう。	
6月(4時間)	【C(11)】公正、公平、社会正義 7 明日、みんな着よう	「ピンクシャツデー」といういろいろな反対運動を広げたいナダの生徒たちの実話を通して、誰もが安心して過ごせる社会にするために、自分自身に責任をもち、物事を自主的に考え、判断し、誠実に実行しようとする実践意欲と態度を育てる。	★誰もが安心して過ごせる社会にするためには、どんなことが大切だろうか。 ◎学校がピンク色で染まったことについて、前日にいじめられた男子生徒は、どんなことを思ったのだろうか。	自分自身や周囲の人々の姿から自分自身を見つめ、自分自身に責任をもち、物事を自主的に考え、判断し、誠実に実行しようとする実践意欲と態度を育てよう。	
6月(4時間)	【C(11)】公正、公平、社会正義 7 深めたいむ	「ピンクシャツデー」といういろいろな反対運動を広げたいナダの生徒たちの実話を通して、誰もが安心して過ごせる社会にするために、自分自身に責任をもち、物事を自主的に考え、判断し、誠実に実行しようとする実践意欲と態度を育てる。	★誰もが安心して過ごせる社会にするためには、どんなことが大切だろうか。 ◎学校がピンク色で染まったことについて、前日にいじめられた男子生徒は、どんなことを思ったのだろうか。	自分自身や周囲の人々の姿から自分自身を見つめ、自分自身に責任をもち、物事を自主的に考え、判断し、誠実に実行しようとする実践意欲と態度を育てよう。	
7月(2時間)	【A(2)】節度、節制 12 夢中になるのは悪いこと？	中高生を対象とした自由時間についての調査や、ネットゲームへの依存に関する新聞記事を通して、望ましい生活習慣について考えさせ、節度を守り、節制を心がけた生活を送ろうとする実践意欲と態度を育てる。	★中高生を対象とした自由時間についての調査や、ネットゲームへの依存に関する新聞記事を通して、望ましい生活習慣について考えさせ、節度を守り、節制を心がけた生活を送ろうとする実践意欲と態度を育てる。	中高生を対象とした自由時間についての調査や、ネットゲームへの依存に関する新聞記事を通して、望ましい生活習慣について考えさせ、節度を守り、節制を心がけた生活を送ろうとする実践意欲と態度を育てる。	
8月(1時間)	【A(2)】節度、節制 12 深めたいむ	中高生を対象とした自由時間についての調査や、ネットゲームへの依存に関する新聞記事を通して、望ましい生活習慣について考えさせ、節度を守り、節制を心がけた生活を送ろうとする実践意欲と態度を育てる。	★中高生を対象とした自由時間についての調査や、ネットゲームへの依存に関する新聞記事を通して、望ましい生活習慣について考えさせ、節度を守り、節制を心がけた生活を送ろうとする実践意欲と態度を育てる。	中高生を対象とした自由時間についての調査や、ネットゲームへの依存に関する新聞記事を通して、望ましい生活習慣について考えさせ、節度を守り、節制を心がけた生活を送ろうとする実践意欲と態度を育てる。	
9月(3時間)	【C(13)】勤労 14 役ボールベッドへの思い	災害の避難者の健康を考慮して設計図を無償で公表した会社の人話を通して、人にとっても働くことに意義があるのかを考えたとき、人々のために働くこととする実践意欲と態度を育てる。	★災害の避難者の健康を考慮して設計図を無償で公表した会社の人話を通して、人にとっても働くことに意義があるのかを考えたとき、人々のために働くこととする実践意欲と態度を育てる。	災害の避難者の健康を考慮して設計図を無償で公表した会社の人話を通して、人にとっても働くことに意義があるのかを考えたとき、人々のために働くこととする実践意欲と態度を育てる。	
9月(3時間)	【C(17)】尊厳、国を愛する態度 19 一枚の布から	夏祭りでのゆめゆめかたを著ることにしたことをきっかけに、日本の伝統文化である和服について興味をもった話を通して、伝統文化のよさを大切にし、自分自身に責任をもち、物事を自主的に考え、判断し、誠実に実行しようとする実践意欲と態度を育てる。	★夏祭りでのゆめゆめかたを著ることにしたことをきっかけに、日本の伝統文化である和服について興味をもった話を通して、伝統文化のよさを大切にし、自分自身に責任をもち、物事を自主的に考え、判断し、誠実に実行しようとする実践意欲と態度を育てる。	夏祭りでのゆめゆめかたを著ることにしたことをきっかけに、日本の伝統文化である和服について興味をもった話を通して、伝統文化のよさを大切にし、自分自身に責任をもち、物事を自主的に考え、判断し、誠実に実行しようとする実践意欲と態度を育てる。	

10月(4時間)	【C】(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 16私の町	新郷県上市の、郷土の祭りや町並みなどに対する生徒の思いを通して、郷土の伝統と文化を継承することに努めようとする実践意欲と態度を育てる。	★ふるさとを思う心について、考えよう。 ◎私たちの住む地域には、どんな伝統や文化があるでしょう。それらを守り継承させるために、何をできるでしょう。	村上天祭の「おしやぎ」や町屋に対する「私」の思いを理解し、自分なりの住む地域の伝統や文化を守り、発展させていくために、これからできることについて考えているか。	【D】(22) よりよき生活の喜び 25 年って、本当？	孟子の「性善説」と荀子の「性悪説」を通して、人の心もつ強きや弱き、自分よりよき生きようとする実践意欲と態度を育てる。
11月(4時間)	【D】(20) 自然環境 21 僕の仕事場は富士山です	富士山の美しい自然環境や、自然環境を守るために大切なことについて考えさせ、自然を愛し守ってほしいという思いを育てる。	★自然を守ることは、どういふことだろうか。 ◎毎日常に水が飲めるのを当たり前と、今の暮らしでは、どんなところが違うのだろうか。	「私」の思いにふれ、自分の思いや経験を振り返るときに、自分が大切にしていることについて、考えようとしているか。	★「私」の思いにふれ、自分の思いや経験を振り返るときに、自分が大切にしていることについて、考えようとしているか。	★「私」の思いにふれ、自分の思いや経験を振り返るときに、自分が大切にしていることについて、考えようとしているか。
12月(3時間)	【A】(3) 向上心、個性の伸長 24 輝く光線	将来の夢が見え、自信を築いている生徒の思いや思いを大切にしたいという思いを育てる。	★自分の「よさ」を見つめよう。 ◎空を見上げるとき、翔は、どんなことを考えていたでしょう。	自分の「よさ」を見つめよう。 ◎空を見上げるとき、翔は、どんなことを考えていたでしょう。	★夢をもつことは、人生を、どう生きていくのか。 ◎二條選手が信じている「夢の力」とは、どんな力だと思いますか。	★夢をもつことは、人生を、どう生きていくのか。 ◎二條選手が信じている「夢の力」とは、どんな力だと思いますか。

1月(3時間)	【A】(4) 希望と勇気、克己と強い意志 26 夢の力	【A】(4) 希望と勇気、克己と強い意志 26 夢の力	【A】(4) 希望と勇気、克己と強い意志 26 夢の力	【A】(4) 希望と勇気、克己と強い意志 26 夢の力	【A】(4) 希望と勇気、克己と強い意志 26 夢の力	【A】(4) 希望と勇気、克己と強い意志 26 夢の力
2月(3時間)	【C】(11) 公正、公平、社会正義 29 クロスプレー	【C】(11) 公正、公平、社会正義 29 クロスプレー	【C】(11) 公正、公平、社会正義 29 クロスプレー	【C】(11) 公正、公平、社会正義 29 クロスプレー	【C】(11) 公正、公平、社会正義 29 クロスプレー	【C】(11) 公正、公平、社会正義 29 クロスプレー
3月(2時間)	【A】(2) 節度、節制 32 箱根駅伝に挑む	【A】(2) 節度、節制 32 箱根駅伝に挑む	【A】(2) 節度、節制 32 箱根駅伝に挑む	【A】(2) 節度、節制 32 箱根駅伝に挑む	【A】(2) 節度、節制 32 箱根駅伝に挑む	【A】(2) 節度、節制 32 箱根駅伝に挑む
付録	【A】(4) 希望と勇気、克己と強い意志 33 アイヌの歌を歌いたい	【A】(4) 希望と勇気、克己と強い意志 33 アイヌの歌を歌いたい	【A】(4) 希望と勇気、克己と強い意志 33 アイヌの歌を歌いたい	【A】(4) 希望と勇気、克己と強い意志 33 アイヌの歌を歌いたい	【A】(4) 希望と勇気、克己と強い意志 33 アイヌの歌を歌いたい	【A】(4) 希望と勇気、克己と強い意志 33 アイヌの歌を歌いたい

令和4年度

道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業報告集

令和5年4月

編集・発行 青森県道徳教育推進協議会

